

平成 30 年度
知床国立公園適正利用等検討業務
報告書

平成 31 年 3 月

北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
環境コンサルタント株式会社

平成 31 年 3 月 22 日

分任支出負担行為担当官
北海道地方環境事務所
釧路自然環境事務所長 安田 直人 様



北海道釧路郡釧路町中央 6 丁目 1 5 番地 2
環境コンサルタント株式会社

代表取締役 濱口 憲太

TEL 0154-40-2331

FAX 0154-40-3754

平成 30 年度 知床国立公園適正利用等検討業務

今回ご依頼を賜りました標題の調査業務につきまして、別紙の通り報告書を提出致しますので、宜しく御査収頂きますようお願い申し上げます。

なお、この度の当社の業務担当者は下記の通りでございますので、報告内容についてのご質問、お問い合わせ等は下記担当者までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

主任技術者	秋元	明美
担当技術者	田村	由紀
担当技術者	富永	陽子

検 査	承 認

目 次

1 業務概要	1
1-1 業務名	1
1-2 業務の背景と目的	1
1-3 業務期間	2
1-4 業務内容	2
1-5 委託者	3
1-6 受託者	3
2 知床国立公園の利用状況調査	4
2-1 知床国立公園の利用状況調査	4
2-2 知床国立公園全体の利用状況	7
2-3 知床国立公園利用状況調査項目	8
2-4 斜里町及び羅臼町の観光入込者数	9
2-5 主要利用拠点における利用者数	13
2-6 観光船・シーカヤック・サケマス釣りの利用者数	39
2-7 主要施設の利用状況	48
3 知床世界自然遺産地域長期モニタリングに関する検討	57
3-1 検討内容	57
3-2 検討結果	58
3-3 学識経験者等ヒアリング	68
4 エコツーリズム検討会議及びエコツーリズム WG の運営	88
4-1 エコツーリズム検討会議及び エコツーリズム WG の運営	88
4-2 エコツーリズム検討会議及び エコツーリズム WG の開催概要	94

資料編

1) 業務実施計画書

別冊

資料集

- 1) 第1回適正利用・エコツーリズム WG 会議資料一式
- 2) 第1回適正利用・エコツーリズム WG 議事録
- 3) 第1回適正利用・エコツーリズム検討会議 会議資料一式
- 4) 第1回適正利用・エコツーリズム検討会議 議事録
- 5) 第2回適正利用・エコツーリズム WG 会議資料一式
- 6) 第2回適正利用・エコツーリズム WG 議事録
- 7) 第2回適正利用・エコツーリズム検討会議 会議資料一式
- 8) 第2回適正利用・エコツーリズム検討会議 議事録

1 業務概要

1-1 業務名

平成 30 年度 知床国立公園適正利用等検討業務

1-2 業務の背景と目的

知床国立公園では、原始性の高い自然や野生動物とのふれあいを求める利用ニーズの増大と、多様化に伴う自然環境への悪影響が懸念されている。平成 23 年度から、知床五湖地区において、利用調整地区の導入による利用のコントロールを実施しているが、知床国立公園のその他の利用拠点である知床連山地区、羅臼湖地区及び知床半島先端部地区においても、利用者の増加による自然環境や自然体験の質への悪影響及び野生動物との軋轢等が懸念されている。また、近年、体験利用の増加等、利用形態の多様化が進んでいるとともに、海域レクリエーション利用における野生動物への悪影響も指摘されており、知床国立公園の利用者数及びその推移の把握が必要である。

このような状況に対応するため、環境省では、関係機関と協力して知床国立公園の適正な利用と保護のあり方について検討してきた。平成 22 年度には知床世界自然遺産地域科学委員会適正利用・エコツーリズムワーキンググループ（以下、「エコツーリズム WG」という。）及び知床世界自然遺産地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会の合同開催による知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議（以下、「エコツーリズム検討会議」という。）が設置され、知床国立公園を含む知床世界自然遺産の適正な利用のあり方について検討することとなった。そのうち、エコツーリズム検討会議においては、主要拠点における利用者数に加え、利用による自然環境への影響に関してもモニタリングする必要性が指摘されており、これまで環境省等が実施した利用者数調査の評価と調査体制の再検討が求められている。

本業務は、知床国立公園の適正な利用のあり方等の検討を進めるため、エコツーリズム検討会議を運営するとともに、知床国立公園の利用状況を調査するほか、知床世界自然遺産地域長期モニタリングの利用に関する項目について検討等を行うことを目的とする。

1-3 委託期間

平成 30 年 6 月 19 日～平成 31 年 3 月 22 日

1-4 業務内容

(1) 請負業務実施計画書の作成及び提出、業務打ち合わせの実施

- ・ 業務打ち合わせ（全 5 回）
業務開始時 1 回
専門家ヒアリング時 4 回
その他電話、メールでの打ち合わせ 随時

(2) 知床国立公園の利用状況調査

- ・ 斜里町及び羅臼町の観光入込み数
- ・ 主要利用拠点における利用者数等
- ・ 観光船、シーカヤック、釣り船（サケ・マス釣り）の利用者数
- ・ 主要施設の利用者数

(3) 知床世界自然遺産地域長期モニタリングに関する検討

過去に抽出された課題及びエコツーリズム検討会議等の議論、専門家からのヒアリングによるモニタリング項目の評価基準、評価手法、モニタリング手法及びモニタリング体制等の検討

(4) エコツーリズム検討会議及びエコツーリズム WG の運営

知床世界自然遺産地域の適正な利用及びエコツーリズムの推進に係る議論、(3)の検討に係る議論等を行うエコツーリズム検討会議及びエコツーリズム WG の運営及び結果のとりまとめ（事務局：環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道）

- ・ エコツーリズム検討会議の開催 2 回
- ・ エコツーリズム WG の開催 2 回（エコツーリズム検討会議と同日に開催）
- ・ 開催案内の発送及び出欠のとりまとめ
- ・ 資料作成補助 4 回
- ・ 資料印刷 65 部 2 回、45 部 2 回
- ・ 会場準備 2 回
- ・ 議事録作成 4 回
- ・ 謝金等支払い WG 委員のべ 10 人
- ・ ニュースレターの作成 印刷・配布 1 回、原稿作成 1 回

1-5 委託者

環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所

担当官 羅 白 自然保護官事務所 守 容 平

担当官 国 立 公 園 課 高辻 陽介

担当官 ウトロ自然保護官事務所 山本 豊

1-6 受託者

環境コンサルタント株式会社

北海道釧路郡釧路町中央 6-15-2 電話 0154-40-2331

主任技術者 環境技術部 秋元 明美

担当技術者 環境技術部 田村 由紀

担当技術者 環境技術部 富永 陽子

2 知床国立公園の利用状況調査

2-1 知床国立公園の利用状況調査

平成 30 年の知床国立公園及びその周辺地域の利用者数について、データ収集、解析（世界自然遺産地域登録以前や前年度のデータの比較・考察、特記すべき事項の抽出等）及びとりまとめを行った。とりまとめは年単位で行い、体裁については事前に環境省担当官と調整を行った。

データ収集項目及びその手法については以下のとおりとした。

(1) 斜里町及び羅臼町の観光入込み数

斜里町商工観光課、羅臼町産業創生課へのヒアリングによりデータ収集を行った。

(2) 主要利用拠点における利用者数

知床五湖、カムイワッカ、フレペの滝、知床連山、羅臼湖、熊越えの滝、知床岬・知床岳等の主要利用拠点について、入山カウンターデータ、入林簿及び関係団体へのヒアリングから、平成 30 年の利用者数等を収集し、解析及びとりまとめを行った。

i) 入山カウンターデータ

知床五湖、カムイワッカ、フレペの滝、知床連山（岩尾別登山口、硫黄山登山口）の入山カウンターデータについては、環境省から提供される利用者データを集計し、入林簿等による欠測データへの補填や異常値削除等の補正を行った上で、環境省より提供された捕捉率を用いて誤差修正作業を実施し、利用者数の算出を行った。

収集した利用者数等は、月ごとに電子データ化し、環境省担当官への送付を行った。

ii) 入林簿

入林簿については、環境省担当官を通じて森林管理署よりデータ収集を行い、利用者数の算出を行った。また、岩尾別口～知床連山については縦走利用者数の算出を行った。

入林簿収集地点：岩尾別登山口、羅臼温泉登山口～知床連山、羅臼湖及び相泊

iii) 知床五湖園地の駐車台数

関係団体からのヒアリングによりデータ収集を行った。

(3) 観光船、シーカヤック、釣り船（サケ・マス釣り）の利用者数

事業者等へ電話等でのヒアリングを実施し、データ収集を行った。

(4) 主要施設の利用者数

《主要施設の利用者数》

以下の施設について、関係団体へのヒアリングによりデータの収集を行った。

- ・ 知床自然センター
- ・ 羅臼ビジターセンター
- ・ 知床世界遺産センター
- ・ 知床世界遺産ルサフィールドハウス
- ・ 道の駅 しゅり

- ・道の駅 うとろ・シリエトク
- ・道の駅 知床・らうす
- ・知床森林生態系保全センター
- ・知床ボランティア活動施設
- ・知床博物館

(5) 調査結果

知床世界自然遺産地域の利用状況については、昨年の利用者数と比較して増加している箇所がある一方、減少している箇所もある。(図 2-1) カムイワッカ来訪者、知床沼、ウトロ地区観光船、シーカヤック等の利用者が減少しており、平成 30 年 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震の影響が一部であったと考えられる。

観光客入込数については、昨年と比較すると斜里町では 6%減であった。また、羅臼町のデータは現時点(平成 31 年 3 月 20 日)では把握することができなかった。(表 2-2, 表 2-3)。

主要利用拠点の利用状況は以下のとおりである。

知床五湖地域については、知床五湖園地全体の利用者数は昨年比 6%減、(表 2-4) 知床五湖高架木道の利用者は昨年比 9%減(表 2-5) 地上遊歩道の利用者数は昨年比 5%減であった。知床五湖の冬季利用者数は昨年比で 2%減であった(表 2-6) が、これはツアー催行日数が昨年の 60 日間から 49 日間と減少しているためであり、日平均利用者数は過去最高の 47 人であった。

カムイワッカ地域においては、シャトルバスの利用者数(カムイワッカ以外の利用も含む)は昨年比 73%増(表 2-7)となった。カムイワッカ来訪者数は昨年比 26%減(表 2-8)、ホロベツ地区については、フレペの滝の利用者数が昨年比 8%減(表 2-9)であった。

知床連山地域については、利用者数が平成 28 年比(平成 29 年一部データ欠測のため)で増減なし(表 2-10)となった。

羅臼湖地域については、羅臼湖登山道利用者数が昨年比で増減なし。平成 28 年比(平成 29 年一部データ欠測のため)で 3%減(表 2-11)であった。

熊越えの滝利用者数は平成 28 年比(平成 29 年データ欠測のため)10%増であり、平成 25 年より増加傾向(図 2-13)が続いている。これはガイドツアーの増加が要因の一つと考える。

知床岬、知床沼、知床岳地域については、平成 28 年比(平成 29 年データ欠測のため)知床沼方面 50%減、知床岬方面 30%増(図 2-14)であった。

入山カウンター、入林簿等の整理を行い、岩尾別登山口及び羅臼温泉登山口、硫黄山登山口の入山者等についてとりまとめを行った。各登山口における入山者数を昨年と比較すると、岩尾別は 17%減、羅臼温泉は 7%減、硫黄山は 7%増であり、全体では 14%減の利用であった。縦走利用者数を昨年と比較すると、岩尾別は 5%増、羅臼温泉は 18%増、硫黄山は内訳データの入手ができなかったため不明(表 2-14)であった。

観光船の利用者数については、ウトロ地区が昨年比 14%減（表 2-27）、羅臼地区が昨年比 12%増（表 2-28）となっている。特に羅臼地区観光船については、利用者数の増加が顕著であり、本年初めて利用者数が 3 万人を越えた。メディア等で度々取り上げられていること等が要因の一つと考える。シーカヤック利用者数については、昨年より 30%減（表 2-29）となっている。ウトロ地区観光船利用者及びシーカヤック利用者については、本調査による回答率が低いとため、実際の利用者数は把握できていない可能性がある。

ウトロ地区沖秋さけライセンス遊漁者数は昨年比 2%減（表 2-30）である。羅臼地区サケマス釣り利用者数は昨年比 17%増（表 2-31）であり、2 年連続で増加している。これはその年の魚類資源量により利用者数が増減していると考えられる。

知床自然センターの入館者数は昨年比 13%増（表 2-32）と 3 年連続で増加傾向である。映像ホール（旧ダイナビジョン）利用者数も 29%増（表 2-33）となった。羅臼ビジターセンター利用者数は昨年比 6%増（表 2-34）と平成 25 年以降増加傾向が続いている。知床世界遺産センター利用者数は昨年比 1%減（表 2-35）、知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数は昨年比 15%増（表 2-36）と過去最高の 9,132 人であった。

道の駅利用者数については、羅臼が昨年比 2%減、斜里が 5%減、ウトロが 1%増（表 2-37）であった。森林センター・ボランティア活動施設利用者数は昨年比 53%減（表 2-38）であったが、これは開館期間が今年の 12 ヶ月間に対し、今年は 5 ヶ月間程度であったためだと考えられる。知床博物館利用者数は昨年比 3%減（表 2-40）であった。

2-2 知床国立公園全体の利用状況

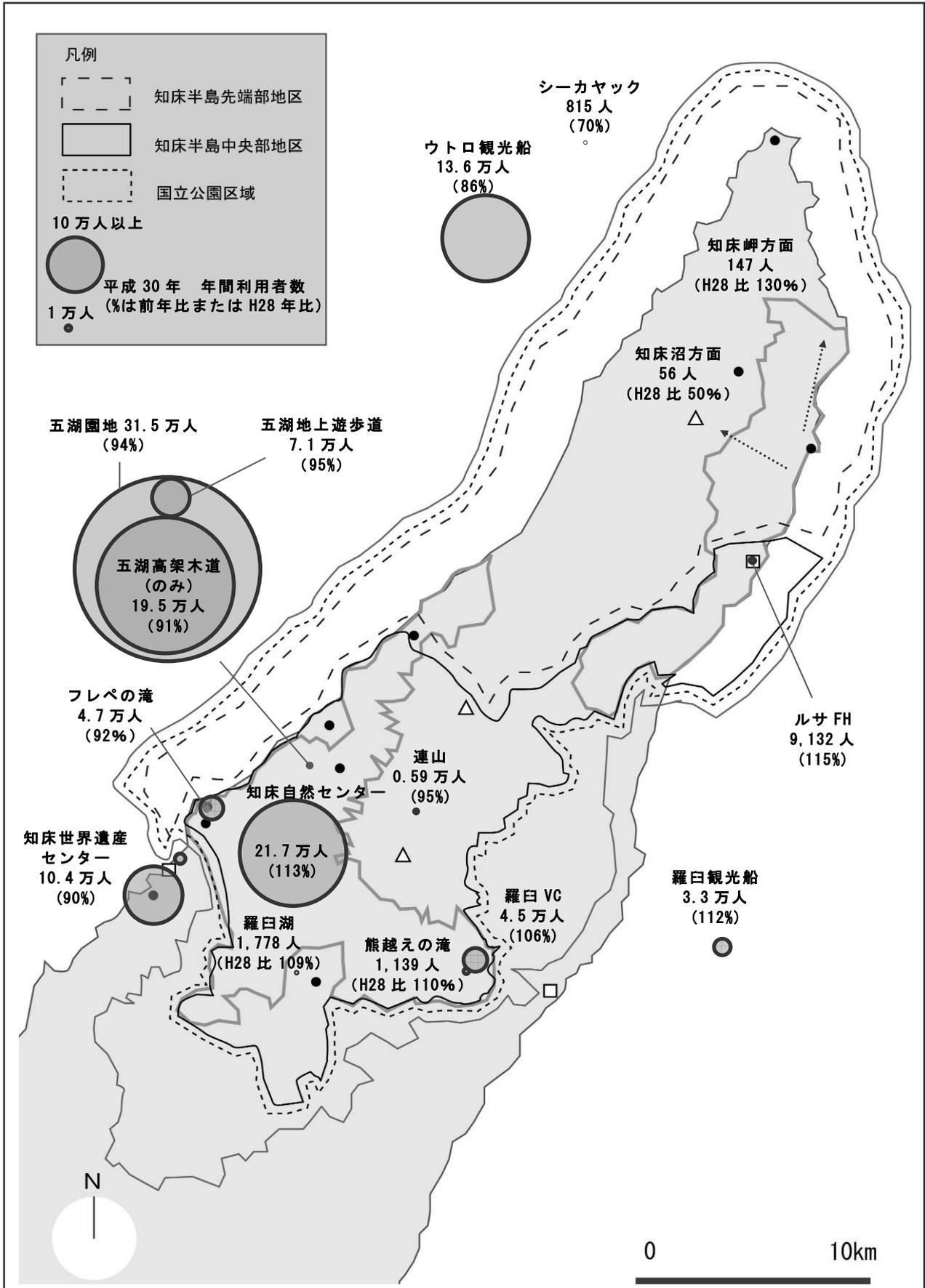


図 2-1 知床公園全体の利用状況

2-3 知床国立公園利用状況調査項目

表 2-1 知床国立公園利用状況調査項目一覧表

調査項目		整理番号	調査項目詳細	表No.	図No.
2-2	知床国立公園全体の利用状況			-	2-1
2-3	知床国立公園利用状況調査 調査項目一覧表			2-1	-
2-4	斜里町及び羅臼町の観光入込者数		2-4-(1) 斜里町観光入込数	2-2	2-2
			2-4-(2) 羅臼町観光入込数	2-3	2-3
2-5	主要利用拠点における利用者数	(1) 知床五湖地域	2-5-(1) i 五湖園地全体利用者数(駐車場利用者数+シャトルバス五湖利用者数)	2-4	2-4~2-5
			2-5-(1) ii 高架木道・地上遊歩道利用者数	2-5	2-6
			2-5-(1) iii 冬季利用者数	2-6	2-7
		(2) カムイワッカ地域	2-5-(2) i シャトルバス利用者数(カムイワッカ以外の利用を含む)	2-7	2-8
			2-5-(2) ii カムイワッカ来訪者数	2-8	2-9
		(3) ホロベツ地区	2-5-(3) フレベの滝利用者数(フレベの滝カウンター調査)	2-9	2-10
		(4) 知床連山地域	2-5-(4) 連山登山道利用者数(岩尾別、硫黄山、湯ノ沢カウンター調査)	2-10	2-11
		(5) 羅臼湖地域	2-5-(5) i 羅臼湖登山道利用者数(羅臼湖カウンター調査)	2-11	2-12
			2-5-(5) ii 熊越えの滝利用者数(熊越えの滝カウンター調査)	2-12	2-13
		(6) 知床岬、知床沼、知床岳地域	2-5-(6) 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数(ウナキベツ・観音岩カウンター調査)	2-13	2-14
		(7) 入山カウンター、入林簿等整理	2-5-(7) i 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入林簿等からの入山数とそのうちの縦走利用者数	2-14	2-15~2-16
			2-5-(7) ii 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入林簿等からの月別縦走利用者数	2-15	2-17~2-19
			2-5-(7) iii 縦走利用者の各登山口の入林簿からの入下山者数	2-16	-
			2-5-(7) iv 入林簿からの縦走利用者滞在日数	2-17	2-20
			2-5-(7) v 各キャンプ地の入山簿からの縦走利用宿泊者数	2-18	2-21
			2-5-(7) vi 縦走利用者数の推移について	2-19~2-23	2-22~2-24
			2-5-(7) vii カウンターデータとの関係	2-24	-
			2-5-(7) viii 滞在日数の変化について	2-25	-
			2-5-(7) ix 野営の利用状況	2-26	-
2-6	釣り船、シーカヤック、観光船の利用者数	(1) 観光船利用者数	2-6-(1) i ウトロ地区観光船利用者数	2-27	2-25
			2-6-(1) ii 羅臼地区観光船利用者数	2-28	2-26
		(2) シーカヤック利用者数	2-6-(2) シーカヤック利用者数	2-29	2-27
		(3) サケ・マス釣り利用者数	2-6-(3) i サケ・マス釣り利用者数 ウトロ	2-30	2-28
			2-6-(3) ii サケ・マス釣り利用者数 羅臼	2-31	2-29
2-6-(3) iii サケ・マス釣り利用者数 羅臼グラフ	-		2-30~2-41		
2-7	主要施設の利用者数	(1) -	2-7-(1) 知床自然センター利用者数	2-32	2-42
		(2) -	2-7-(2) 知床自然センターダイナビジョン利用者数(団体・個人)	2-33	2-43~2-44
		(3) -	2-7-(3) 羅臼ビジターセンター利用者数	2-34	2-45
		(4) -	2-7-(4) 知床世界遺産センター利用者数	2-35	2-46
		(5) -	2-7-(5) 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数	2-36	2-47
		(6) -	2-7-(6) 道の駅利用者数(道の駅知床・らうす、道の駅・しゃり、道の駅ウトロ・シリエトク)	2-37	2-48
		(7) -	2-7-(7) 森林センター・ボランティア活動施設利用者数	2-38~2-39	2-49~2-50
		(8) -	2-7-(8) 知床博物館利用者数	2-40	2-51

2-4 斜里町及び羅臼町の観光入込数

(1) 斜里町観光入込数

表 2-2 斜里町観光入込数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成13年	① 日帰り利用者数(人)	5,743	85,528	57,698	15,951	35,462	79,738	147,702	234,253	176,851	179,598	9,175	13,804	1,041,503
	② 宿泊利用者数(人)	23,127	49,190	36,791	21,986	52,503	71,774	84,100	89,868	76,857	66,566	27,839	14,146	614,747
	③ 入込数合計(人)	28,870	134,718	94,489	37,937	87,965	151,512	231,802	324,121	253,708	246,164	37,014	27,950	1,656,250
平成14年	① 日帰り利用者数(人)	5,583	88,746	52,772	16,837	35,858	75,517	136,395	219,864	179,994	174,970	8,590	13,869	1,008,995
	② 宿泊利用者数(人)	22,483	51,041	33,650	23,207	53,090	67,975	77,662	84,348	78,223	64,851	26,063	13,747	596,340
	③ 入込数合計(人)	28,066	139,787	86,422	40,044	88,948	143,492	214,057	304,212	258,217	239,821	34,653	27,616	1,605,335
平成15年	① 日帰り利用者数(人)	5,400	82,454	51,329	13,132	35,675	77,229	144,961	223,669	169,373	155,792	6,617	15,673	981,304
	② 宿泊利用者数(人)	21,750	47,422	32,730	18,100	52,819	69,516	82,539	87,726	73,607	57,743	20,077	15,536	579,565
	③ 入込数合計(人)	27,150	129,876	84,059	31,232	88,494	146,745	227,500	311,395	242,980	213,535	26,694	31,209	1,560,869
平成16年	① 日帰り利用者数(人)	4,206	79,149	51,953	12,924	37,080	71,552	132,369	223,980	174,704	167,221	8,311	14,889	978,338
	② 宿泊利用者数(人)	16,939	45,521	33,128	17,813	54,900	64,406	75,369	87,726	75,924	66,539	25,219	14,759	578,243
	③ 入込数合計(人)	21,145	124,670	85,081	30,737	91,980	135,958	207,738	311,706	250,628	233,760	33,530	29,648	1,556,581
平成17年	① 日帰り利用者数(人)	4,666	87,581	55,140	12,117	31,719	70,421	140,630	273,256	218,380	206,918	9,941	13,047	1,123,816
	② 宿泊利用者数(人)	18,793	50,371	35,160	16,701	46,963	63,388	80,073	93,819	85,084	74,762	30,166	12,933	608,213
	③ 入込数合計(人)	23,459	137,952	90,300	28,818	78,682	133,809	220,703	367,075	303,464	281,680	40,107	25,980	1,732,029
平成18年	① 日帰り利用者数(人)	4,222	71,258	48,562	12,542	36,627	77,741	139,982	245,930	202,246	194,627	8,495	13,100	1,055,332
	② 宿泊利用者数(人)	17,004	40,983	30,966	19,778	54,230	75,379	80,894	92,870	78,798	70,321	25,778	14,115	601,116
	③ 入込数合計(人)	21,226	112,241	79,528	32,320	90,857	153,120	220,876	338,800	281,044	264,948	34,273	27,215	1,656,448
平成19年	① 日帰り利用者数(人)	4,004	64,132	37,154	11,348	29,754	64,642	125,166	228,383	172,566	159,275	7,960	11,828	916,212
	② 宿泊利用者数(人)	16,126	35,274	23,692	17,896	44,054	62,678	72,332	86,244	67,234	57,548	24,156	12,745	519,979
	③ 入込数合計(人)	20,130	99,406	60,846	29,244	73,808	127,320	197,498	314,627	239,800	216,823	32,116	24,573	1,436,191
平成20年	① 日帰り利用者数(人)	4,117	64,533	37,276	9,519	28,654	57,896	105,576	199,531	162,979	147,650	8,599	11,061	837,391
	② 宿泊利用者数(人)	16,581	35,495	23,770	15,012	42,426	56,137	61,011	75,349	63,499	53,348	26,098	11,919	480,645
	③ 入込数合計(人)	20,698	100,028	61,046	24,531	71,080	114,033	166,587	274,880	226,478	200,998	34,697	22,980	1,318,036
平成21年	① 日帰り利用者数(人)	3,869	52,217	38,409	9,735	23,867	44,137	97,290	186,441	150,146	132,535	7,735	12,325	758,706
	② 宿泊利用者数(人)	15,583	28,721	24,493	15,354	35,338	42,796	56,223	70,406	58,499	47,887	23,476	16,104	434,880
	③ 入込数合計(人)	19,452	80,938	62,902	25,089	59,205	86,933	153,513	256,847	208,645	180,422	31,211	28,429	1,193,586
平成22年	① 日帰り利用者数(人)	4,025	57,871	37,675	9,769	22,241	44,695	100,591	195,918	153,795	131,489	7,231	9,494	774,794
	② 宿泊利用者数(人)	20,592	34,493	24,025	15,409	32,931	43,337	58,146	73,985	59,921	47,509	21,945	12,406	444,699
	③ 入込数合計(人)	24,617	92,364	61,700	25,178	55,172	88,032	158,737	269,903	213,716	178,998	29,176	21,900	1,219,493
平成23年	① 日帰り利用者数(人)	3,198	55,021	32,527	9,238	19,442	40,754	91,342	204,442	155,548	129,532	7,092	9,585	757,721
	② 宿泊利用者数(人)	16,363	32,796	20,742	14,572	28,787	39,516	52,800	77,204	60,604	46,802	21,526	14,220	425,932
	③ 入込数合計(人)	19,561	87,817	53,269	23,810	48,229	80,270	144,142	281,646	216,152	176,334	28,618	23,805	1,183,653
平成24年	① 日帰り利用者数(人)	3,820	54,356	30,176	8,251	21,772	45,867	105,294	212,211	159,324	154,067	7,649	9,220	812,007
	② 宿泊利用者数(人)	19,547	32,400	19,243	13,015	32,237	44,474	60,865	80,138	62,075	55,667	23,218	13,678	456,557
	③ 入込数合計(人)	23,367	86,756	49,419	21,266	54,009	90,341	166,159	292,349	221,399	209,734	30,867	22,988	1,268,564
平成25年	① 日帰り利用者数(人)	3,535	49,897	29,679	8,094	19,244	47,685	106,457	207,135	151,452	142,783	8,223	9,126	783,310
	② 宿泊利用者数(人)	18,088	29,742	18,926	12,767	28,494	46,237	61,537	80,703	59,008	51,590	24,960	13,539	445,591
	③ 入込数合計(人)	21,623	79,639	48,605	20,861	47,738	93,922	167,994	287,838	210,460	194,373	33,183	22,665	1,228,901
平成26年	① 日帰り利用者数(人)	3,501	43,433	31,427	8,895	17,515	41,777	104,557	190,462	149,275	117,799	7,563	8,705	724,909
	② 宿泊利用者数(人)	17,914	25,889	20,041	14,031	25,934	40,508	60,439	74,207	58,160	42,563	22,957	12,914	415,557
	③ 入込数合計(人)	21,415	69,322	51,468	22,926	43,449	82,285	164,996	264,669	207,435	160,362	30,520	21,619	1,140,466
平成27年	① 日帰り利用者数(人)	2,989	47,340	30,842	9,615	22,610	46,036	110,027	199,417	153,903	126,965	7,830	10,450	768,024
	② 宿泊利用者数(人)	15,292	28,218	19,668	15,166	33,478	44,638	63,601	77,696	59,963	45,875	23,766	15,502	442,863
	③ 入込数合計(人)	18,281	75,558	50,510	24,781	56,088	90,674	173,628	277,113	213,866	172,840	31,596	25,952	1,210,887
平成28年	① 日帰り利用者数(人)	3,757	57,302	32,252	11,145	24,996	44,609	108,091	192,454	142,489	118,903	6,915	9,677	752,590
	② 宿泊利用者数(人)	19,223	34,156	20,567	17,580	37,011	43,254	62,482	74,983	55,516	42,962	20,989	14,355	443,078
	③ 入込数合計(人)	22,980	91,458	52,819	28,725	62,007	87,863	170,573	267,437	198,005	161,865	27,904	24,032	1,195,668
平成29年	① 日帰り利用者数(人)	3,833	50,981	33,671	8,974	23,284	46,031	108,387	196,535	143,123	128,889	8,086	10,648	762,442
	② 宿泊利用者数(人)	19,611	30,388	21,472	14,155	34,477	44,633	62,653	76,573	55,763	46,570	24,543	15,795	446,633
	③ 入込数合計(人)	23,444	81,369	55,143	23,129	57,761	90,664	171,040	273,108	198,886	175,459	32,629	26,443	1,209,075
平成30年	① 日帰り利用者数(人)	3,546	55,179	36,293	10,348	23,639	48,222	105,548	193,319	111,292	109,156	6,674	10,213	713,429
	② 宿泊利用者数(人)	18,138	32,890	23,144	16,322	35,002	46,757	61,012	75,320	43,361	39,440	20,256	15,150	426,792
	③ 入込数合計(人)	21,684	88,069	59,437	26,670	58,641	94,979	166,560	268,639	154,653	148,596	26,930	25,363	1,140,221
入込数合計 前年比		92%	108%	108%	115%	102%	105%	97%	98%	78%	85%	83%	96%	94%
入込数合計 世界遺産登録前比 (平成16年比)		103%	71%	70%	87%	64%	70%	80%	86%	62%	64%	80%	86%	73%
入込数合計 ピーク年比 (平成17年比)		92%	64%	66%	93%	75%	71%	75%	73%	51%	53%	67%	98%	66%

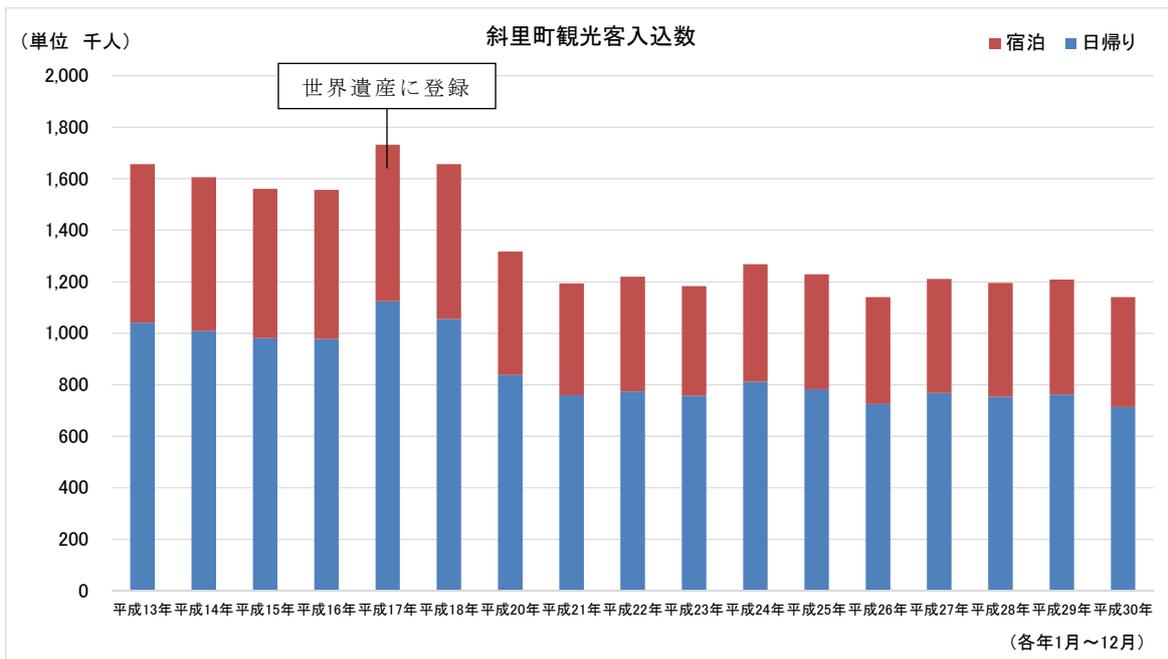


図 2-2 斜里町観光入込数

データ提供：斜里町商工観光課

コメント：前年比 6%減の入込数となっている。

(2) 羅臼町観光入込者数

表 2-3 羅臼町観光入込者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成14年	① 日帰り利用者数(人)	2,298	2,753	4,272	16,989	53,892	64,385	107,661	146,942	107,767	46,930	2,922	2,917	559,728
	② 宿泊利用者数(人)	1,147	2,804	1,220	1,273	2,973	4,895	20,124	37,304	23,301	8,000	1,450	1,116	105,607
	③ 入込数合計(人)	3,445	5,557	5,492	18,262	56,865	69,280	127,785	184,246	131,068	54,930	4,372	4,033	665,335
平成15年	① 日帰り利用者数(人)	2,577	3,688	4,047	10,650	45,530	55,291	122,158	165,943	108,023	51,516	4,291	4,279	577,993
	② 宿泊利用者数(人)	1,050	2,025	1,450	1,300	1,916	4,977	22,156	35,068	21,424	6,819	1,383	1,159	100,727
	③ 入込数合計(人)	3,627	5,713	5,497	11,950	47,446	60,268	144,314	201,011	129,447	58,335	5,674	5,438	678,720
平成16年	① 日帰り利用者数(人)	2,811	4,546	4,097	8,471	72,902	47,037	125,684	157,165	104,911	55,423	3,707	3,563	590,317
	② 宿泊利用者数(人)	797	2,324	1,862	1,711	2,735	6,500	25,878	43,269	27,109	7,761	2,225	1,855	124,026
	③ 入込数合計(人)	3,608	6,870	5,959	10,182	75,637	53,537	151,562	200,434	132,020	63,184	5,932	5,418	714,343
平成17年	① 日帰り利用者数(人)	2,244	3,842	4,963	9,891	55,893	60,498	146,037	152,247	111,079	57,000	4,510	4,195	612,399
	② 宿泊利用者数(人)	1,586	2,903	1,633	1,129	2,227	5,701	27,058	59,587	29,790	10,053	1,899	1,587	145,153
	③ 入込数合計(人)	3,830	6,745	6,596	11,020	58,120	66,199	173,095	211,834	140,869	67,053	6,409	5,782	757,552
平成18年	① 日帰り利用者数(人)	2,359	4,346	5,670	10,122	57,038	63,603	158,884	169,075	111,272	61,266	3,874	3,871	651,380
	② 宿泊利用者数(人)	1,544	2,478	1,324	952	2,278	4,194	23,005	44,978	15,986	6,416	2,555	1,987	107,697
	③ 入込数合計(人)	3,903	6,824	6,994	11,074	59,316	67,797	181,889	214,053	127,258	67,682	6,429	5,858	759,077
平成19年	① 日帰り利用者数(人)	2,428	3,809	5,237	9,388	54,787	63,479	114,072	143,533	111,572	63,175	4,990	4,289	580,759
	② 宿泊利用者数(人)	1,428	3,129	1,590	1,251	2,319	3,830	20,454	45,973	17,406	5,452	1,692	1,481	106,005
	③ 入込数合計(人)	3,856	6,938	6,827	10,639	57,106	67,309	134,526	189,506	128,978	68,627	6,682	5,770	686,764
平成20年	① 日帰り利用者数(人)	1,807	3,811	6,272	11,284	63,344	49,019	108,762	148,695	103,929	62,043	4,735	4,041	567,742
	② 宿泊利用者数(人)	2,031	2,876	2,174	1,107	1,738	3,517	6,184	25,190	12,201	3,588	1,807	1,610	64,023
	③ 入込数合計(人)	3,838	6,687	8,446	12,391	65,082	52,536	114,946	173,885	116,130	65,631	6,542	5,651	631,765
平成21年	① 日帰り利用者数(人)	1,924	3,421	6,327	9,877	62,940	47,783	108,305	133,994	108,193	57,569	4,852	3,690	548,875
	② 宿泊利用者数(人)	1,943	2,774	1,551	1,675	2,348	3,499	5,843	28,456	14,604	3,464	1,674	1,654	69,485
	③ 入込数合計(人)	3,867	6,195	7,878	11,552	65,288	51,282	114,148	162,450	122,797	61,033	6,526	5,344	618,360
平成22年	① 日帰り利用者数(人)	1,559	2,062	5,267	9,016	62,328	44,897	107,053	150,027	83,415	55,912	3,936	3,293	528,765
	② 宿泊利用者数(人)	2,069	3,735	2,544	2,056	2,395	4,453	5,859	27,863	12,393	3,154	2,331	2,023	70,875
	③ 入込数合計(人)	3,628	5,797	7,811	11,072	64,723	49,350	112,912	177,890	95,808	59,066	6,267	5,316	599,640
平成23年	① 日帰り利用者数(人)	1,605	2,546	5,822	7,980	38,695	37,141	92,858	133,170	67,603	44,209	3,768	2,864	438,261
	② 宿泊利用者数(人)	1,881	3,102	1,915	1,556	2,169	2,593	6,849	28,255	11,017	3,462	2,444	2,351	67,594
	③ 入込数合計(人)	3,486	5,648	7,737	9,536	40,864	39,734	99,707	161,425	78,620	47,671	6,212	5,215	505,855
平成24年	① 日帰り利用者数(人)	1,130	1,751	5,596	8,238	34,513	39,669	94,621	136,592	80,855	47,907	4,440	2,712	458,024
	② 宿泊利用者数(人)	2,559	4,237	2,587	2,059	2,351	3,118	6,552	30,299	11,720	3,980	2,361	3,075	74,898
	③ 入込数合計(人)	3,689	5,988	8,183	10,297	36,864	42,787	101,173	166,891	92,575	51,887	6,801	5,787	532,922
平成25年	① 日帰り利用者数(人)	267	3,089	5,470	7,844	29,881	38,873	83,252	132,221	84,972	49,315	4,540	2,209	441,933
	② 宿泊利用者数(人)	3,393	4,493	3,267	1,338	3,357	4,010	8,251	25,525	8,519	3,692	2,680	3,497	72,022
	③ 入込数合計(人)	3,660	7,582	8,737	9,182	33,238	42,883	91,503	157,746	93,491	53,007	7,220	5,706	513,955
平成26年	① 日帰り利用者数(人)	470	1,113	5,760	7,676	30,853	37,271	88,210	141,794	86,826	49,426	5,200	5,431	460,030
	② 宿泊利用者数(人)	4,018	5,361	2,631	1,931	2,718	3,583	5,916	21,733	7,838	3,218	2,017	2,853	63,817
	③ 入込数合計(人)	4,488	6,474	8,391	9,607	33,571	40,854	94,126	163,527	94,664	52,644	7,217	8,284	523,847
平成27年	① 日帰り利用者数(人)	535	753	5,397	6,899	38,650	48,279	86,552	136,419	89,775	80,751	6,431	39,595	540,036
	② 宿泊利用者数(人)	3,531	1,900	665	2,052	2,326	3,908	4,733	6,491	5,607	3,979	2,705	2,800	40,697
	③ 入込数合計(人)	4,066	2,653	6,062	8,951	40,976	52,187	91,285	142,910	95,382	84,730	9,136	42,395	580,733
平成28年	① 日帰り利用者数(人)	454	546	323	5,649	39,389	46,228	82,668	132,627	82,158	65,215	4,040	8,323	467,620
	② 宿泊利用者数(人)	3,780	8,377	3,097	3,076	4,212	5,275	7,863	22,446	8,547	1,668	1,042	828	70,211
	③ 入込数合計(人)	4,234	8,923	3,420	8,725	43,601	51,503	90,531	155,073	90,705	66,883	5,082	9,151	537,831
平成29年	① 日帰り利用者数(人)	2,614	3,952	381	6,972	47,491	43,556	75,472	155,735	86,302	61,255	4,931	4,428	493,089
	② 宿泊利用者数(人)	1,092	5,435	4,254	3,293	4,506	5,944	7,653	19,411	6,170	1,668	1,042	828	61,296
	③ 入込数合計(人)	3,706	9,387	4,635	10,265	51,997	49,500	83,125	175,146	92,472	62,923	5,973	5,256	554,385
入込数合計 前年比		88%	105%	136%	118%	119%	96%	92%	113%	102%	94%	118%	57%	103%
入込数合計 世界遺産登録前比 (平成16年比)		103%	137%	78%	101%	69%	92%	55%	87%	70%	100%	101%	97%	78%
入込数合計 ピーク年比 (平成18年比)		95%	138%	66%	93%	88%	73%	46%	82%	73%	93%	93%	90%	73%

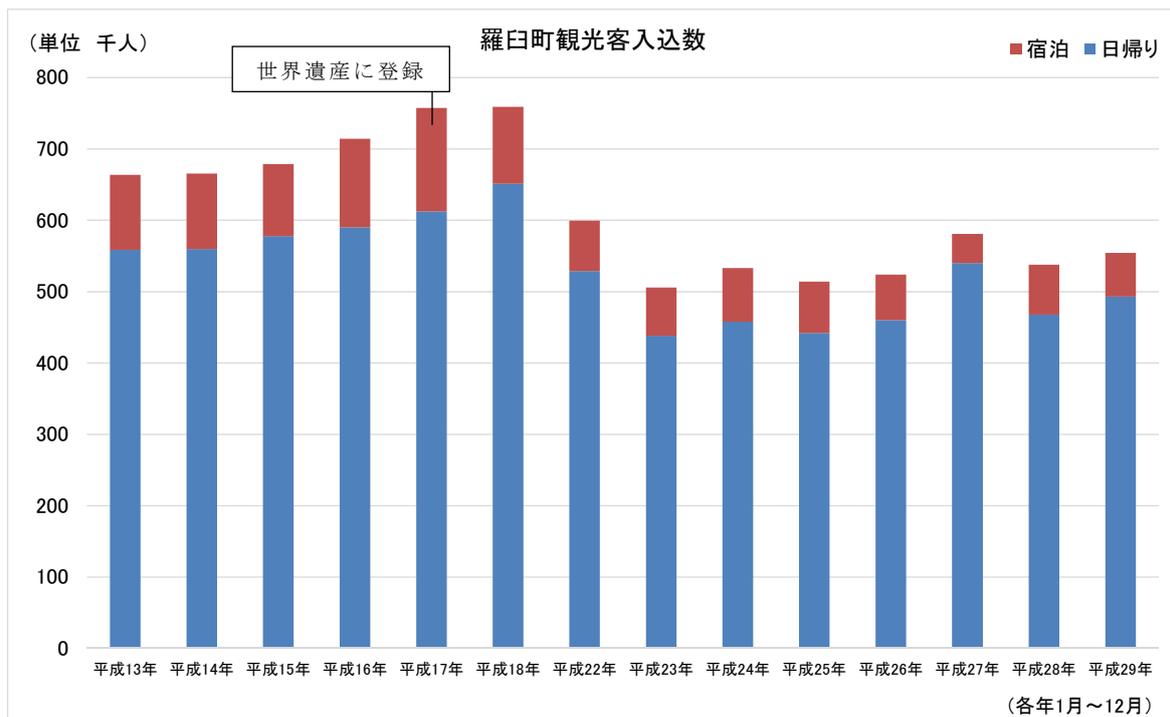


図 2-3 羅臼町観光入込数

データ提供：羅臼町産業創生課

コメント：現時点（平成 31 年 3 月 20 日）ではデータの把握はできなかった。

2-5 主要利用拠点における利用者数

(1) 知床五湖地域

i) 知床五湖園地全体利用者数（駐車場利用者数+シャトルバス五湖利用者数）

表 2-4 知床五湖園地全体利用者数（駐車場利用者数+シャトルバス五湖利用者数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	その他	計	
平成14年	① 駐車場利用台数(台)	1,445	6,831	6,725	12,123	16,500	13,788	6,834	233	-	84,479	
	② 駐車場利用者数(人)	7,561	55,819	68,478	87,177	99,896	97,103	68,112	2,022	-	486,158	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	2,126	12,659	-	-	-	-	336	15,121
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	1,792	10,672	-	-	-	-	283	12,747
	⑤ 利用者数合計(人)	7,561	55,819	68,478	88,969	110,557	97,103	68,112	2,022	283	498,905	
平成15年	① 駐車場利用台数(台)	871	6,180	8,154	13,583	17,255	13,153	6,753	492	-	66,431	
	② 駐車場利用者数(人)	5,538	60,456	81,219	92,056	102,557	90,133	59,437	2,530	-	493,926	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	930	13,817	-	-	-	-	570	15,317
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	784	11,648	-	-	-	-	481	12,912
	⑤ 利用者数合計(人)	5,538	60,456	81,219	92,840	114,205	90,133	59,437	2,530	481	506,838	
平成16年 (シャトルバス運行 期間23日間)	① 駐車場利用台数(台)	640	7,186	6,474	10,943	17,082	14,569	8,704	143	-	85,641	
	② 駐車場利用者数(人)	4,285	70,361	60,777	69,454	98,500	97,692	70,688	1,288	-	473,045	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	-	17,226	-	-	-	-	625	17,851
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	-	14,522	-	-	-	-	527	15,048
	⑤ 利用者数合計(人)	4,285	70,361	60,777	69,454	113,022	97,692	70,688	1,288	527	488,093	
平成17年 (シャトルバス運行 期間70日間)	① 駐車場利用台数(台)	490	6,107	8,767	15,024	21,741	17,449	12,043	1,167	-	82,798	
	② 駐車場利用者数(人)	3,749	58,333	75,344	97,751	122,386	134,254	113,607	9,009	-	615,433	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	9,904	26,918	10,624	-	-	-	1,159	48,605
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	8,349	22,692	8,956	-	-	-	977	40,974
	⑤ 利用者数合計(人)	3,749	58,333	75,344	106,100	145,078	143,210	113,607	9,009	977	656,407	
平成18年 (シャトルバス運行 期間70日間)	① 駐車場利用台数(台)	627	8,401	10,675	16,259	20,867	16,454	10,234	1,036	-	84,553	
	② 駐車場利用者数(人)	3,448	74,638	108,043	118,480	119,728	130,036	98,808	7,805	-	660,966	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	6,793	17,369	6,919	-	-	-	764	31,845
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	5,726	14,642	5,833	-	-	-	644	26,845
	⑤ 利用者数合計(人)	3,448	74,638	108,043	124,206	134,370	135,869	98,808	7,805	644	687,831	
平成19年 (シャトルバス運行 期間70日間)	① 駐車場利用台数(台)	1,185	7,096	8,612	12,794	20,304	14,975	9,297	534	-	74,797	
	② 駐車場利用者数(人)	6,023	61,413	87,562	95,919	118,291	111,504	85,037	4,743	-	570,492	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	6,707	17,046	5,261	-	-	-	446	29,460
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	5,654	14,370	4,435	-	-	-	376	24,835
	⑤ 利用者数合計(人)	6,023	61,413	87,562	101,573	132,661	115,939	85,037	4,743	376	595,327	
平成20年 (シャトルバス運行 期間70日間)	① 駐車場利用台数(台)	1,099	6,563	7,916	10,956	16,541	13,759	8,018	663	-	85,535	
	② 駐車場利用者数(人)	6,264	54,848	75,046	79,642	95,035	95,323	70,561	4,263	-	480,982	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	4,937	13,419	4,283	-	-	-	2,401	25,040
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	4,162	11,312	3,611	-	-	-	2,024	21,109
	⑤ 利用者数合計(人)	6,264	54,848	75,046	83,804	106,347	98,934	70,561	4,263	2,024	502,091	
平成21年 (シャトルバス運行 期間70日間)	① 駐車場利用台数(台)	559	6,919	7,981	10,898	16,045	13,519	6,349	455	-	62,725	
	② 駐車場利用者数(人)	2,931	45,026	63,521	68,836	82,844	84,436	50,296	4,219	-	402,109	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	3,961	10,437	4,065	-	-	-	363	18,826
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	3,339	8,798	3,427	-	-	-	306	15,870
	⑤ 利用者数合計(人)	2,931	45,026	63,521	62,372	91,642	87,863	50,296	4,219	306	417,979	
平成22年 (シャトルバス運行 期間70日間)	① 駐車場利用台数(台)	682	6,993	8,730	12,975	18,172	14,159	8,426	470	-	70,607	
	② 駐車場利用者数(人)	3,430	42,711	62,869	73,914	86,666	84,142	55,448	3,994	-	413,174	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	3,957	9,867	3,761	-	-	-	369	17,954
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	3,336	8,318	3,171	-	-	-	311	15,135
	⑤ 利用者数合計(人)	3,430	42,711	62,869	77,250	94,984	87,313	55,448	3,994	311	428,309	
平成23年 (シャトルバス運行 期間35日間)	① 駐車場利用台数(台)	987	4,792	6,412	11,252	17,153	12,802	7,629	652	-	61,679	
	② 駐車場利用者数(人)	3,757	26,314	43,486	62,372	78,638	78,682	55,113	4,315	-	352,676	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	-	8,906	1,585	-	-	-	169	10,660
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	-	7,508	1,336	-	-	-	142	8,986
	⑤ 利用者数合計(人)	3,757	26,314	43,486	62,372	86,146	80,018	55,113	4,315	142	361,663	
平成24年 (シャトルバス運行 期間35日間)	① 駐車場利用台数(台)	1,166	4,810	7,121	13,188	18,311	13,581	8,327	333	-	66,837	
	② 駐車場利用者数(人)	4,655	30,527	53,011	73,296	83,940	78,896	62,606	3,276	-	390,208	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	-	9,366	1,583	-	-	-	57	11,006
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	-	7,896	1,334	-	-	-	48	9,278
	⑤ 利用者数合計(人)	4,655	30,527	53,011	73,296	91,836	80,230	62,606	3,276	48	399,486	
平成25年 (シャトルバス運行 期間35日間)	① 駐車場利用台数(台)	313	3,453	7,952	13,803	16,998	13,158	7,418	689	-	63,784	
	② 駐車場利用者数(人)	2,497	28,024	56,676	72,763	78,259	72,966	58,548	4,332	-	374,065	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	-	11,371	1,991	-	-	-	124	13,466
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	-	9,586	1,678	-	-	-	105	11,369
	⑤ 利用者数合計(人)	2,497	28,024	56,676	72,763	87,845	74,664	58,548	4,332	105	385,544	
平成26年 (シャトルバス運行 期間35日間)	① 駐車場利用台数(台)	847	4,916	7,336	13,117	15,906	12,741	4,219	-	-	59,082	
	② 駐車場利用者数(人)	4,109	29,483	49,688	68,228	72,193	70,667	27,962	-	-	322,331	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	-	10,610	2,145	-	-	-	92	12,847
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	-	8,944	1,808	-	-	-	78	10,830
	⑤ 利用者数合計(人)	4,109	29,483	49,688	68,228	81,137	72,475	27,962	-	78	333,161	
平成27年 (シャトルバス運行 期間30日間)	① 駐車場利用台数(台)	633	6,459	7,839	14,347	17,743	13,743	6,989	674	-	68,427	
	② 駐車場利用者数(人)	3,464	34,200	49,390	70,392	76,622	69,795	46,203	5,297	-	355,364	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	-	11,104	2,552	-	-	-	109	13,765
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	-	9,361	2,151	-	-	-	92	11,604
	⑤ 利用者数合計(人)	3,464	34,200	49,390	70,392	85,983	71,947	46,203	5,297	92	366,967	
平成28年 (シャトルバス運行 期間30日間)	① 駐車場利用台数(台)	472	6,751	7,695	13,366	14,073	12,115	6,734	341	-	61,547	
	② 駐車場利用者数(人)	3,327	32,979	45,061	65,932	59,151	60,607	44,168	2,713	-	313,939	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	-	8,424	949	-	-	-	311	9,684
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	-	7,101	800	-	-	-	262	8,164
	⑤ 利用者数合計(人)	3,327	32,979	45,061	65,932	66,253	61,407	44,168	2,713	262	322,102	
平成29年 (シャトルバス運行 期間25日間)	① 駐車場利用台数(台)	756	7,158	7,992	13,557	17,315	11,859	7,313	584	-	66,534	
	② 駐車場利用者数(人)	3,548	34,602	47,394	64,376	70,512	58,496	43,116	3,441	-	325,485	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	-	12,113	-	-	-	-	127	12,240
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	-	10,211	-	-	-	-	107	10,318
	⑤ 利用者数合計(人)	3,548	34,602	47,394	64,376	80,723	58,496	43,116	3,441	107	335,803	
平成30年 (シャトルバス運行 期間25日間)	① 駐車場利用台数(台)	1,566	6,248	8,460	13,067	15,856	10,270	7,017	703	-	63,187	
	② 駐車場利用者数(人)	6,096	32,729	47,864	61,939	64,522	44,381	35,826	3,605	-	296,961	
	③ シャトルバス利用者(人)	-	-	-	-	21,007	-	-	-	-	118	21,125
	④ シャトルバス五湖利用者(人)	-	-	-	-	17,709	-	-	-	-	99	17,808
	⑤ 利用者数合計(人)	6,096	32,729	47,864	61,939	82,231	44,381	35,826	3,605	99	314,770	
合計前年度比		172%	95%	101%	96%	102%	76%	83%	105%	93%	94%	
合計世界遺産登録前(平成16年)比		142%	47%	79%	89%	73%	45%	51%	280%	19%	64%	
合計ピーク年(平成18年)比		177%	44%	44%	50%	61%	33%	36%	46%	15%	46%	

*その他：委託業者によるバス利用券販売数（月別集計なし）

【とりまとめ方法】

① 駐車場利用台数（台）：

（一財）自然公園財団提供の駐車場利用台数の実数を使用した。

② 駐車場利用者数（人）：

① 駐車場利用台数に以下の乗車数設定値を掛けて算出した。

オートバイ：1.08 人／台、乗用車：3.20 人／台、マイクロバス：16.73 人／台、大型バス：34.78 人／台（昭和 63 年に（一財）自然公園財団が行った調査に基づく）

③ シャトルバス利用者（人）：

斜里バス（株）提供のシャトルバス利用者数の実数を使用した。

④ シャトルバス五湖利用者数（人）：

③ シャトルバス利用者を知床五湖におけるシャトルバスの利用者の下車率 84.3%（「2006 年度知床国立公園カムイワッカ地区における自動車利用適正化対策に係わる利用者等動向調査報告書」）を掛けて算出した。

⑤ 利用者数合計（人）：

② 駐車場利用者数と④ シャトルバス五湖利用者数の合計を使用した。

シャトルバス運行期間：

平成 16 年 8/1～8/23（23 日間）平成 17 年～22 年 7/13～9/20（70 日間）

平成 23 年～25 年 8/1～8/25 及び 9/15～9/24（35 日間）

平成 26 年 8/1～8/25 及び 9/13～9/22（35 日間）

平成 27 年 8/1～8/25 及び 9/19～9/23（30 日間）

平成 28 年 8/1～8/25 及び 9/18～9/22（30 日間）

平成 29 年 8/1～8/25（25 日間）

平成 30 年 8/1～8/25（25 日間）

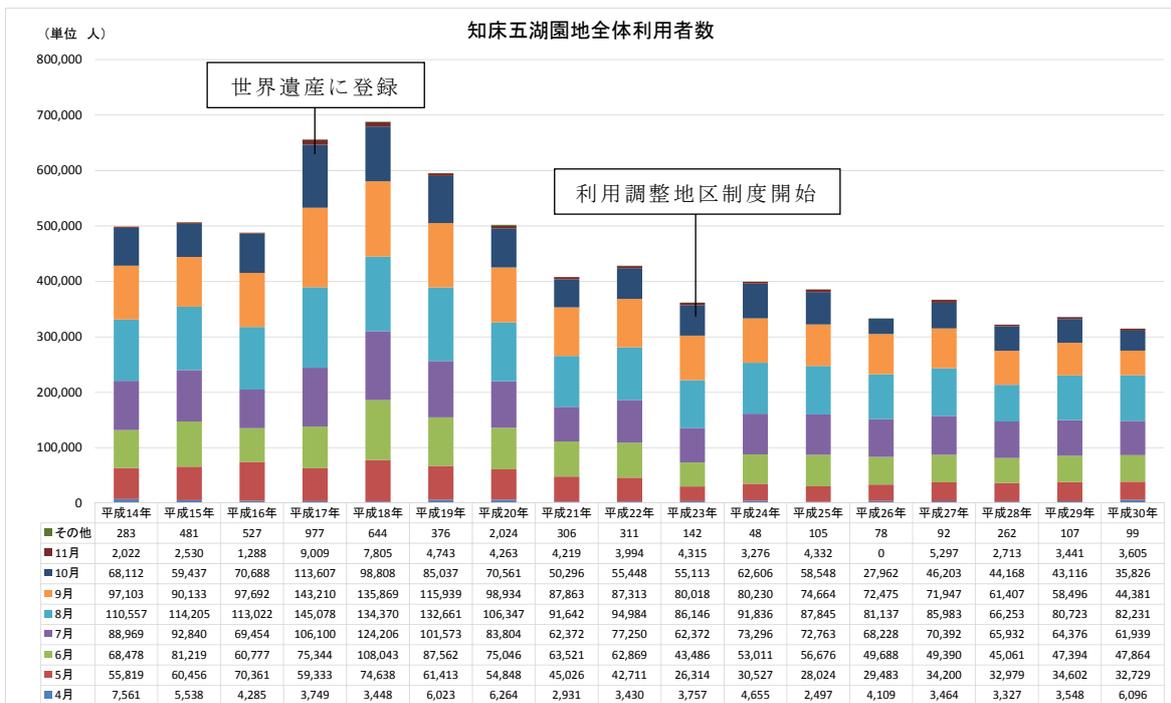


図 2-4 知床五湖園地全体利用者数

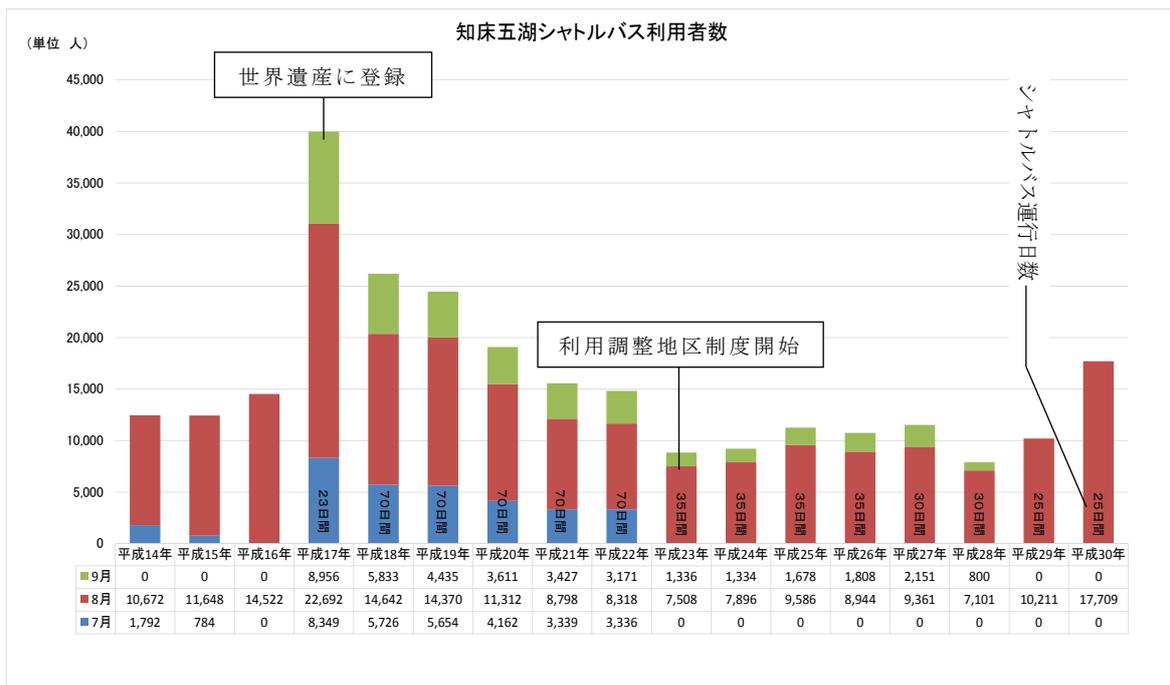


図 2-5 知床五湖園地シャトルバス利用者数

データ提供：一般財団法人自然公園財団および斜里バス株式会社

コメント：知床五湖園地全体利用者数は前年比 6%減となっているが、知床五湖シャトルバス利用者数は前年比 73%増となっている。これは悪天候によるシャトルバスの運行中止が多かった昨年、一昨年と比較して、本年は運行中止が少なかったことが要因のひとつと考えられる。

ii) 高架木道・地上遊歩道利用者数

表 2-5 高架木道・地上歩道利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
平成16年	① 高架木道利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	② 地上歩道利用者数(人)	-	33,866	14,663	32,374	88,512	75,038	54,914	5,318	304,685
平成17年	① 高架木道利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	② 地上歩道利用者数(人)	-	29,305	42,380	62,263	103,930	107,405	84,341	14,311	443,935
平成18年	① 高架木道利用者数(人)	-	31,340	38,352	42,897	44,680	47,949	37,540	7,313	250,071
	② 地上歩道利用者数(人)	-	46,668	74,653	87,508	106,308	101,894	73,314	10,159	500,504
平成19年	① 高架木道利用者数(人)	-	24,263	52,858	59,283	40,980	37,651	31,005	5,443	251,483
	② 地上歩道利用者数(人)	-	42,048	33,566	37,040	94,758	82,791	60,907	5,828	356,938
平成20年	① 高架木道利用者数(人)	-	17,919	24,601	33,078	40,303	35,351	31,457	5,342	188,051
	② 地上歩道利用者数(人)	-	35,454	48,532	55,795	81,277	74,165	45,988	6,728	347,938
平成21年	① 高架木道利用者数(人)	-	20,755	25,013	32,870	37,006	34,442	20,868	5,092	176,046
	② 地上歩道利用者数(人)	-	26,049	35,653	39,360	63,563	55,891	29,391	3,451	253,358
平成22年	① 高架木道利用者数(人)	-	24,298	36,324	55,271	53,824	43,734	32,559	6,527	252,537
	② 地上歩道利用者数(人)	-	17,078	24,710	21,134	44,000	44,352	25,790	3,481	180,545
平成23年	① 高架木道(のみ)利用者数(人)	-	20,273	37,615	55,170	48,836	52,364	40,277	7,883	262,418
	② 地上遊歩道利用者数(人)	-	4,737	1,944	3,983	29,919	16,623	8,674	1,066	66,946
平成24年	① 高架木道(のみ)利用者数(人)	-	23,612	45,127	58,922	75,271	52,089	44,662	7,067	306,750
	② 地上遊歩道利用者数(人)	-	3,251	3,013	5,063	8,291	15,383	11,113	1,223	47,337
平成25年	① 高架木道(のみ)利用者数(人)	-	22,856	42,586	54,358	43,713	39,266	37,548	7,534	247,861
	② 地上遊歩道利用者数(人)	-	741	3,428	6,149	31,509	19,042	10,065	1,607	72,541
平成26年	① 高架木道(のみ)利用者数(人)	-	23,339	35,283	54,286	43,754	41,790	18,507	-	216,959
	② 地上遊歩道利用者数(人)	-	2,296	3,909	6,929	29,362	17,715	5,440	-	65,651
平成27年	① 高架木道(のみ)利用者数(人)	3,377	26,680	39,123	54,941	46,182	43,083	28,795	8,420	250,601
	② 地上遊歩道利用者数(人)	524	5,191	4,404	7,892	29,687	17,515	9,075	2,567	76,855
平成28年	① 高架木道(のみ)利用者数(人)	2,442	24,498	34,503	49,751	35,465	33,532	27,077	5,400	212,668
	② 地上遊歩道利用者数(人)	347	3,607	4,715	8,272	24,583	16,773	8,668	732	67,697
平成29年	① 高架木道(のみ)利用者数(人)	2,827	25,771	35,428	48,379	39,272	33,265	25,534	4,123	214,599
	② 地上遊歩道利用者数(人)	652	6,107	4,964	8,134	31,144	13,782	8,360	1,074	74,217
平成30年	① 高架木道(のみ)利用者数(人)	3,671	24,528	36,874	47,319	36,182	23,208	20,942	2,403	195,127
	② 地上遊歩道利用者数(人)	1,638	5,541	5,215	7,624	28,564	13,006	8,499	767	70,854
前年比	① 高架木道	130%	95%	104%	98%	92%	70%	82%	58%	91%
前年比	② 地上遊歩道	251%	91%	105%	94%	92%	94%	102%	71%	95%
世界遺産登録前(平成16年)比	② 地上遊歩道	-	16%	36%	24%	32%	17%	15%	14%	23%
ピーク年(平成19年)比	① 高架木道	-	101%	70%	80%	88%	62%	68%	44%	78%
ピーク年(平成18年)比	② 地上歩道	-	12%	7%	9%	27%	13%	12%	8%	14%

【取りまとめ方法】

● 高架木道(のみ)利用者数

- ・「高架木道入口」のカウンター値(入場者数)に対し、捕捉率(58.6%)を使用して補正した。

● 地上遊歩道利用者数

- ・4/20、4/25～5/1、5/10～7/31：立入者数の実数(知床五湖フィールドハウスがカウントした大ループ、小ループ)を使用した。
- ・上記以外の日程：大ループはカウンター値に対して捕捉率(88.8%)を使用して補正し、小ループは立入者数の混合数(大ループ、小ループの合計)より大ループの値を差し引いた値を使用した。

● 開園4月20日、閉園11月8日

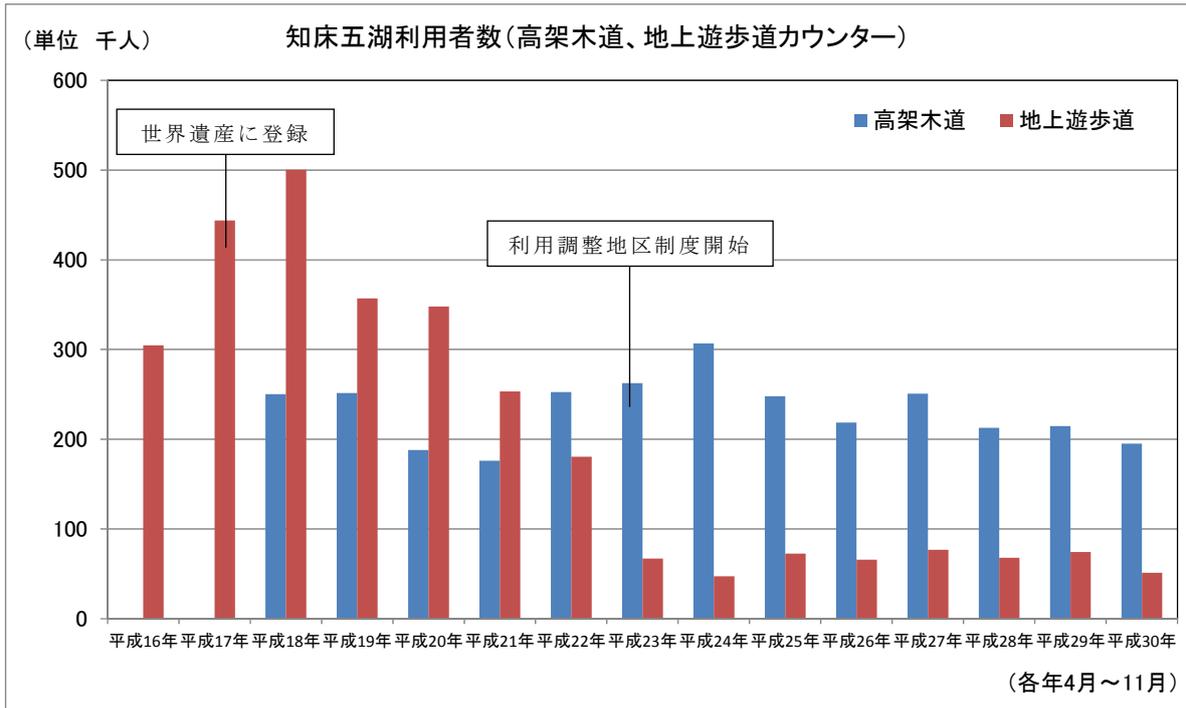


図 2-6 高架木道・地上歩道利用者数

データ提供：環境省

コメント：高架木道（のみ）利用者数については前年比 9%減、地上遊歩道利用者数は前年比 5%減であった。

iii) 冬季知床五湖利用者数

表 2-6 冬季知床五湖利用者数

	グループ数	利用者数	日平均	備 考
平成20年	49	197	4	平成20年2月1日～3月22日 51日間 利用者数には引率者も含む
平成21年	46	156	3	平成21年1月31日～3月22日 51日間 利用者数には引率者も含む
平成22年	46	162	3	平成22年1月30日～3月22日 52日間 利用者数には引率者も含む
平成23年	62	176	3	平成23年1月29日～3月21日 52日間 利用者数には引率者も含む
平成24年	103	414	8	平成24年1月28日～3月20日 53日間 利用者数には引率者(103人)も含む
平成25年	14	67	2	平成25年2月2日～3月17日 44日間 利用者数には引率者(14人)も含む
平成26年	19	85	2	平成26年2月1日～3月23日 51日間 利用者数には引率者(19人)も含む
平成27年	188	939	18	平成27年1月22日～3月22日 51日間 利用者数には引率者(192人)も含む
平成28年	412	2,539	42	平成28年1月23日～3月22日 60日間 利用者数には引率者(412人)も含む
平成29年	466	2,371	40	平成29年1月23日～3月22日 60日間 利用者数には引率者(466人)も含む
平成30年	399	2,320	47	平成30年1月22日～3月11日 49日間 利用者数には引率者(399人)も含む
前年比	86%	98%	120%	

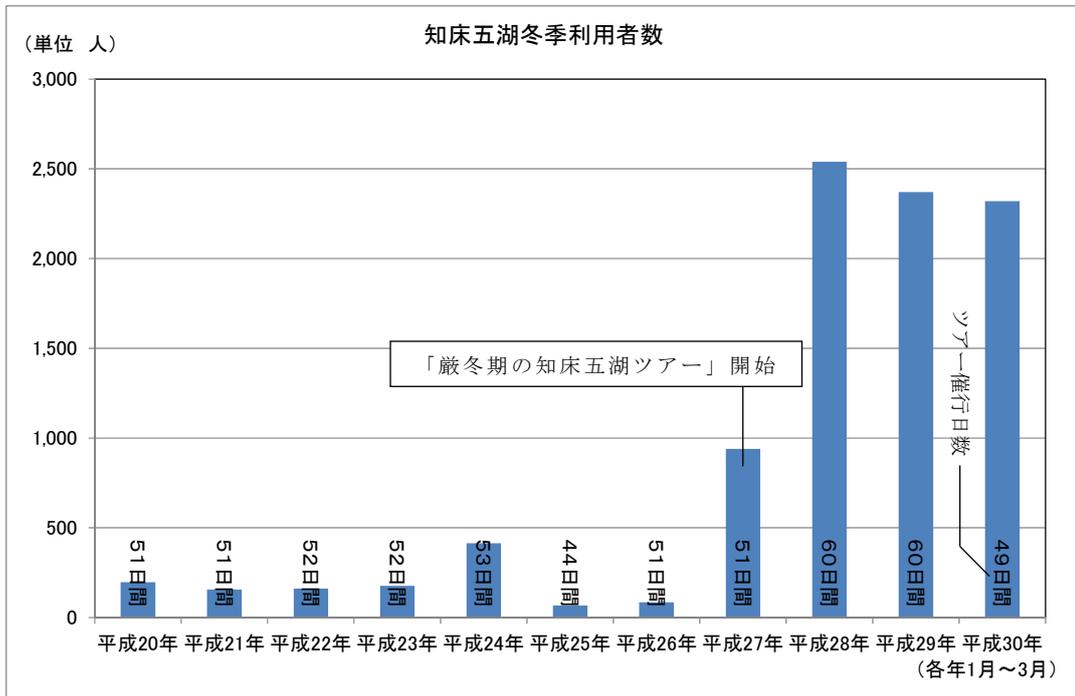


図 2-7 冬季知床五湖利用者数

データ提供：知床斜里町観光協会

コメント：前年比 2%減となっているが、前年 60 日間であったツアー催行日数は本年 49 日間であり、日平均にすると 47 人と過去最高の利用者数となっている。

(2) カムイワッカ地域

i) シャトルバス利用者数（カムイワッカ以外の利用を含む）

表 2-7 シャトルバス利用者数（カムイワッカ以外の利用を含む）

		7月	8月	9月	その他	計	シャトルバス運行期間
平成14年	シャトルバス利用者数(人)	2,126	12,659	-	336	15,121	
平成15年	シャトルバス利用者数(人)	930	13,817	-	570	15,317	
平成16年	シャトルバス利用者数(人)	-	17,226	-	625	17,851	8/1~8/23(23日間)
平成17年	シャトルバス利用者数(人)	9,904	26,918	10,624	1,159	48,605	7/13~9/20(70日間)
平成18年	シャトルバス利用者数(人)	6,793	17,369	6,919	764	31,845	
平成19年	シャトルバス利用者数(人)	6,707	17,046	5,261	446	29,460	
平成20年	シャトルバス利用者数(人)	4,937	13,419	4,283	2,401	25,040	
平成21年	シャトルバス利用者数(人)	3,961	10,437	4,065	363	18,826	
平成22年	シャトルバス利用者数(人)	3,957	9,867	3,761	369	17,954	
平成23年	シャトルバス利用者数(人)	-	8,906	1,585	169	10,660	
平成24年	シャトルバス利用者数(人)	-	9,366	1,583	57	11,006	8/1~8/25、9/15~9/24(35日間)
平成25年	シャトルバス利用者数(人)	-	11,371	1,991	124	13,486	
平成26年	シャトルバス利用者数(人)	-	10,610	2,145	92	12,847	8/1~8/25、9/13~9/22(35日間)
平成27年	シャトルバス利用者数(人)	-	11,104	2,552	109	13,765	8/1~8/25、9/19~9/23(30日間)
平成28年	シャトルバス利用者数(人)	-	8,424	949	311	9,684	8/1~8/25、9/18~9/22(30日間)
平成29年	シャトルバス利用者数(人)	-	12,113	-	127	12,240	8/1~8/25(25日間)
平成30年	シャトルバス利用者数(人)	-	21,007	-	118	21,125	8/1~8/25(25日間)
前年比		-	173%	-	93%	173%	
ピーク(平成17年)年比		-	78%	-	10%	43%	

*その他は委託業者によるバス利用券販売数(月別未集計)

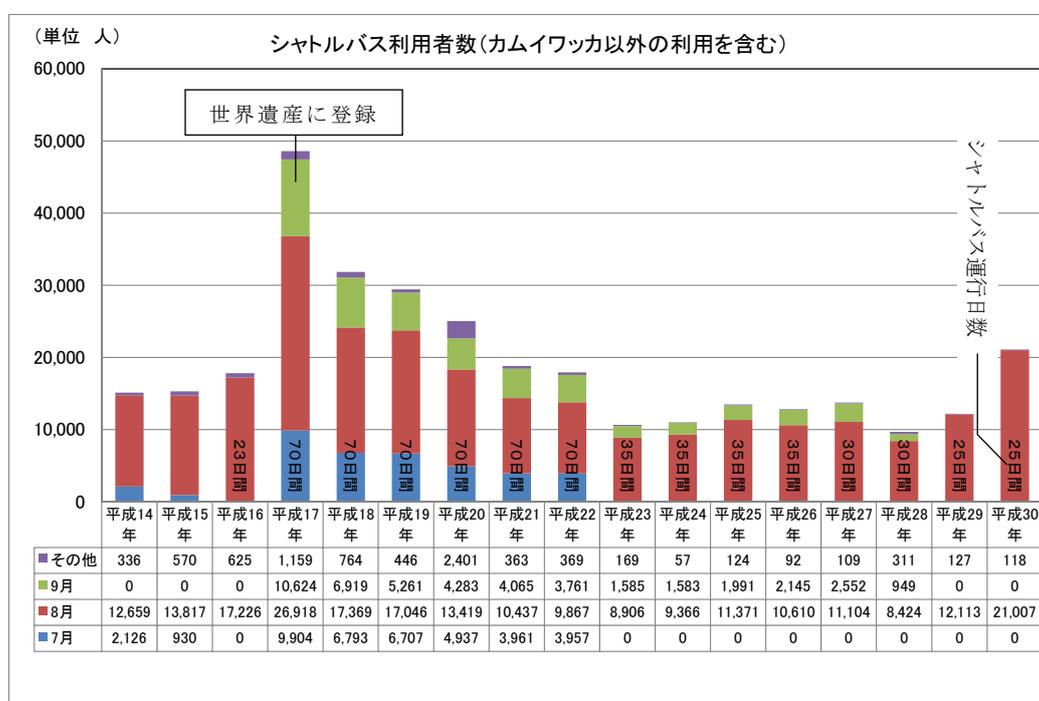


図 2-8 シャトルバス利用者数（カムイワッカ以外の利用を含む）

データ提供：斜里バス株式会社

コメント：前年比 73% 増となった。シャトルバス運行期間は前年同様 25 日であったが、悪天候等による運行中止が少なかったことが要因のひとつと考えられる。

ii) カムイワッカ来訪者数

表 2-8 カムイワッカ来訪者数

	利用可能期間		シャトルバス利用者数(人)	マイカー利用者数(人)	合計来訪者数(人)
平成17年	7/13～9/20	70日	48,605	—	48,605
平成18年	7/13～9/20	70日	31,845	—	31,845
平成19年	7/13～9/20	70日	29,460	—	29,460
平成20年	7/13～9/20	70日	25,040	—	25,040
平成21年	7/13～9/20	70日	18,826	—	18,826
平成22年	7/13～9/20	70日	17,954	—	17,954
平成23年	6/1～11/2	155日	9,198	35,204	44,402
平成24年	6/1～11/1	154日	9,816	42,453	52,269
平成25年	7/1～11/1	124日	11,143	30,221	41,364
平成26年	6/5～11/4	153日	10,280	39,111	49,391
平成27年	6/1～11/3	156日	12,464	43,994	56,458
平成28年	6/1～11/3	156日	7,677	35,588	43,265
				(従来係数)45,597	53,274
				(カウンター)29,874	37,551
平成29年	6/1～11/1	154日	10,495	53,621	64,116
平成30年	6/1～10/31	153日	9,090	38,446	47,536
前年比	99%		87%	72%	74%

【取りまとめ方法】（平成 28 年度以降）

- シャトルバス利用者数：シャトルバス乗車人数の「総乗車人数」より「五湖まで」の乗車人数を差し引いた値を使用した。
- マイカー利用者数新係数＝五湖駐車場台数（全種総数）×0.414×2.23

【過去のとりまとめ方法】

- シャトルバス利用者数：平成 17 年～平成 22 年はカムイワッカ以外の利用も含む。
- マイカー利用者数(平成 23～平成 25 年)：
 - ①トラフィックカウンター台数に平均乗車人数の係数を乗じて推定した。採用した係数は以下の通り。2.5（平成 23 年）、2.47（平成 24 年）、2.485（平成 25 年）
 - ②トラフィックカウンターの計測日は以下の通り。6/8～11/1（平成 23 年）、7/11～10/31（平成 24 年）、7/1～10/31（平成 25 年）
 - ③トラフィックカウンター計測日外のデータについては、平成 23 年は道の駅利用者数×0.15 とし、平成 24 年～25 年は平成 23 年利用者数との利用割合からの推計値を使用した。
- マイカー利用者数(平成 26 年～平成 27 年)：

平成 26 年は、知床五湖開園期間（6/5～10/13）は五湖駐車場台数×0.476×2.485、それ以外（10/14～11/3）は道の駅利用者数×0.15 として推計した。

平成 27 年は、五湖駐車場台数×0.476×2.485 として推計した。

- トラフィックカウンター計測日外のデータは、平成23年は道の駅利用者数×0.15、平成24年以降は平成23年利用者数との利用割合からの推計値を使用した。

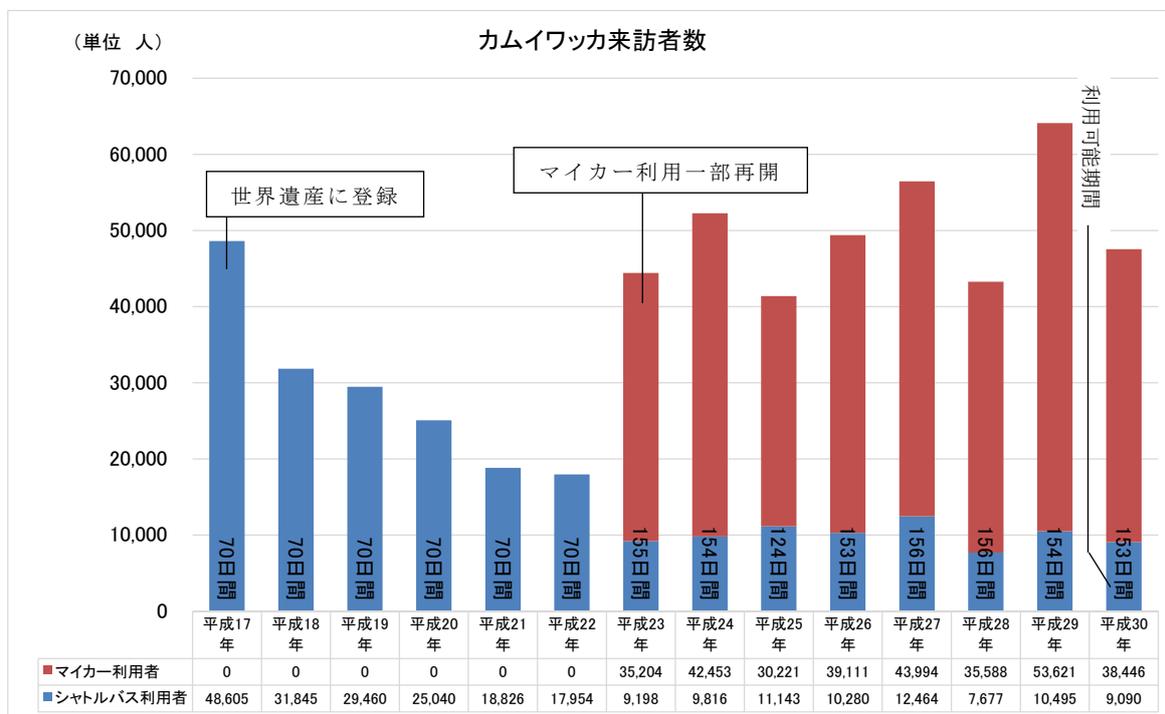


図 2-9 カムイワッカ来訪者数

データ提供：一般財団法人自然公園財団、公益財団法人知床財団

コメント：カムイワッカ来訪者数はシャトルバス利用者及びマイカー利用者ともに減少し、全体で前年比26%減となった。

(3) ホロベツ地区

i) フレペの滝利用者数 (フレペの滝カウンター調査)

表 2-9 フレペの滝利用者数 (フレペの滝カウンター調査)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	利用者数(人)	-	-	-	-	-	8,911	17,604	23,779	18,443	11,088	-	-	79,825	退場数 調査期間が短いため参考値
平成19年	利用者数(人)	-	-	-	1,365	5,327	11,066	17,757	21,719	14,390	9,275	2,639	-	83,538	退場数 冬季カウンター設置なし
平成20年	利用者数(人)	-	-	-	976	4,873	9,346	12,348	18,230	12,901	8,503	2,689	619	70,485	退場数 冬季カウンター設置なし
平成21年	利用者数(人)	759	2,159	2,020	1,545	5,292	6,644	11,031	14,677	12,515	5,124	1,560	753	64,079	入場数 入場者数の方が多いため
平成22年	利用者数(人)	689	1,880	1,150	883	3,584	5,083	9,433	13,093	11,789	5,487	1,538	534	55,143	退場数
平成23年	利用者数(人)	698	1,794	1,003	915	2,718	5,204	6,630	10,837	4,519	4,114	990	451	39,873	退場数
平成24年	利用者数(人)	1,044	2,077	1,034	865	2,594	4,831	9,041	13,379	9,104	4,661	821	396	49,847	入場数 入場者数の方が多いため
平成25年	利用者数(人)	906	2,351	1,021	499	1,740	7,804	7,404	12,619	7,775	3,726	2,482	450	48,777	退場数
平成26年	利用者数(人)	550	1,611	1,928	683	2,569	4,057	7,185	11,076	8,172	6,213	1,246	578	45,868	退場数
平成27年	利用者数(人)	529	1,631	980	678	3,606	5,873	6,302	8,260	8,794	4,071	737	563	42,024	入場数 入場者数の方が多いため
平成28年	利用者数(人)	493	2,292	1,094	829	3,704	6,163	4,613	9,644	9,004	3,236	957	467	42,496	退場数 退場者数の方が多いため
平成29年	利用者数(人)	1,043	2,293	1,533	746	3,984	6,736	8,908	11,460	8,496	5,101	891	146	51,337	入場数 入場者数の方が多いため
平成30年	利用者数(人)	83	2,547	1,324	1,271	3,649	6,920	8,369	11,274	5,785	4,239	1,389	556	47,406	退場数 退場者数の方が多いため
前年比		8%	111%	86%	170%	92%	103%	94%	98%	68%	83%	156%	381%	92%	
ピーク(平成19年)年比		-	-	-	93%	69%	63%	47%	52%	40%	46%	53%	-	57%	

- フレペの滝カウンターデータの入場数を、平成27年度業務で測定した捕捉率80.3%を使用して補正した。
- 9/1~9/8、10/24~10/31、11/1 はカウンター動作不良のため、別途設置したエコカウンターデータを使用した。

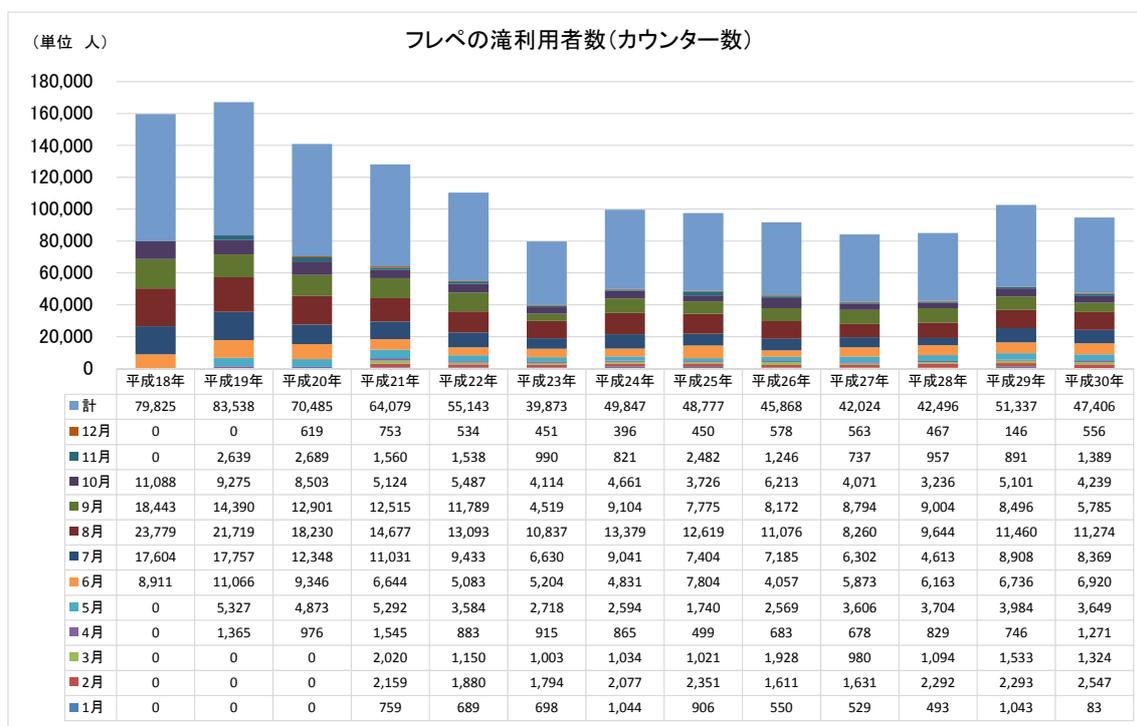


図 2-10 フレペの滝利用者数 (フレペの滝カウンター調査)

データ提供：環境省カウンター調査

コメント：前年比8%減の利用者数となっている。

(4) 知床連山地域

i) 連山登山道利用者数(岩尾別、硫黄山、湯ノ沢カウンター調査)

表 2-10 連山登山利用者数(岩尾別、硫黄山、湯ノ沢カウンター調査)

		6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成16年	岩尾別利用者数(人)	668	3,628	2,490	1,199	270	8,255	下山数
	硫黄山利用者数(人)	136	667	354	355	127	1,639	
	湯ノ沢利用者数(人)	79	136	221	136	79	651	下山数
	合計(人)	883	4,431	3,065	1,690	476	10,545	
平成17年	岩尾別利用者数(人)	589	3,798	2,638	1,720	295	9,040	下山数
	硫黄山利用者数(人)	-	385	311	80	-	776	
	湯ノ沢利用者数(人)	105	111	163	125	52	556	下山数
	合計(人)	694	4,294	3,112	1,925	347	10,372	
平成18年	岩尾別利用者数(人)	414	4,386	2,248	1,466	259	8,773	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	55	127	172	129	60	543	下山数
	合計(人)	469	4,513	2,420	1,595	319	9,316	
平成19年	岩尾別利用者数(人)	417	3,461	2,214	1,130	252	7,474	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	89	132	227	129	57	634	下山数
	合計(人)	506	3,593	2,441	1,259	309	8,108	
平成20年	岩尾別利用者数(人)	697	3,301	1,873	1,176	309	7,356	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	72	131	149	173	60	585	下山数
	合計(人)	769	3,432	2,022	1,349	369	7,941	
平成21年	岩尾別利用者数(人)	563	2,635	1,899	1,148	145	6,390	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	54	168	199	189	27	637	下山数
	合計(人)	617	2,803	2,098	1,337	172	7,027	
平成22年	岩尾別利用者数(人)	481	2,442	1,937	910	271	6,041	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	68	101	197	88	33	487	下山数
	合計(人)	549	2,543	2,134	998	304	6,528	
平成23年	岩尾別利用者数(人)	344	2,129	1,745	811	249	5,278	下山数
	硫黄山利用者数(人)	63	406	179	6	4	658	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	43	140	98	123	49	453	下山数
	合計(人)	450	2,675	2,022	940	302	6,389	
平成24年	岩尾別利用者数(人)	339	1,984	1,914	1,015	214	5,466	下山数
	硫黄山利用者数(人)	171	378	162	141	0	852	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	62	103	116	108	49	438	下山数
	合計(人)	572	2,465	2,192	1,264	263	6,756	
平成25年	岩尾別利用者数(人)	336	1,938	1,994	769	230	5,267	下山数
	硫黄山利用者数(人)	-	358	213	123	9	703	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	63	105	137	82	47	434	下山数
	合計(人)	399	2,401	2,344	974	286	6,404	
平成26年	岩尾別利用者数(人)	297	2,111	1,825	1,040	240	5,513	下山数
	硫黄山利用者数(人)	79	306	233	151	13	782	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	48	111	87	73	60	379	下山数(5月5名)
	合計(人)	424	2,528	2,145	1,264	313	6,674	
平成27年	岩尾別利用者数(人)	430	2,297	1,946	1,257	304	6,234	下山数(5月19名)
	硫黄山利用者数(人)	76	315	223	106	-	720	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	79	271	282	100	86	818	下山数(5月26名)
	合計(人)	585	2,883	2,451	1,463	390	7,772	
平成28年	岩尾別利用者数(人)	343	2,095	1,592	1,093	175	5,298	下山数(5月25名)
	硫黄山利用者数(人)	54	282	123	92	26	577	下山数(5月8名)
	湯ノ沢利用者数(人)	53	86	94	62	50	345	下山数(5月2名)
	合計(人)	450	2,463	1,809	1,247	251	6,220	
平成29年	岩尾別利用者数(人)	125	2,021	1,878	906	185	5,115	下山数
	硫黄山利用者数(人)	50	600	139	17	9	815	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	
	合計(人)	175	2,621	2,017	923	194	5,930	
平成30年	岩尾別利用者数(人)	312	1,806	1,611	926	208	4,863	下山数
	硫黄山利用者数(人)	188	487	129	91	17	912	下山数
	湯ノ沢利用者数(人)	63	105	142	105	48	463	下山数(5月2名)
	合計(人)	563	2,398	1,882	1,122	273	6,238	
合計平成28年比		125%	97%	104%	90%	109%	100%	
合計世界遺産登録前(平成16年)比		64%	54%	61%	66%	57%	59%	
合計ピーク(平成16年)比								

- 岩尾別・硫黄山・湯の沢カウンターデータの下山数を使用した。
- 岩尾別カウンター:動作不良のため補正。「カウンター数値と入山簿記入数の比率(H17～H28 平均値 81.6%)」により算出した。(8/2～8/22)

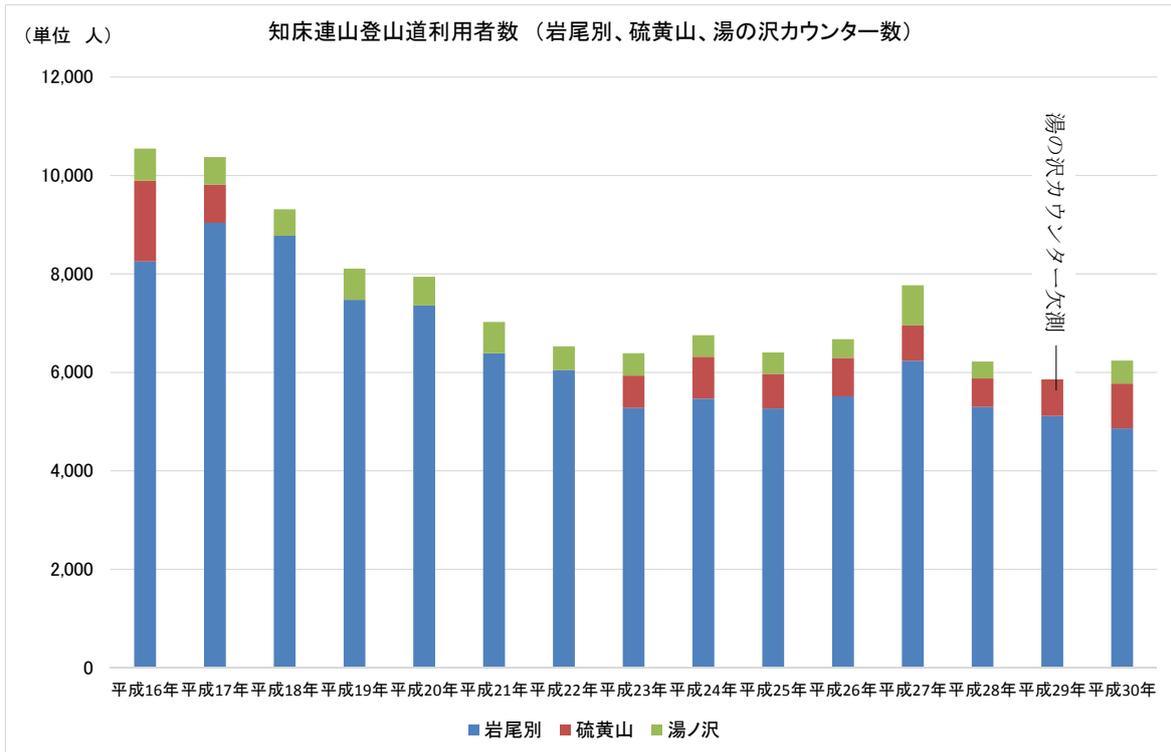


図 2-11 連山登山利用者数 (岩尾別、硫黄山、湯ノ沢カウンター調査)

データ提供：環境省カウンター調査

コメント：平成 28 年度比（前年、湯の沢カウンターデータ欠測のため）で増減なしとなっている。全体の利用者数に変化は無いが、岩尾別の利用が若干減少傾向である。

(5) 羅臼湖地域

i) 羅臼湖登山道利用者数（羅臼湖カウンター調査）

表 2-11 羅臼湖登山道利用者数（羅臼湖カウンター調査）

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	カウント 日数	下山数/ カウント日数	備考
平成16年	利用者数(人)	748	1,423	1,536	1,247	681	-	5,635	-	-	下山数 6月の設置が 11日長い
平成17年	利用者数(人)	598	1,321	2,302	1,672	1,394	66	7,353	-	-	下山数 6月の設置が 11日長い
平成18年	利用者数(人)	312	2,130	1,662	1,287	448	25	5,864	-	-	下山数
平成19年	利用者数(人)	179	1,434	1,568	938	609	2	4,730	-	-	下山数
平成20年	利用者数(人)	438	937	1,173	1,024	669	-	4,241	-	-	下山数
平成21年	利用者数(人)	268	927	1,293	1,065	257	-	3,810	123	31	下山数 (設置期間:6/18~10/19)
平成22年	利用者数(人)	268	810	1,095	767	275	-	3,215	123	26	下山数 (設置期間:6/18~10/19)
平成23年	利用者数(人)	211	796	777	584	278	-	2,646	130	20	下山数 (設置期間:6/16~10/24)
平成24年	利用者数(人)	79	785	945	849	445	-	3,103	131	24	下山数 (設置期間:6/15~10/24)
平成25年	利用者数(人)	-	785	715	550	407	-	2,457	118	21	下山数 (設置期間:7/3~10/29)
平成26年	利用者数(人)	105	582	879	604	299	-	2,469	125	20	下山数 (設置期間:6/24~10/27)
平成27年	利用者数(人)	78	645	664	425	244	-	2,056	121	17	下山数 (設置期間:6/29~10/28)
平成28年	利用者数(人)	69	588	438	367	170	-	1,632	120	14	下山数 (設置期間:6/28~10/26)
平成29年	利用者数(人)	欠測	欠測	146	493	203	-	842	64	13	下山数 (設置期間:8/23~10/26)
平成30年	利用者数(人)	193	337	636	428	184	-	1,778	135	13	下山数 (設置期間:6/6~10/19)
前年比		-	-	436%	87%	91%	-	211%	211%	100%	
平成28年比		280%	57%	145%	117%	108%	-	109%	113%	97%	
世界遺産登録前(平成16年)比		26%	24%	41%	34%	27%	-	32%	-	-	
ピーク(平成17年)年比		32%	26%	28%	26%	13%	-	24%	-	-	

● 羅臼湖カウンターデータの下山数を使用した。

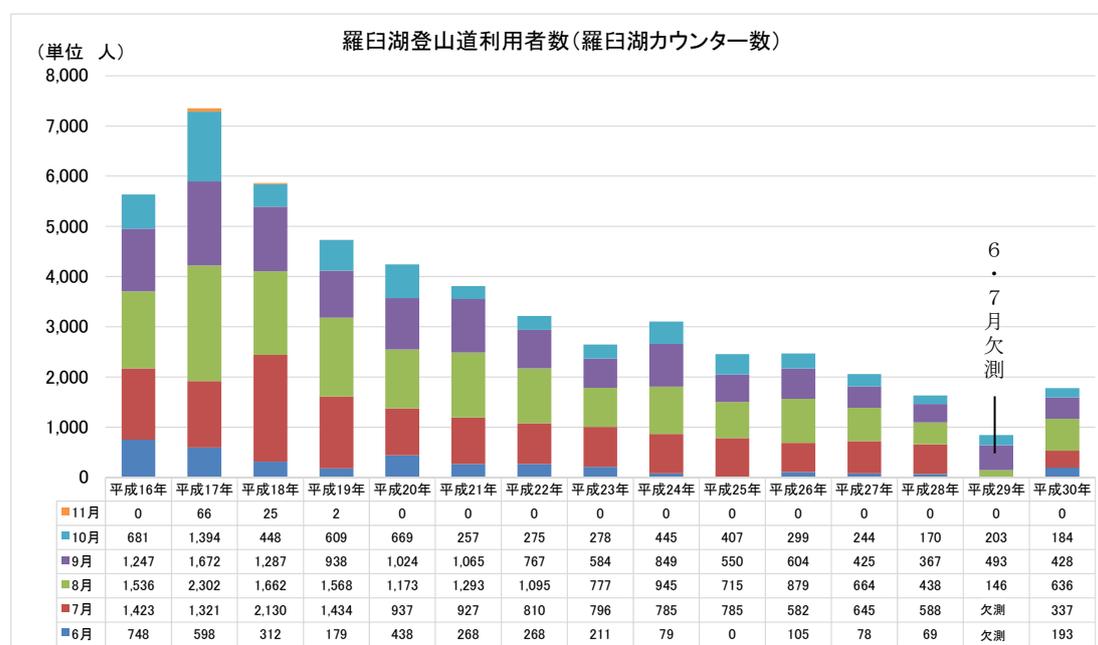


図 2-12 羅臼湖登山道利用者数（羅臼湖カウンター調査）

データ提供：環境省カウンター調査

コメント：平成 28 年度比（前年、カウンターデータ一部欠測のため）9% 増となっているが、日平均（下山数/カウント日数）では 3% 減少している。

ii) 熊越えの滝利用者数（熊越えの滝カウンター調査）

表 2-12 熊越の滝利用者数（熊越の滝カウンター調査）

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成18年	利用者数(人)	-	153	324	393	229	176	12	1,287	下山数
平成19年	利用者数(人)	-	221	266	330	199	246	14	1,276	下山数
平成20年	利用者数(人)	41	203	304	274	267	290	-	1,379	下山数
平成21年	利用者数(人)	29	154	290	380	320	114	-	1,287	下山数(設置期間:5/19~10/19)
平成22年	利用者数(人)	27	251	240	414	232	103	-	1,267	下山数(設置期間:5/25~10/27)
平成23年	利用者数(人)	85	295	178	176	262	165	-	1,161	下山数(設置期間:5/11~10/24) (8/17~9/1データ欠損)
平成24年	利用者数(人)	19	79	174	244	143	113	-	772	下山数(設置期間:5/17~10/24)
平成25年	利用者数(人)	-	44	130	189	123	85	-	571	下山数(設置期間:6/17~10/29)
平成26年	利用者数(人)	3	95	182	233	133	138	0	784	下山数(設置期間:6/17~10/29)
平成27年	利用者数(人)	-	129	202	279	150	125	0	885	下山数(設置期間:6/2~11/2) (8/25~11/2データ欠損)
平成28年	利用者数(人)	24	125	226	356	225	73	5	1,034	下山数(設置期間:5/25~11/3)
平成29年	利用者数(人)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	カウンター未設置
平成30年	利用者数(人)	12	216	220	394	180	117	-	1,139	下山数(設置期間:5/25~11/3)
平成28年比		50%	173%	97%	111%	80%	160%	-	110%	
合計ピーク(平成20年度)比		29%	106%	72%	144%	67%	40%	-	83%	

- 熊越の滝カウンターデータの下山数を使用した。
- 平成29年度はカウンター未設置

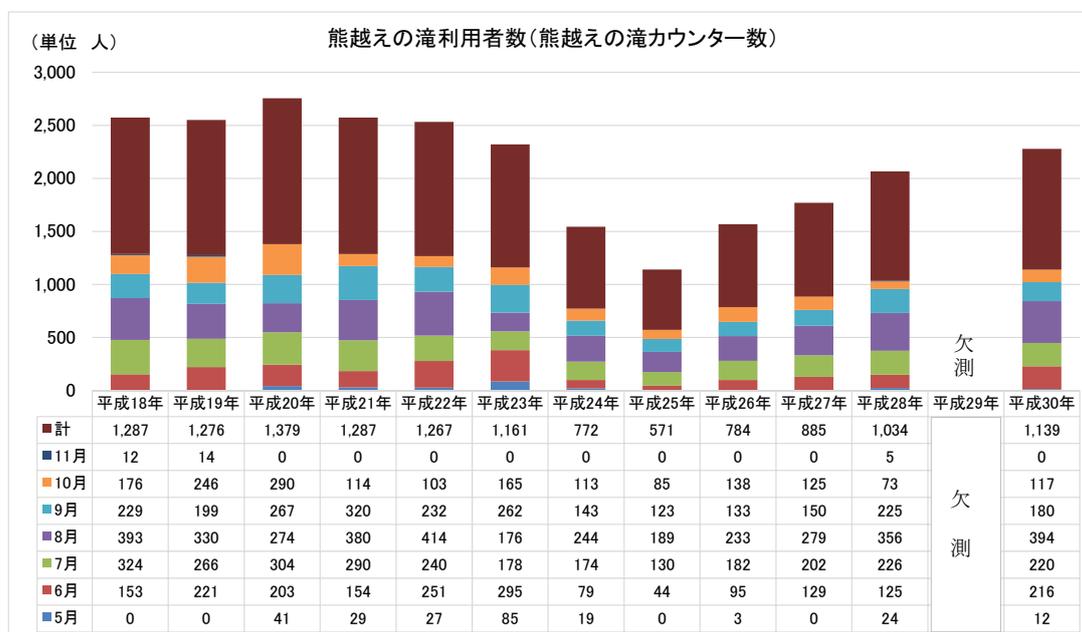


図 2-13 熊越の滝利用者数（熊越の滝カウンター調査）

データ提供：環境省カウンター調査

コメント：平成28年度比（前年、カウンターデータ欠測のため）10%増となっている。利用者数はガイドツアーの増加もあり、近年増加傾向である。

(6) 知床岬、知床沼、知床岳地域

i) 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数

(ウナキベツ・観音岩カウンター調査)

表 2-13 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数 (ウナキベツ・観音岩カウンター調査)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考	
平成16年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	-	30	151	110	56	15	362	観音岩カウンター
	知床沼方面入山者(B)	-	12	94	50	21	12	189	ウナキベツカウンター
	知床岬方面(A-B)	-	18	57	60	35	3	173	
平成17年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	-	34	134	144	45	0	357	世界自然遺産登録
	知床沼方面入山者(B)	-	18	33	69	21	3	144	
	知床岬方面(A-B)	-	16	101	75	24	0	213	
平成18年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	-	36	120	134	28	14	332	
	知床沼方面入山者(B)	-	43	39	88	22	1	193	
	知床岬方面(A-B)	-	0	81	46	6	13	139	
平成19年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	-	6	117	97	26	10	256	設置期間:5/31~11/26
	知床沼方面入山者(B)	-	24	31	70	15	0	140	設置期間:5/31~11/11
	知床岬方面(A-B)	-	0	86	27	11	10	116	
平成20年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	6	27	111	194	35	12	385	設置期間:5/13~11/27
	知床沼方面入山者(B)	11	32	14	42	21	0	120	11月は利用者無し
	知床岬方面(A-B)	0	0	97	152	14	12	275	
平成21年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	25	25	96	103	45	6	300	設置期間:5/14~11/4
	知床沼方面入山者(B)	40	42	9	39	29	0	159	11月は利用者無し
	知床岬方面(A-B)	0	0	87	64	16	6	173	
平成22年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	8	10	91	95	25	6	235	設置期間:5/10~11/5
	知床沼方面入山者(B)	22	21	21	41	24	0	129	11月は利用者無し
	知床岬方面(A-B)	0	0	70	54	1	6	131	
平成23年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	5	18	112	55	11	0	201	設置期間:5/12~11/4
	知床沼方面入山者(B)	10	31	15	16	11	0	83	11月は利用者無し
	知床岬方面(A-B)	0	0	97	39	0	0	136	
平成24年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	4	20	78	15	1	8	126	設置期間:5/9~11/5
	知床沼方面入山者(B)	19	23	25	14	3	9	93	11月は利用者無し
	知床岬方面(A-B)	0	0	53	1	0	0	54	
平成25年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	5	42	133	57	18	2	257	設置期間:5/15~10/30
	知床沼方面入山者(B)	18	41	22	8	7	2	98	11月は利用者無し
	知床岬方面(A-B)	0	1	111	49	11	0	172	
平成26年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	4	18	92	26	42	6	188	設置期間:5/13~11/5
	知床沼方面入山者(B)	5	28	26	12	24	6	101	11月は利用者無し
	知床岬方面(A-B)	0	0	66	14	18	0	98	
平成27年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	2	34	83	24	17	7	167	設置期間:5/18~10/22
	知床沼方面入山者(B)	5	9	23	14	8	7	66	
	知床岬方面(A-B)	0	25	60	10	9	0	104	
平成28年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	5	53	126	35	2	3	224	設置期間:5/23~3/1
	知床沼方面入山者(B)	4	45	47	15	0	0	111	
	知床岬方面(A-B)	1	8	79	20	2	3	113	
平成29年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	
	知床沼方面入山者(B)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	カウンター未設置
	知床岬方面(A-B)	-	-	-	-	-	-	-	
平成30年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	-	26	100	51	13	9	199	
	知床沼方面入山者(B)	-	7	11	18	7	13	56	設置期間:5/23~3/1
	知床岬方面(A-B)	-	19	89	33	6	0	147	
平成28年比	知床沼方面(B)	-	16%	23%	120%	-	-	50%	
平成28年比	知床岬方面(A-B)	-	238%	113%	165%	300%	0%	130%	
世界遺産登録前(平成16年)比	知床沼方面(B)	-	58%	12%	36%	33%	108%	30%	
世界遺産登録前(平成16年)比	知床岬方面(A-B)	-	106%	156%	55%	17%	0%	85%	

※知床岬方面がマイナス値になる場合は0に置き換えている。

● 知床岬・知床沼方面入山者(A)：観音岩カウンターデータの入山数

- ・ 観音岩往復の利用者も若干含む。
- ・ 7月～8月は「ふるさと少年探検隊」の利用を含む。

● 知床沼方面入山者(B)：ウナキベツカウンターデータの入山数

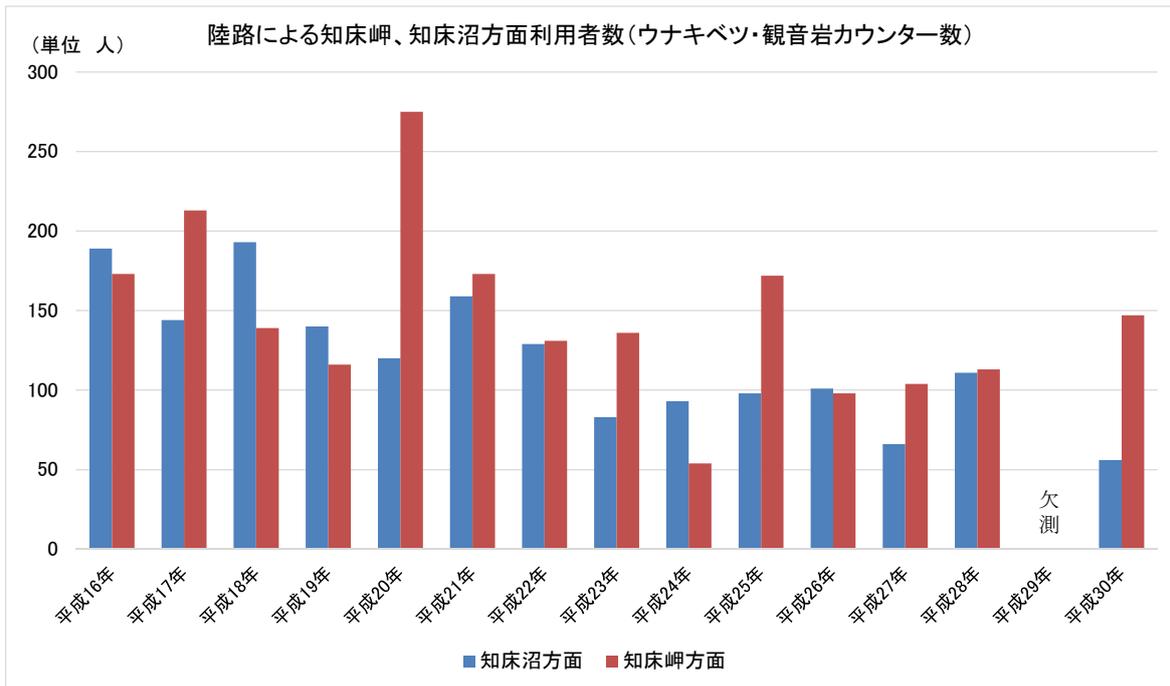


図 2-14 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数 (ウナキベツ・観音岩カウンター調査)

データ提供：環境省カウンター調査

コメント：平成 28 年度比（前年、カウンターデータ欠測のため）知床沼方面利用者は 50%減、知床岬方面利用者は 30%増となっている。

(7) 入山カウンター、入林簿等整理

i) 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入山簿等からの入山者数とそのうちの縦走利用者数

表 2-14 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入山簿等からの入山者数とそのうちの縦走利用者数

	入山者			内、縦走利用者			入山者に占める縦走利用者の割合	
	組数	人数	前年比	組数	人数	前年比		
平成17年	3,412	8,418	-	339	777	-	9.2%	
平成18年	3,092	7,718	92%	143	395	51%	5.1%	
平成19年	2,621	6,341	82%	133	289	73%	4.6%	
平成20年	2,490	6,467	102%	106	251	87%	3.9%	
平成21年	2,439	5,259	81%	117	238	95%	4.5%	
平成22年	-	5,122	97%	106	207	87%	4.0%	
平成23年	岩尾別	2,099	4,720	-	108	270	-	5.7%
	羅臼温泉	135	204	-	3	6	-	2.9%
	硫黄山	-	391	-	-	45	-	11.5%
	合計	2,234	5,315	104%	111	321	155%	6.0%
平成24年	岩尾別	2,100	4,660	99%	120	324	120%	7.0%
	羅臼温泉	125	250	123%	8	12	200%	4.8%
	硫黄山	-	559	143%	-	65	144%	11.6%
	合計	2,225	5,469	103%	128	401	125%	7.3%
平成25年	岩尾別	2,212	4,712	101%	138	343	106%	7.3%
	羅臼温泉	126	218	87%	7	11	92%	5.0%
	硫黄山	294	447	80%	13	18	28%	4.0%
	合計	2,632	5,377	98%	158	372	93%	6.9%
平成26年	岩尾別	2,199	4,458	95%	141	307	90%	6.9%
	羅臼温泉	135	191	88%	6	8	73%	4.2%
	硫黄山	278	570	128%	42	88	489%	15.4%
	合計	2,612	5,219	97%	189	403	108%	7.7%
平成27年	岩尾別	2,565	5,254	118%	116	333	108%	6.3%
	羅臼温泉	167	346	181%	11	16	200%	4.6%
	硫黄山	214	459	81%	49	114	130%	24.8%
	合計	2,946	6,059	116%	176	463	115%	7.6%
平成28年	岩尾別	2,251	4,776	91%	118	313	94%	6.6%
	羅臼温泉	111	191	55%	5	16	100%	8.4%
	硫黄山	189	350	76%	44	85	75%	24.3%
	合計	2,551	5,317	88%	167	414	89%	7.8%
平成29年	岩尾別	2,590	5,131	107%	104	228	73%	4.4%
	羅臼温泉	167	262	137%	9	11	69%	4.2%
	硫黄山	212	455	130%	90	196	231%	43.1%
	硫黄山より入山	150	311	-	28	52	-	-
	岩尾別内	60	141	-	60	141	-	-
	羅臼温泉内	2	3	-	2	3	-	-
合計	2,969	5,848	110%	203	435	105%	7.4%	
平成30年	岩尾別	2,245	4,273	83%	103	269	118%	6.3%
	羅臼温泉	143	244	93%	8	16	145%	6.6%
	硫黄山	213	487	107%	-	-	-	-
	合計	2,601	5,004	86%	111	285	66%	5.7%

- 岩尾別：岩尾別登山口の入山簿データを取りまとめて使用した。
- 羅臼温泉：羅臼温泉登山口の入山簿データを取りまとめて使用した。
- 硫黄山：網走建設管理部がまとめた6月15日から9月30日までの道路特例使用制度を利用した硫黄山登山口利用者データを使用した。縦走者数は不明（縦走者等の内訳が不明なため）

【過去データのとりまとめ方法】

- ・入山：平成17年～平成21年…両登山口の入山簿をもとに林野庁がまとめたデータを引用。
- ・平成17年：硫黄山登山口も利用可能であったが、データに含めず。
- ・平成22年：林野庁がまとめた岩尾別登山口および羅臼温泉登山口の入山簿からのカウントの合算による。

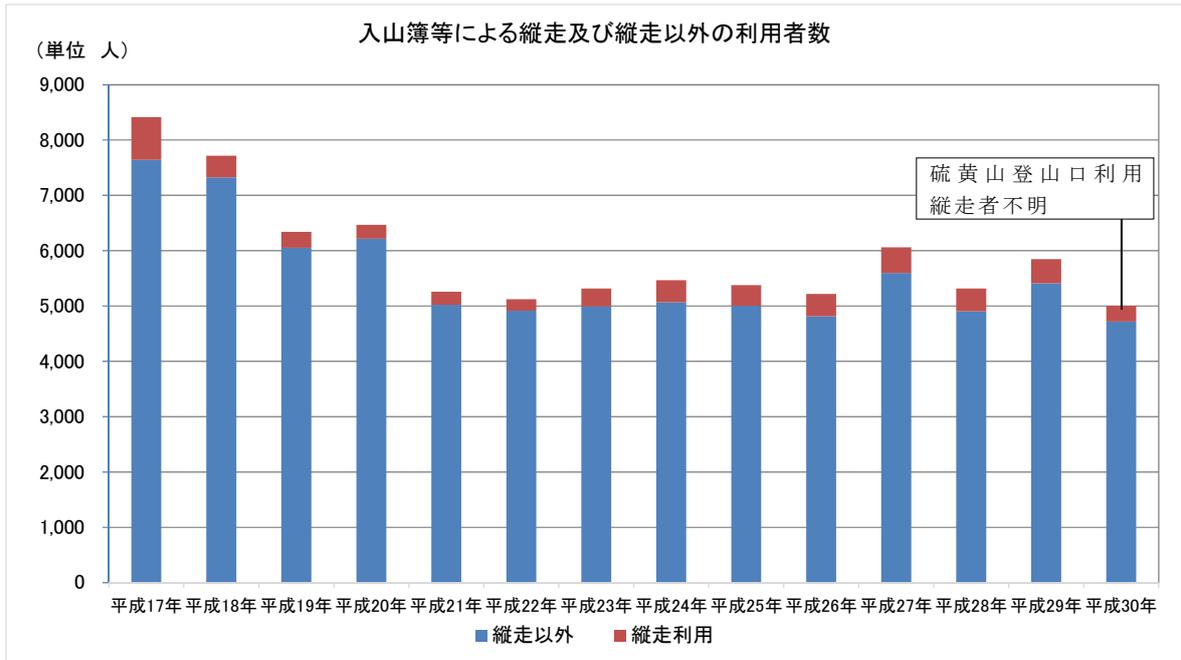


図 2-15 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入山簿等による縦走及び縦走以外の利用者数

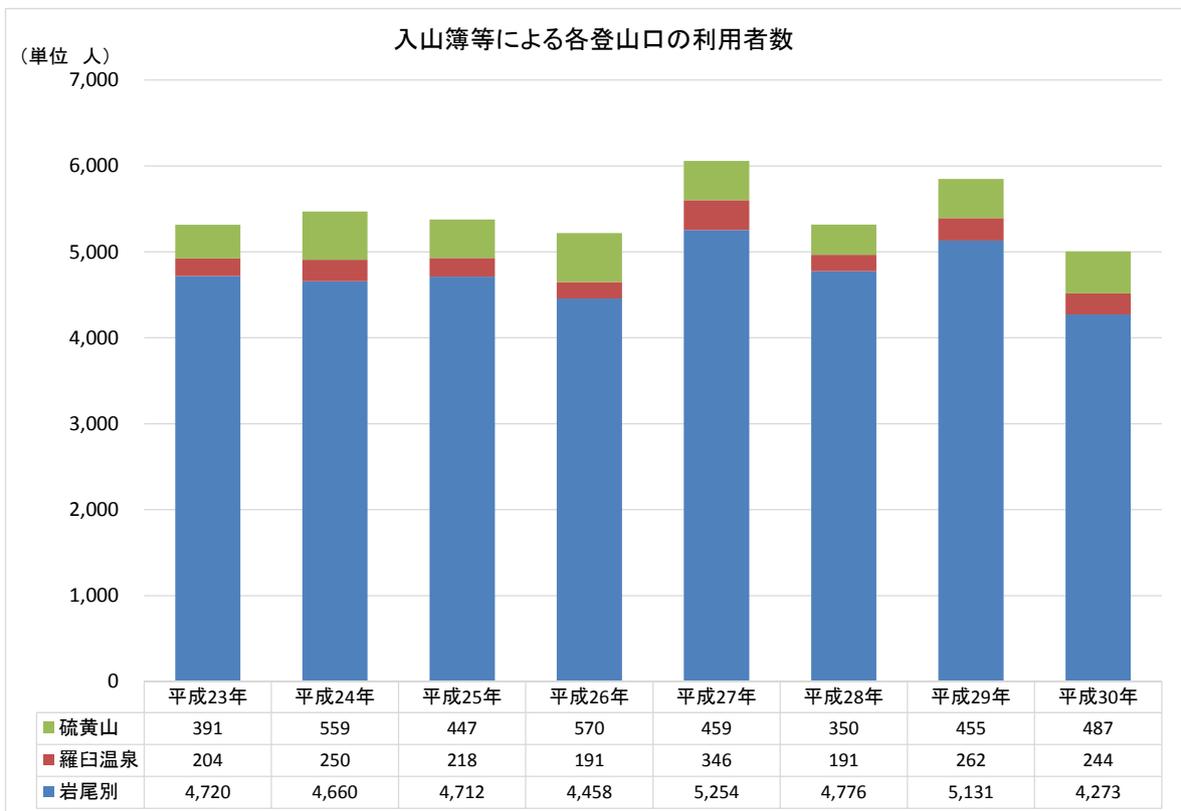


図 2-16 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入山簿等による登山口の利用者数

ii) 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における
入山簿等からの月別縦走利用者数

表 2-15 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における
入山簿等からの月別縦走利用者数

		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成17年	縦走利用者数	9	0	0	3	20	335	317	89	4	0	0	777
	入山者数	9	0	0	48	416	3,517	2,621	1,546	246	15	0	8,418
平成18年	縦走利用者数	0	0	0	5	14	218	101	52	2	3	0	395
	入山者数	0	0	6	40	388	3,535	2,253	1,276	202	18	0	7,718
平成19年	縦走利用者数	0	0	0	0	8	186	70	19	5	1	0	289
	入山者数	0	0	11	41	327	2,828	2,020	888	214	12	0	6,341
平成20年	縦走利用者数	0	0	0	0	20	126	61	39	5	0	0	251
	入山者数	0	0	12	64	540	2,543	1,807	1,262	230	4	5	6,467
平成21年	縦走利用者数	0	0	0	0	17	103	89	28	1	0	0	238
	入山者数	0	0	15	25	433	1,991	1,678	947	164	6	0	5,259
平成22年	縦走利用者数	0	0	0	2	14	65	83	32	11	0	0	207
	入山者数	0	0	6	67	356	1,878	1,779	789	240	7	0	5,122
平成23年	縦走利用者数	0	0	2	0	6	138	122	8	0	0	0	276
	入山者数	0	0	8	15	320	1,863	1,710	790	218	0	0	4,924
平成23年	縦走利用者数 (硫黄山含む)	0	0	2	0	6	177	128	8	0	0	0	321
	入山者数 (硫黄山含む)	0	0	8	15	373	2,129	1,782	790	218	0	0	5,315
平成24年	縦走利用者数	0	0	0	6	31	56	74	68	11	4	0	250
	入山者数	0	0	11	14	156	710	718	375	116		0	2,100
平成24年	縦走利用者数 (硫黄山含む)	0	0	0	0	15	143	178	59	6	0	0	401
	入山者数 (硫黄山含む)	0	0	22	24	409	2,028	1,834	958	190	4	0	5,469
平成25年	縦走利用者数	0	0	0	0	1	151	152	40	10	0	0	354
	入山者数	0	0	2	11	199	1,763	1,745	1,007	201	2	0	4,930
平成25年	縦走利用者数 (硫黄山含む)	0	0	0	0	1	161	158	42	10	0	0	372
	入山者数 (硫黄山含む)	0	0	2	11	199	2,041	1,824	1,097	201	2	0	5,377
平成26年	縦走利用者数	0	0	0	1	28	97	119	68	2	0	0	315
	入山者数	0	0	4	52	266	1,730	1,527	868	197	5	0	4,649
平成26年	縦走利用者数 (硫黄山含む)	0	0	0	1	31	130	148	91	2	0	0	403
	入山者数 (硫黄山含む)	0	0	4	52	314	1,986	1,681	980	197	5	0	5,219
平成27年	縦走利用者数	0	0	2	0	46	138	125	37	1	0	0	349
	入山者数	0	0	6	29	331	2,034	1,814	1,122	259	5	0	5,600
平成27年	縦走利用者数 (硫黄山含む)	0	0	2	0	95	172	146	47	1	0	0	463
	入山者数 (硫黄山含む)	0	0	8	38	452	2,218	1,903	1,176	259	5	0	6,059
平成28年	縦走利用者数	0	0	0	0	22	158	93	55	1	0	0	329
	入山者数	0	0	1	22	304	2,065	1,419	1,003	149	4	0	4,967
平成28年	縦走利用者数 (硫黄山含む)	0	0	0	0	28	201	111	73	1	0	0	414
	入山者数 (硫黄山含む)	0	0	1	22	366	2,225	1,472	1,078	149	4	0	5,317
平成29年	縦走利用者数	0	0	0	0	17	101	103	18	0	0	0	239
	入山者数	0	0	0	35	320	2,070	1,883	941	144	0	0	5,393
平成29年	縦走利用者数 (硫黄山含む)	0	0	0	0	50	184	169	32	0	0	0	435
	入山者数 (硫黄山含む)	0	0	0	35	396	2,298	1,992	983	144	0	0	5,848
平成30年	縦走利用者数	0	0	0	0	24	140	77	38	1	6	0	286
	入山者数	0	0	5	32	262	1,591	1,466	967	181	13	0	4,517
平成30年	入山者数 (硫黄山含む)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5,004

- 岩尾別登山口、羅臼温泉登山口の入山簿データ及び、網走建設管理部がまとめた6月15日から9月30日までの道路特例使用制度を利用した硫黄山登山口利用者データを使用した。(期間内利用者数487人、月別の利用は不明。)
- 「(硫黄山含む)」は、道路特例使用制度を利用した硫黄山登山口利用申請者データを含めた。(平成23年～平成29年)

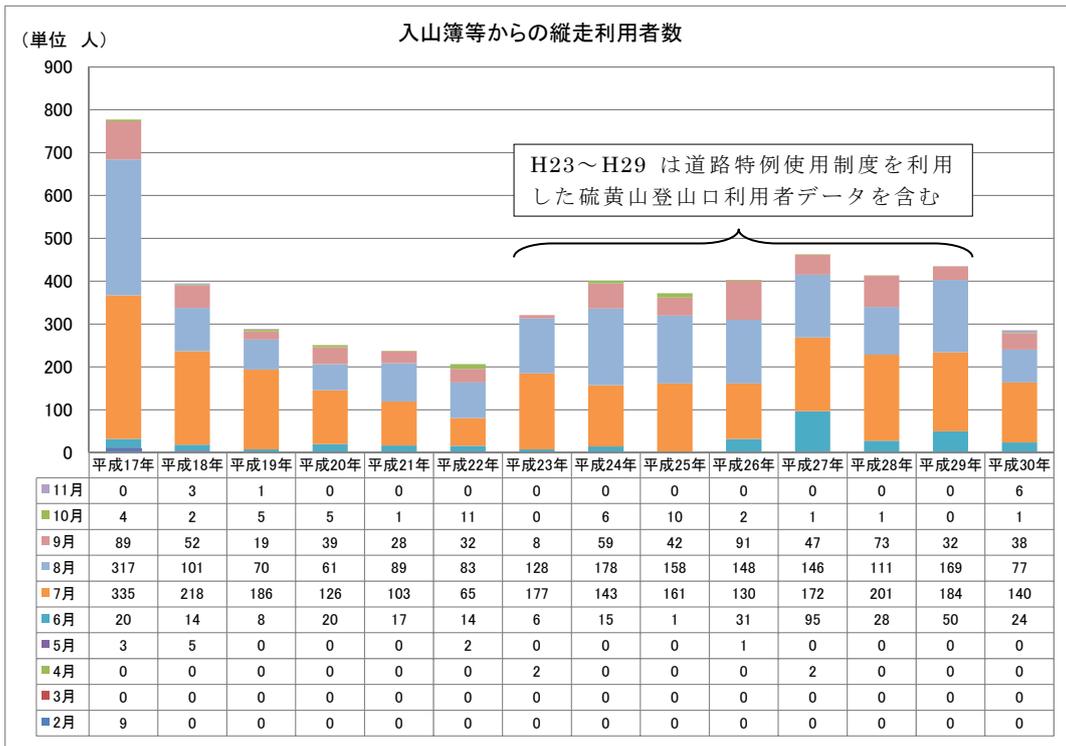


図 2-17 入山簿等からの縦走利用者数

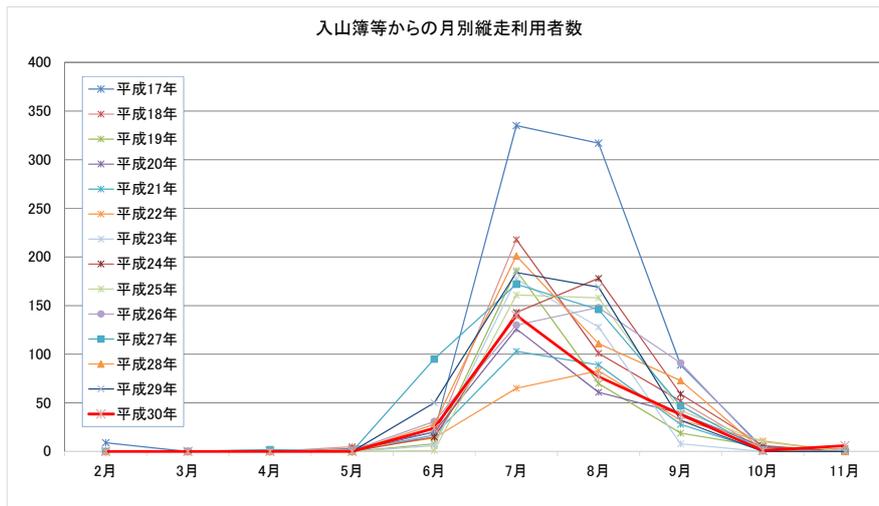


図 2-18 入山簿等からの月別縦走利用者数

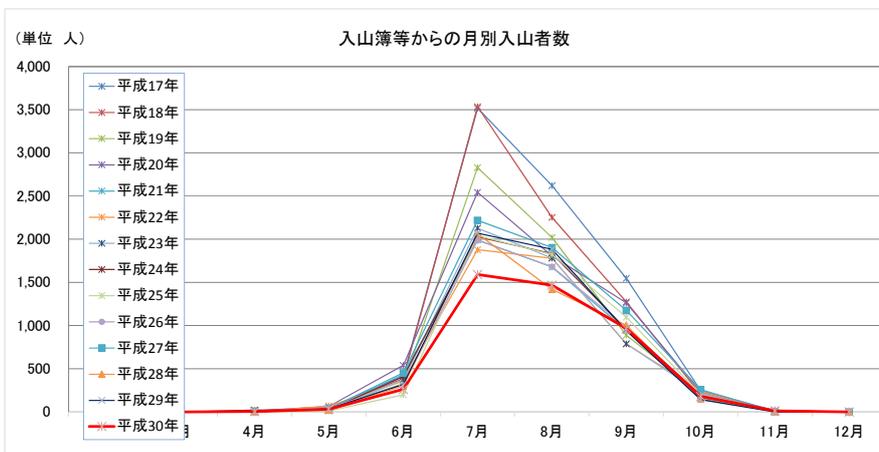


図 2-19 入山簿等からの月別入山者数

iii) 縦走利用者の各登山口の入山簿からの入下山者数
 縦走利用者の登山口利用状況については、入山先は岩尾別が最も多く、下山先は硫黄山が最も多くなっている。

表 2-16 縦走利用者の各登山口の入山簿からの入下山者数

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	
入山	岩尾別	686	374	276	234	216	195	270	324	340	307	333	313	369	269
	羅臼温泉	35	21	13	17	22	12	6	12	11	8	16	16	14	16
	硫黄山	45	0	0	0	0	0	45	65	21	88	114	85	52	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	不明	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下山	岩尾別	175	298	216	188	169	191	34	73	66	111	41	102	62	41
	羅臼温泉	9	14	17	6	20	5	11	18	10	1	1	2	7	1
	硫黄山*	469	43	21	6	0	0	143	184	190	273	178	240	329	178
	その他	4	0	5	7	0	0	30	10	1	6	0	14	0	0
	不明	120	40	30	44	49	6	103	116	105	13	66	56	37	66

*カムイワッカとの記載は硫黄山登山口に含む。

iv) 入山簿からの縦走利用者滞在日数
 縦走利用者の滞在日数は、2日が多くなついで3日が多くなっている。

表 2-17 入山簿からの縦走利用者滞在日数

	日帰り*	2日	3日	4日以上	不明
平成17年	120	463	149	33	12
平成18年	22	177	161	24	11
平成19年	41	114	101	14	19
平成20年	25	85	114	24	3
平成21年	46	81	99	8	4
平成22年	38	84	75	10	0
平成23年	21	156	111	9	24
平成24年	17	256	99	6	23
平成25年	18	209	121	10	14
平成26年	39	208	124	31	1
平成27年	23	197	148	15	80
平成28年	69	250	73	15	7
平成29年	37	236	65	20	77
平成30年	17	164	85	1	19

*日帰りとは入山と下山が同一日で、縦走路のポイントを目的地としたもの

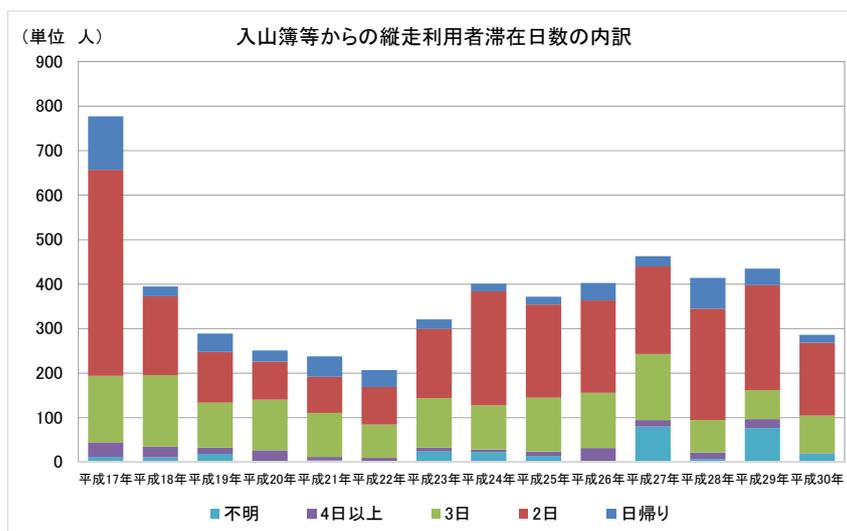


図 2-20 入山簿等からの縦走利用者滞在日数の内訳

- v) 各キャンプ地の入山簿からの縦走利用宿泊者数
 キャンプ地は二つ池の利用が最も多く、ついで三ツ峰となっている。

表 2-18 各キャンプ地の入山簿からの縦走利用宿泊者数

	羅臼平	三ツ峰	二つ池	第一火口	その他	不明	合計
平成17年	107	123	326	122	-	137	815
平成18年	67	119	198	11	-	47	442
平成19年	21	121	132	17	-	20	311
平成20年	17	37	50	4	-	9	117
平成21年	44	54	114	6	-	18	236
平成22年	17	92	112	3	-	14	238
平成23年	30	83	171	55	-	46	385
平成24年	54	102	159	97	2	47	461
平成25年	19	109	183	83	15	78	487
平成26年	78	123	176	94	0	139	610
平成27年	36	104	171	95	0	40	446
平成28年	21	65	212	58	2	115	473
平成29年	15	62	121	55	0	33	286
平成30年	40	74	128	52	0	57	351

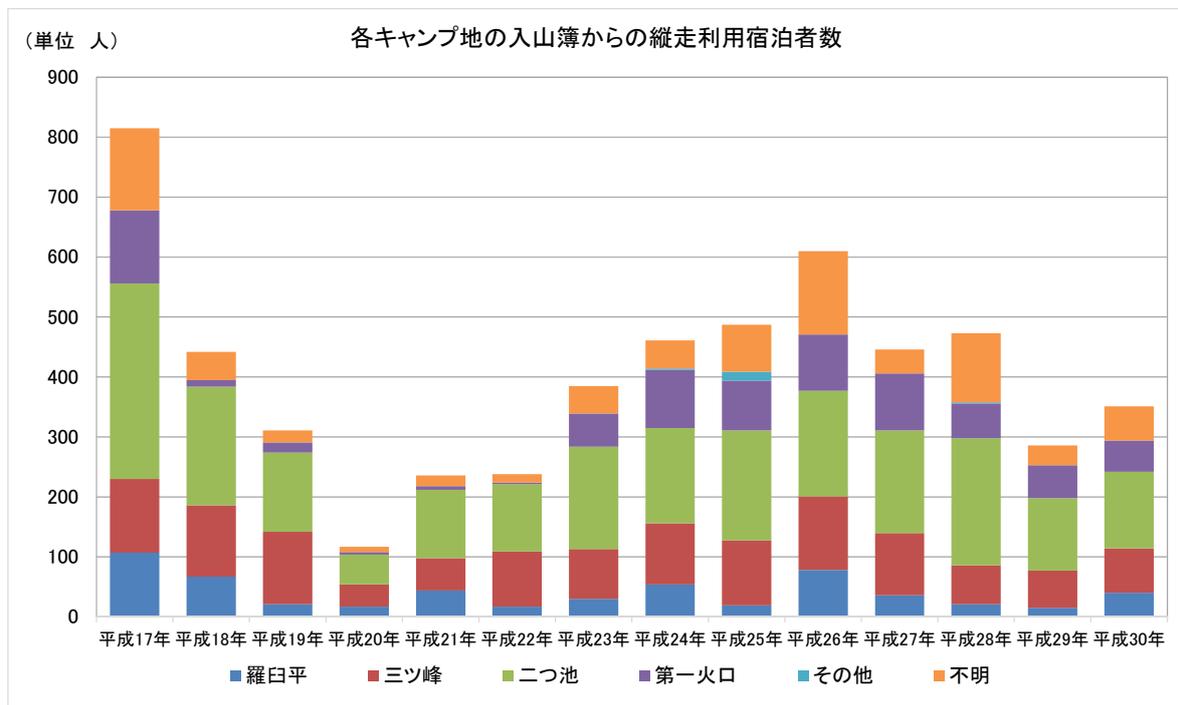


図 2-21
 各キャンプ地の入山簿からの縦走利用宿泊者数

○縦走利用者数の推移について

年間の縦走利用者数は、昨年の 435 人と比較すると本年は 286 人に減少し、3ヶ所の登山口全体で前年比 34%減となった。これは本年、硫黄山縦走利用者データが入手できなかったためであり、実状とは異なると考えられる。

縦走利用者は、岩尾別登山口は 18%増、羅臼温泉登山口は 45%増（表 2-19）であった。

表 2-19 各登山口からの縦走利用者数の比較

		入山者			内、縦走利用者			入山者に占める 縦走利用者の 割合
		組数	人数	前年比	組数	人数	前年比	
平成28年	岩尾別	2,251	4,776	91%	118	313	94%	6.6%
	羅臼温泉	111	191	55%	5	16	100%	8.4%
	硫黄山	189	350	76%	44	85	75%	24.3%
	合計	2,551	5,317	88%	167	414	89%	7.8%
平成29年	岩尾別	2,590	5,131	107%	104	228	73%	4.4%
	羅臼温泉	167	262	137%	9	11	69%	4.2%
	硫黄山	212	455	130%	90	196	231%	43.1%
	合計	2,969	5,848	110%	203	435	105%	7.4%
平成30年	岩尾別	2,245	4,273	83%	103	269	118%	6.3%
	羅臼温泉	143	244	93%	8	16	145%	6.6%
	硫黄山	213	487	107%	-	-	-	-
	合計	2,601	5,004	86%	111	285	66%	5.7%

表 2-20 入山簿等からの縦走利用者の推移

	縦走利用者数	入山者数	斜里町観光客 入込数 (1月～12月)	斜里町観光客 入込数 (7月～9月)
平成17年	777	8,418	1,732,029	891,242
平成18年	395	7,718	1,656,448	840,720
平成19年	289	6,341	1,436,191	751,925
平成20年	251	6,467	1,318,036	667,945
平成21年	238	5,259	1,193,586	619,005
平成22年	207	5,122	1,219,493	642,356
平成23年	321	5,315	1,183,653	641,940
平成24年	401	5,469	1,268,564	679,907
平成25年	372	5,377	1,228,901	666,292
平成26年	403	5,219	1,140,466	637,100
平成27年	463	6,059	1,210,887	664,607
平成28年	414	5,317	1,195,668	636,015
平成29年	435	5,848	1,209,075	643,034
平成30年	286	5,004	1,140,221	589,852

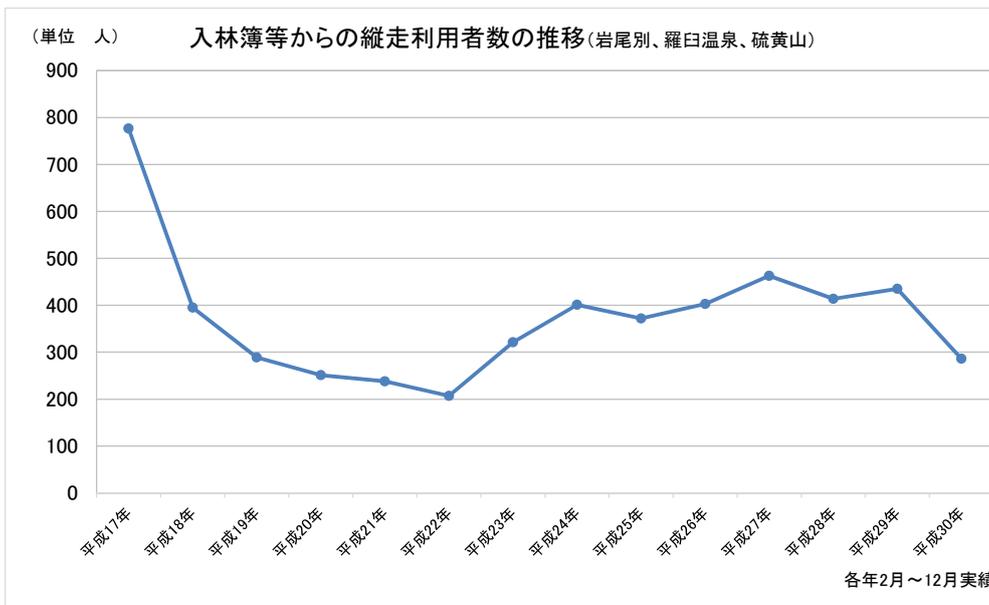


図 2-22 入山簿からの縦走利用者の推移

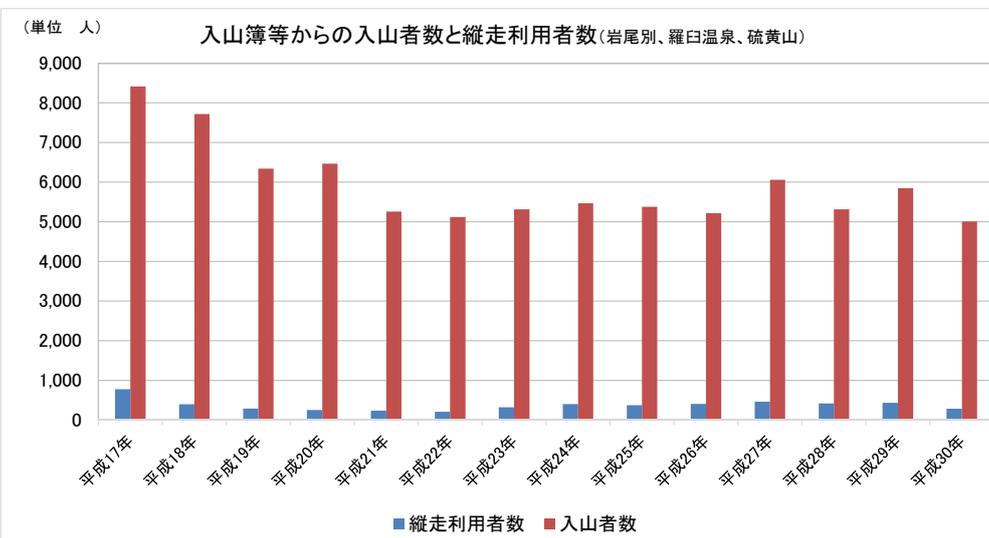


図 2-23 入山簿からの入山者数と縦走利用者数

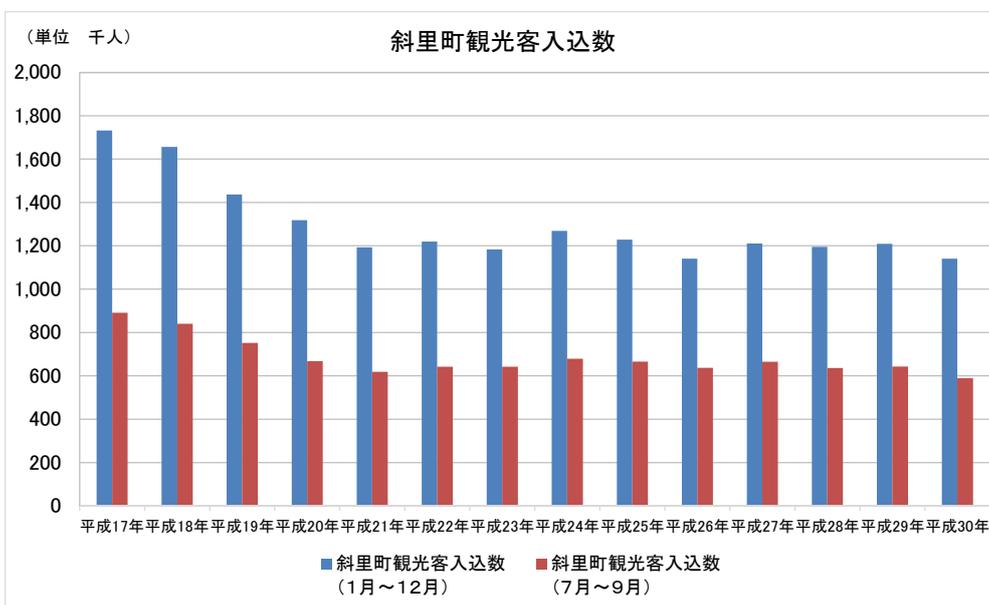


図 2-24 斜里町観光客入込数（1月～12月）と斜里町観光客入込数（7～9月）の比較

表 2-21 7月の気象状況比較（宇登呂アメダス）

7月	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	平均風速 (m/s)	日照時間 (時間)
平年値	100.6	17.0	21.3	13.1	0.9	168.4
平成28年	80.0	17.0	30.0	7.9	0.8	181.2
平成29年	64.5	19.8	34.1	10.4	0.6	195.4
平成30年	160.5	17.2	32.3	6.2	0.6	161.6

表 2-22 8月の気象状況比較（宇登呂アメダス）

8月	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	平均風速 (m/s)	日照時間 (時間)
平年値	119.3	19.0	23.3	15.1	1.0	161.5
平成28年	800.5	21.1	33.0	11.2	1.2	164.5
平成29年	31.0	17.4	27.5	10.1	0.7	116.2
平成30年	170.5	17.3	30.7	9.6	0.7	129.9

表 2-23 9月の気象状況比較（宇登呂アメダス）

9月	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	平均風速 (m/s)	日照時間 (時間)
平年値	128.8	15.4	19.6	11.5	1.4	140.5
平成28年	99.0	15.9	29.3	5.0	1.0	148.5
平成29年	301.0	15.2	26.9	5.1	1.4	146.5
平成30年	57.5	16.0	29.7	3.4	1.3	160.8

○カウンターデータとの関係

入山簿の記入は、カウンターデータの83.9%であった。

表 2-24 岩尾別登山口と羅臼温泉登山口における利用者数のカウンターと入山簿の比較

	A:カウンター 岩尾別	B:カウンター 湯の沢(羅臼温泉)	C=A+B	D:入林簿岩尾別+羅臼温泉	D/C*100
平成17年	9,878	599	10,477	8,418	80.3
平成18年	9,081	589	9,670	7,718	79.8
平成19年	7,160	688	7,848	6,341	80.8
平成20年	7,187	533	7,720	6,467	83.8
平成21年	6,208	591	6,799	5,259	77.3
平成22年	6,041	487	6,528	5,122	78.5
平成23年	5,278	453	5,731	4,924	85.9
平成24年	5,466	438	5,904	4,860	82.3
平成25年	5,267	434	5,701	4,915	86.2
平成26年	5,513	384	5,897	4,588	77.8
平成27年	6,234	818	7,052	5,600	79.4
平成28年	5,298	345	5,643	4,940	87.5
平成29年	5,115	欠測	5,115	5,096	99.6
平成30年	4,863	463	5,326	4,467	83.9

- 平成29年は岩尾別登山口のみについて比較
 - ・岩尾別カウンターデータの内、10/7～10/25は入林簿のデータを基に「カウンター数値と入山簿数の比率（H17～H28平均値81.6%）により算出
- カウンター値及び入山簿は、6月～10月までのデータを使用

○滞在日数の変化について

平成17年以降、1泊2日及び2泊3日の行程を組む登山者が多い状況である。

表 2-25 入山簿からの縦走利用者の滞在日数

	日帰り※		2日		3日		4日以上		その他・不明		計
平成17年	120	15%	463	60%	149	19%	33	4%	12	2%	777
平成18年	22	6%	177	45%	161	41%	24	6%	11	3%	395
平成19年	41	14%	114	39%	101	35%	14	5%	19	7%	289
平成20年	25	10%	85	34%	114	45%	24	10%	3	1%	251
平成21年	46	19%	81	34%	99	42%	8	3%	4	2%	238
平成22年	38	18%	84	41%	75	36%	10	5%	0	0%	207
平成23年	21	7%	156	49%	111	35%	9	3%	24	7%	321
平成24年	17	4%	256	64%	99	25%	6	1%	23	6%	401
平成25年	18	5%	209	56%	121	33%	10	3%	14	4%	372
平成26年	31	16%	101	53%	45	24%	11	6%	1	1%	189
平成27年	23	5%	197	43%	148	32%	15	3%	80	17%	463
平成28年	69	17%	250	60%	73	18%	15	4%	7	2%	414
平成29年	37	9%	236	54%	65	15%	20	5%	77	18%	435
平成30年	17	6%	164	57%	85	30%	1	0%	19	7%	286

○野営の利用状況

平成17年以降、他の野営地に比べて二つ池の利用が多い状況が続いている。

表 2-26 入山簿からの野営の利用状況

	羅臼平		三ツ峰		二つ池		第一火口		その他・不明		計
平成17年	107	13%	123	15%	326	40%	122	15%	137	17%	815
平成18年	67	15%	119	27%	198	45%	11	2%	47	11%	442
平成19年	21	7%	121	39%	132	42%	17	5%	20	6%	311
平成20年	17	15%	37	32%	50	43%	4	3%	9	8%	117
平成21年	44	19%	54	23%	114	48%	6	3%	18	8%	236
平成22年	17	7%	92	39%	112	47%	3	1%	14	6%	238
平成23年	30	8%	83	22%	171	44%	55	14%	46	12%	385
平成24年	54	12%	102	22%	159	34%	97	21%	49	11%	461
平成25年	19	4%	109	22%	183	38%	83	17%	93	19%	487
平成26年	41	15%	53	19%	78	29%	33	12%	68	25%	273
平成27年	36	8%	104	23%	171	38%	95	21%	40	9%	446
平成28年	21	4%	65	14%	212	45%	58	12%	117	25%	473
平成29年	15	5%	62	22%	121	42%	55	19%	33	12%	286
平成30年	40	11%	74	21%	128	36%	52	15%	57	16%	351

2-6 観光船・シーカヤック・サケマス釣りの利用者数

(1) 観光船利用者数

i) ウトロ地区観光船利用者数

表 2-27 ウトロ地区観光船利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成19年	ウトロ観光船利用者数(人)	1,986	14,462	51,377	52,690	71,453	38,094	17,306	-	247,368	
	回答率勘案値(人)	2,309	16,816	59,741	61,267	83,085	44,295	20,123	-	287,636	乗船定員989名/1145名=0.86
平成20年	ウトロ観光船利用者数(人)	2,028	22,269	42,049	47,962	50,278	39,989	23,359	-	227,934	
	回答率勘案値(人)	2,386	26,199	49,469	56,426	59,151	47,046	27,481	-	268,158	乗船定員946名/1114名=0.85
平成21年	ウトロ観光船利用者数(人)	608	16,063	32,169	32,664	46,872	31,226	11,315	-	170,917	
	回答率勘案値(人)	741	19,589	39,230	39,834	57,161	38,080	13,799	-	208,434	乗船定員955名/1163名=0.82
平成22年	ウトロ観光船利用者数(人)	1,037	13,858	27,236	33,906	50,748	26,477	17,195	-	170,457	
	回答率勘案値(人)	1,280	17,109	33,625	41,859	62,652	32,688	21,228	-	210,441	乗船定員943名/1163名=0.81
平成23年	ウトロ観光船利用者数(人)	1,096	9,592	23,808	34,440	46,387	32,049	12,461	720	160,553	
	回答率勘案値(人)	1,274	11,153	27,684	40,047	53,938	37,266	14,490	837	186,690	乗船定員997名/1161名=0.86
平成24年	ウトロ観光船利用者数(人)	1,635	11,983	26,517	34,111	49,182	35,542	11,116	129	170,215	
	回答率勘案値(人)	1,901	13,934	30,834	39,664	57,188	41,328	12,926	150	197,924	乗船定員999名/1163名=0.86
平成25年	ウトロ観光船利用者数(人)	96	7,800	26,812	41,410	47,022	33,123	13,056	413	169,732	
	回答率勘案値(人)	112	9,070	31,177	48,151	54,677	38,515	15,181	480	197,363	乗船定員997名/1161名=0.86
平成26年	ウトロ観光船利用者数(人)	848	6,387	22,539	34,613	38,966	27,234	9,180	146	139,913	
	回答率勘案値(人)	986	7,427	26,208	40,248	45,309	31,667	10,674	170	162,690	乗船定員997/1164名=0.86
平成27年	ウトロ観光船利用者数(人)	538	10,599	20,535	32,780	39,162	29,277	7,285	316	140,492	
	回答率勘案値(人)	626	12,324	23,878	38,116	45,537	34,043	8,471	367	163,363	乗船定員997/1164名=0.86
平成28年	ウトロ観光船利用者数(人)	205	9,182	20,325	32,001	31,361	21,725	7,068	143	122,010	
	回答率勘案値(人)	238	10,677	23,634	37,210	36,466	25,262	8,219	166	141,872	乗船定員985/1152名=0.86
平成29年	ウトロ観光船利用者数(人)	864	12,756	21,834	32,305	37,863	21,229	10,024	45	136,920	
	回答率勘案値(人)	993	14,662	25,097	37,132	43,521	24,401	11,522	52	157,379	乗船定員1044/1206名=0.87
平成30年	ウトロ観光船利用者数(人)	1,287	10,187	20,485	28,273	34,068	15,611	8,162	-	118,073	
	回答率勘案値(人)	1,479	11,709	23,546	32,498	39,159	17,944	9,382	-	135,716	乗船定員1044/1206名=0.87
前年比		149%	80%	94%	88%	90%	74%	81%	-	86%	

回答率勘案値(人)：利用者数(回収したデータ)×回答が得られた船舶の乗船定員/地区の全船舶の乗船定員
平成28年データの修正を行った。(新たにデータを取得したため)

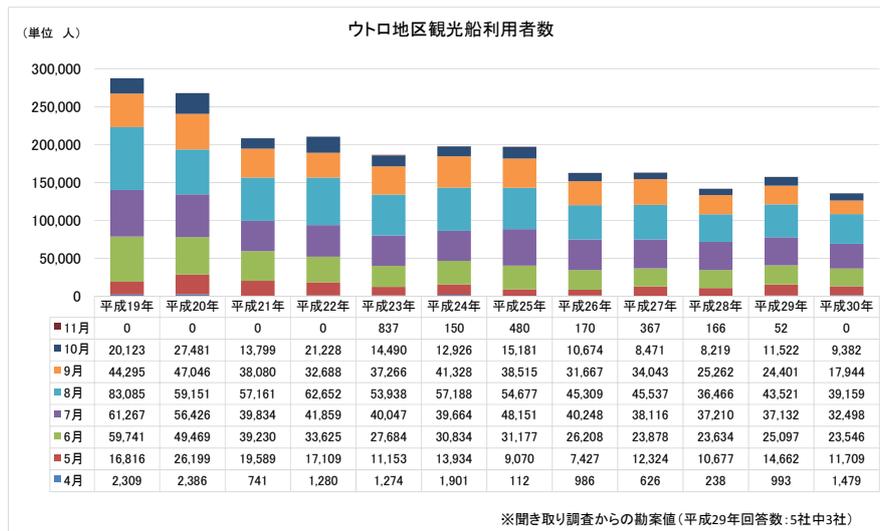


図 2-25 ウトロ地区観光船利用者数(回答率勘案値)

データ提供：聞き取り調査による(5社中3社データからの推計値)

コメント：前年比14%減となっている。毎月利用者は4月のみ前年比49%増であるが、それ以外の月はすべて前年より減少している。

ii) 羅臼地区観光船利用者数

表 2-28 羅臼地区観光船利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成19年	羅臼地区観光船利用者数(人)	-	1,031	128	11	74	316	355	1,225	577	94	24	3,835	
	回答率勘案値(人)	-	1,031	128	11	74	316	355	1,225	577	94	24	3,835	乗船定員383名/383名=1.0
平成20年	羅臼地区観光船利用者数(人)	29	1,516	631	288	423	615	1,252	2,300	1,332	170	-	8,556	
	回答率勘案値(人)	29	1,516	631	288	423	615	1,252	2,300	1,332	170	-	8,556	乗船定員357名/357名=1.0
平成21年	羅臼地区観光船利用者数(人)	10	541	389	128	661	580	1,370	2,329	1,157	194	-	7,359	
	回答率勘案値(人)	10	541	389	128	661	580	1,370	2,329	1,157	194	-	7,359	乗船定員344名/344名=1.0
平成22年	羅臼地区観光船利用者数(人)	25	1,793	486	64	599	807	1,618	3,829	1,437	472	-	11,130	
	回答率勘案値(人)	25	1,793	486	64	599	807	1,618	3,829	1,437	472	-	11,130	乗船定員344名/344名=1.0
平成23年	羅臼地区観光船利用者数(人)	36	2,213	581	194	940	863	1,763	4,521	1,629	321	-	13,061	
	回答率勘案値(人)	36	2,213	581	194	940	863	1,763	4,521	1,629	321	-	13,061	乗船定員377名/377名=1.0
平成24年	羅臼地区観光船利用者数(人)	28	2,395	591	238	854	1,371	2,617	5,011	1,744	490	-	15,339	
	回答率勘案値(人)	35	2,957	730	294	1,054	1,693	3,231	6,186	2,153	605	-	18,937	乗船定員307名/377名=0.81
平成25年	羅臼地区観光船利用者数(人)	42	3,221	665	108	656	1,172	2,443	4,621	1,525	270	43	14,766	
	回答率勘案値(人)	50	3,835	792	129	781	1,395	2,908	5,501	1,815	321	51	17,579	乗船定員314名/374名=0.84
平成26年	羅臼地区観光船利用者数(人)	0	1,988	492	92	1,281	2,603	4,259	7,011	2,480	397	24	20,627	
	回答率勘案値(人)	0	1,988	492	92	1,281	2,603	4,259	7,011	2,480	397	24	20,627	乗船定員237名/237名=1.0
平成27年	羅臼地区観光船利用者数(人)	57	3,505	734	42	1,560	3,147	5,367	6,739	2,659	175	-	23,985	
	回答率勘案値(人)	57	3,505	734	42	1,560	3,147	5,367	6,739	2,659	175	-	23,985	乗船定員名249/249名=1.0
平成28年	羅臼地区観光船利用者数(人)	103	4,001	833	25	1,853	3,838	5,199	5,258	2,057	254	-	23,421	
	回答率勘案値(人)	103	4,001	833	25	1,853	3,838	5,199	5,258	2,057	254	-	23,421	乗船定員名283/283名=1.0
平成29年	羅臼地区観光船利用者数(人)	108	4,687	1,530	127	3,213	3,664	5,500	8,194	2,165	539	20	29,747	
	回答率勘案値(人)	108	4,687	1,530	127	3,213	3,664	5,500	8,194	2,165	539	20	29,747	乗船定員名262/262名=1.0
平成30年	羅臼地区観光船利用者数(人)	275	6,263	1,271	379	3,699	3,519	5,964	8,476	2,985	559	15	33,405	
	回答率勘案値(人)	275	6,263	1,271	379	3,699	3,519	5,964	8,476	2,985	559	15	33,405	乗船定員名262/262名=1.0
前年比		255%	134%	83%	298%	115%	96%	108%	103%	138%	104%	75%	112%	

回答率勘案値(人)：利用者数(回収したデータ)×回答が得られた船舶の乗船定員/地区の全船舶の乗船定員



図 2-26 羅臼地区観光船利用者数

データ提供：羅臼町役場産業創生課

コメント：前年比 12% 増となっており、11 年前の 8.7 倍と増加傾向が続いている。

(2) シーカヤック利用者数

表 2-29 シーカヤック利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成19年	シーカヤック利用者数(人)	15	21	39	162	324	18	2	581	
	回答率勘案値(人)	15	21	39	162	324	108	2	671	4社/4社=1.0
平成20年	シーカヤック利用者数(人)	15	25	23	227	448	246	40	1,024	
	回答率勘案値(人)	15	25	23	227	448	246	40	1,024	4社/4社=1.0
平成21年	シーカヤック利用者数(人)	3	79	86	207	481	227	9	1,092	
	回答率勘案値(人)	3	79	86	207	481	227	9	1,092	4社/4社=1.0
平成22年	シーカヤック利用者数(人)	0	71	81	225	527	167	13	1,084	
	回答率勘案値(人)	0	71	81	225	527	167	13	1,084	4社/4社=1.0
平成23年	シーカヤック利用者数(人)	19	48	98	204	464	243	16	1,092	
	回答率勘案値(人)	19	48	98	204	464	243	16	1,092	2社/2社=1.0
平成24年	シーカヤック利用者数(人)	20	-	10	40	103	115	0	288	
	回答率勘案値(人)	61	-	30	121	312	348	0	873	1社/3社=0.33
平成25年	シーカヤック利用者数(人)	-	15	20	55	110	215	-	415	
	回答率勘案値(人)	-	45	61	167	333	652	-	1,258	1社/3社=0.33
平成26年	シーカヤック利用者数(人)	-	1	129	325	512	200	3	1,170	
	回答率勘案値(人)	-	1	129	325	512	200	3	1,170	4社/4社=1.0
平成27年	シーカヤック利用者数(人)	-	12	87	280	361	247	-	987	
	回答率勘案値(人)	-	12	87	280	361	247	-	987	3社/3社=1.0
平成28年	シーカヤック利用者数(人)	-	0	9	96	105	108	-	318	
	回答率勘案値(人)	-	0	18	192	210	216	-	636	2社/4社=0.5
平成29年	シーカヤック利用者数(人)	-	15	89	293	549	190	24	1,160	
	回答率勘案値(人)	-	15	89	293	549	190	24	1,160	3社/3社=1.0
平成30年	シーカヤック利用者数(人)	-	43	60	76	137	122	108	546	
	回答率勘案値(人)	-	64	90	113	204	182	161	815	2社/3社=0.67
前年比		-	-	101%	39%	37%	96%	672%	70%	

● 複数日による利用は人数に日数を乗じて算出している。

● 回答率勘案値(人)：

利用者数(回収したデータ)×回答が得られた事業者/全事業者数(各事業所保有のシーカヤック乗船定員不明)

● 新たに平成29年データの提供があったため、データを修正している。

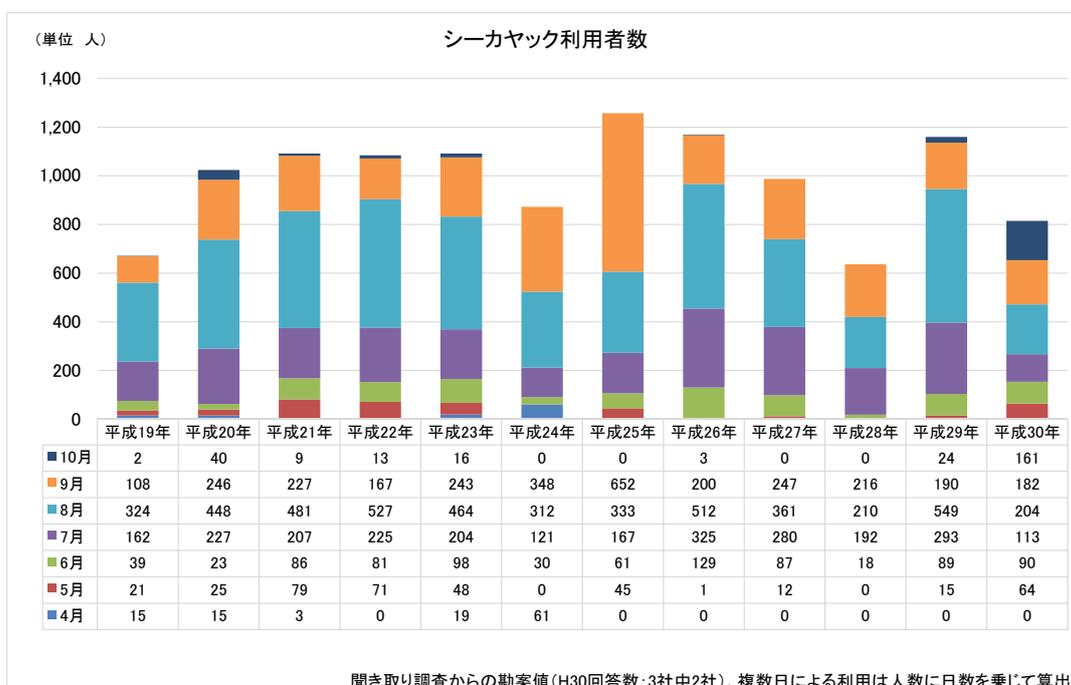


図 2-27 シーカヤック利用者数(回答率勘案値)

データ提供：聞き取りによる調査(3社中2社データ)

コメント：前年比30%減となっているが、データは勘案値のため単純に比較はできない。

(3) サケマス釣り利用者数

i) ウトロ地区沖秋さけライセンス遊漁者人数

表 2-30 ウトロ地区沖秋さけライセンス遊漁者数

	利用者数(人)	前年比
平成10年	2,685	-
平成11年	2,928	109.1%
平成12年	4,138	141.3%
平成13年	2,736	66.1%
平成14年	3,465	126.6%
平成15年	2,889	83.4%
平成16年	3,507	121.4%
平成17年	4,511	128.6%
平成18年	6,378	141.4%
平成19年	6,541	102.6%
平成20年	8,211	125.5%
平成21年	6,803	82.9%
平成22年	6,465	95.0%
平成23年	6,301	97.5%
平成24年	7,701	122.2%
平成25年	7,173	93.1%
平成26年	6,423	89.5%
平成27年	7,317	113.9%
平成28年	6,199	84.7%
平成29年	5,065	81.7%
平成30年	4,959	97.9%

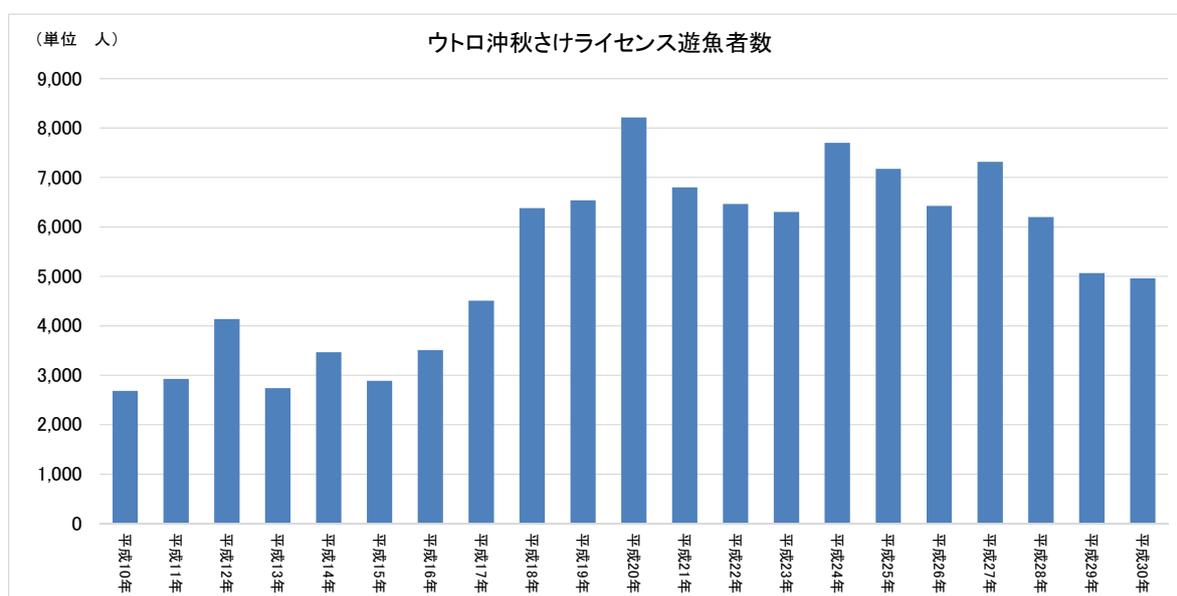


図 2-28 ウトロ地区沖秋さけライセンス遊漁者数

データ提供：網走海区漁業調整委員会事務局

コメント：前年とほぼ変わらない利用者数となっている。

ii) 羅臼地区サケマス釣り利用者数

表 2-31 羅臼地区サケマス釣り利用者数

	モイレウシ	ペキン浜	二本滝	クズレ滝	合計人数	前年比	平成21年比
平成20年	313	54	110	82	559	71%	-
平成21年	546	381	200	95	1222	219%	-
平成22年	308	190	4	50	552	45%	45%
平成23年	507	288	63	53	911	165%	75%
平成24年	336	306	96	63	801	88%	66%
平成25年	246	374	139	70	829	103%	68%
平成26年	193	202	88	37	520	63%	43%
平成27年	186	395	104	74	759	146%	62%
平成28年	166	218	61	41	486	64%	40%
平成29年	174	292	173	80	719	148%	59%
平成30年	388	331	98	25	842	117%	69%

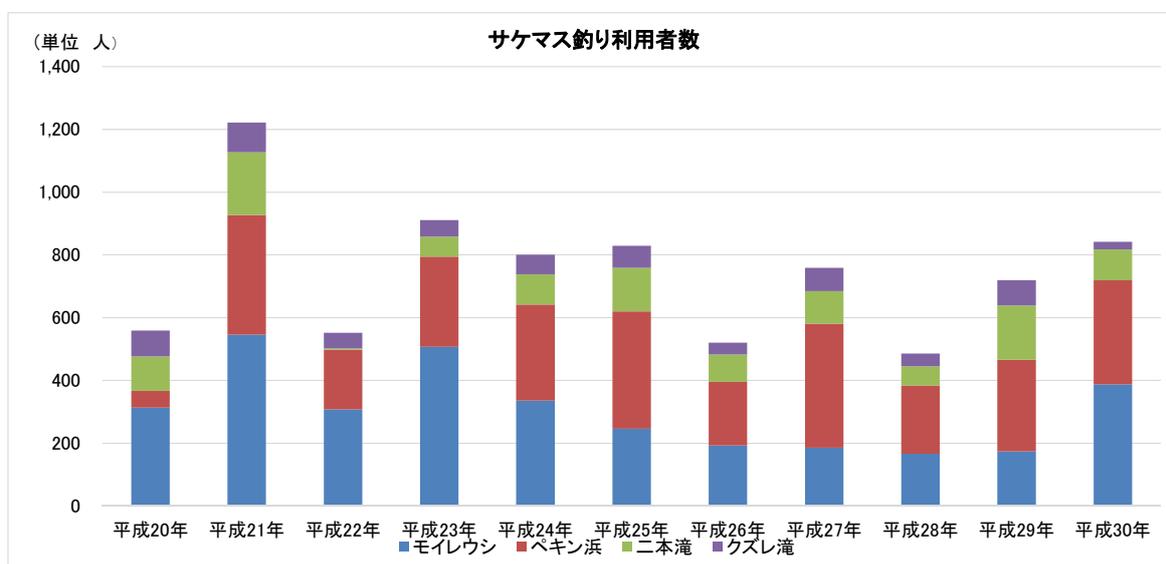


図 2-29 羅臼地区サケマス釣り利用者数

データ提供: 羅臼遊漁船組合

コメント: 最大の立ち入り数はモイレウシの 388 人であり、全体の利用者数は前年比 17% 増となっている。

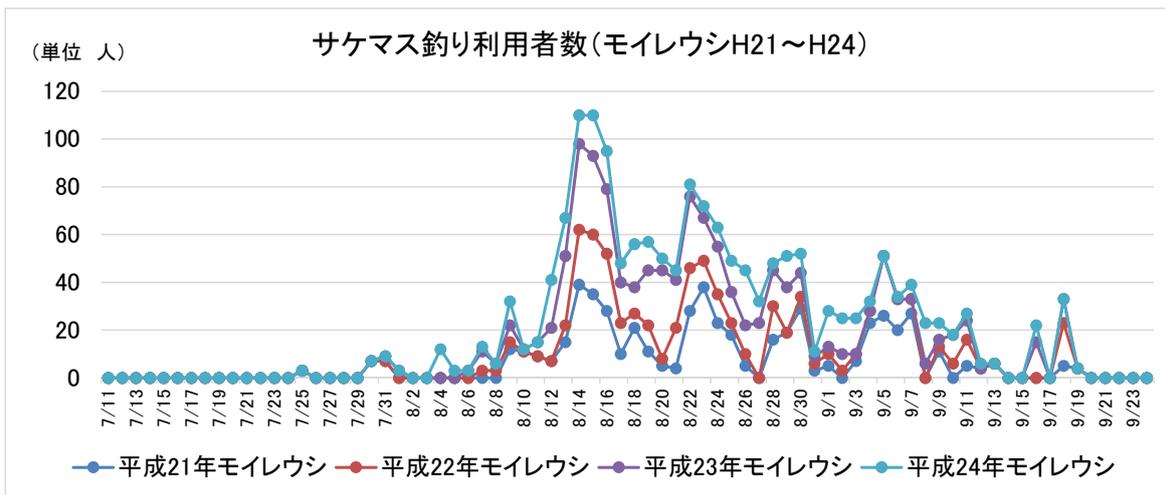


図 2-30 平成 21 年～平成 24 年 モイレウシ サケマス釣り利用者数

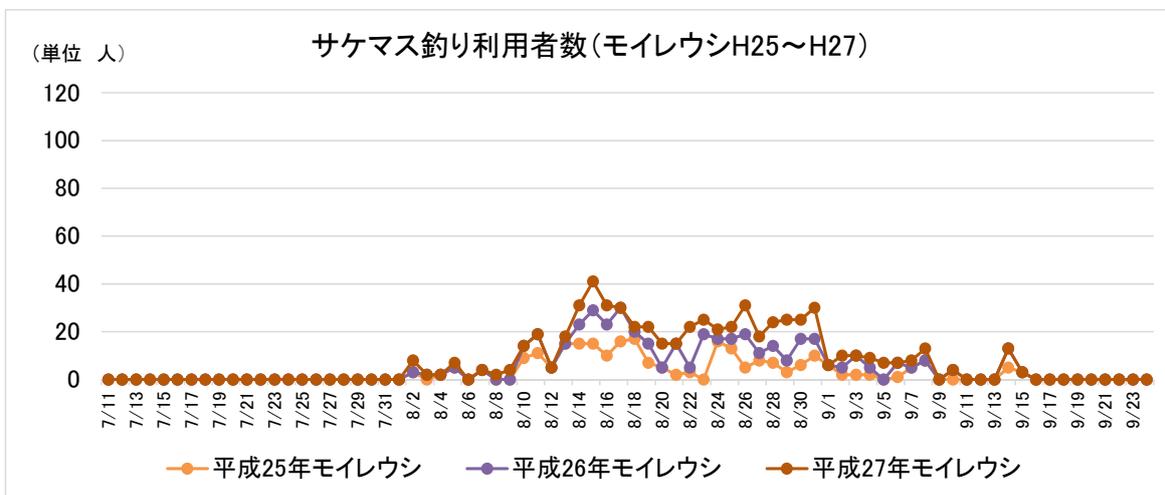


図 2-31 平成 25 年～平成 27 年 モイレウシ サケマス釣り利用者数

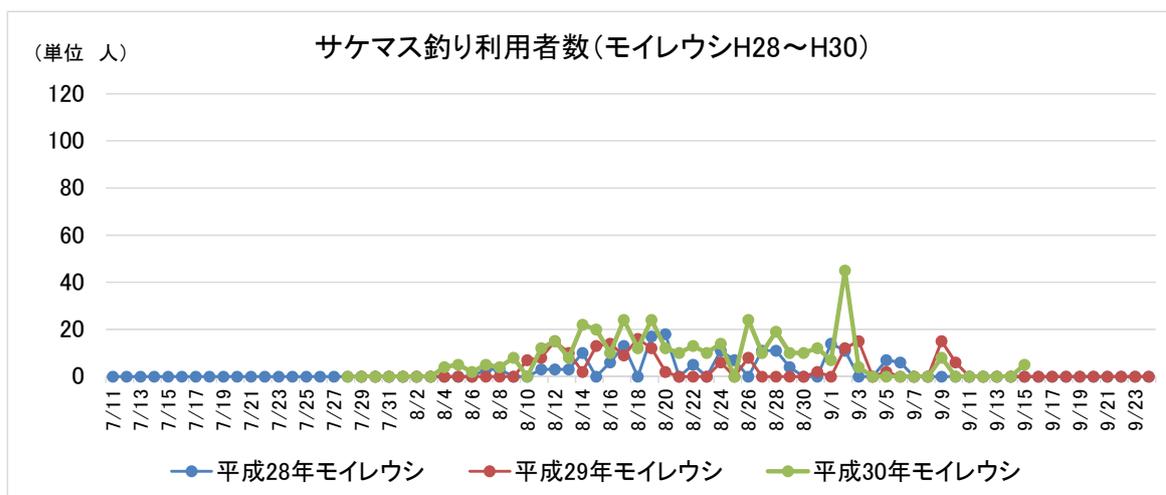


図 2-32 平成 28 年～平成 30 年 モイレウシ サケマス釣り利用者数

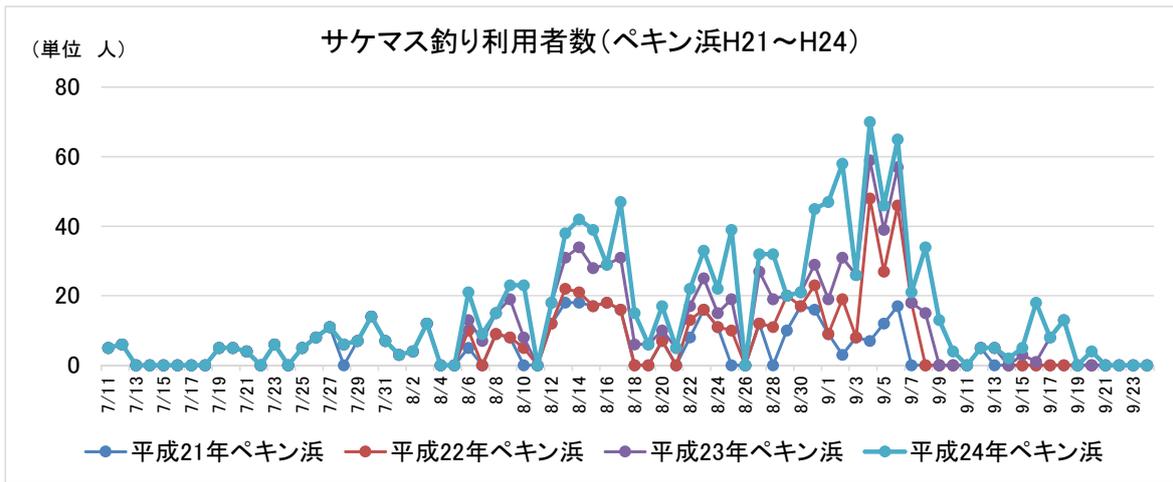


図 2-33 平成 21 年～平成 24 年 ペキン浜 サケマス釣り利用者数

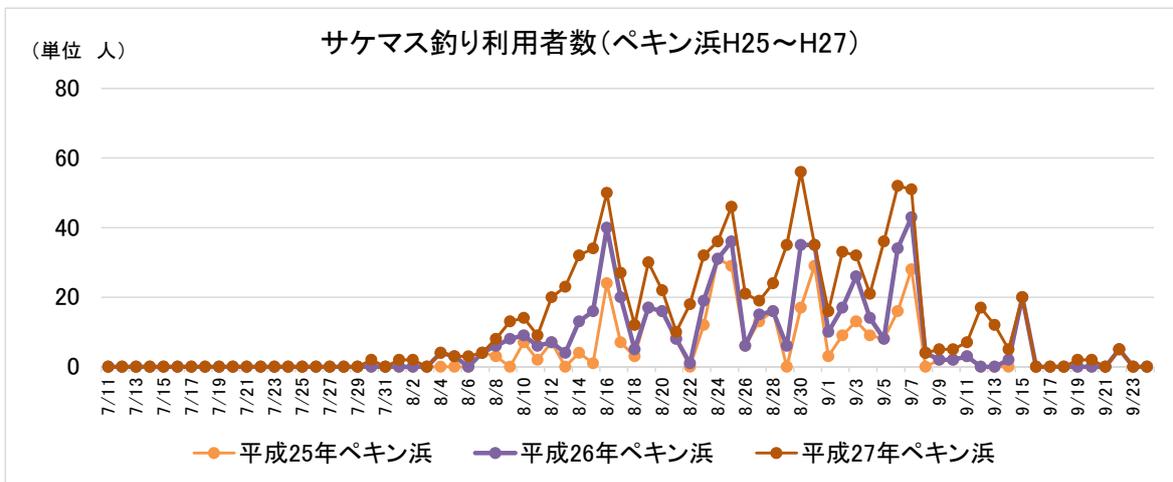


図 2-34 平成 25 年～平成 27 年 ペキン浜 サケマス釣り利用者数

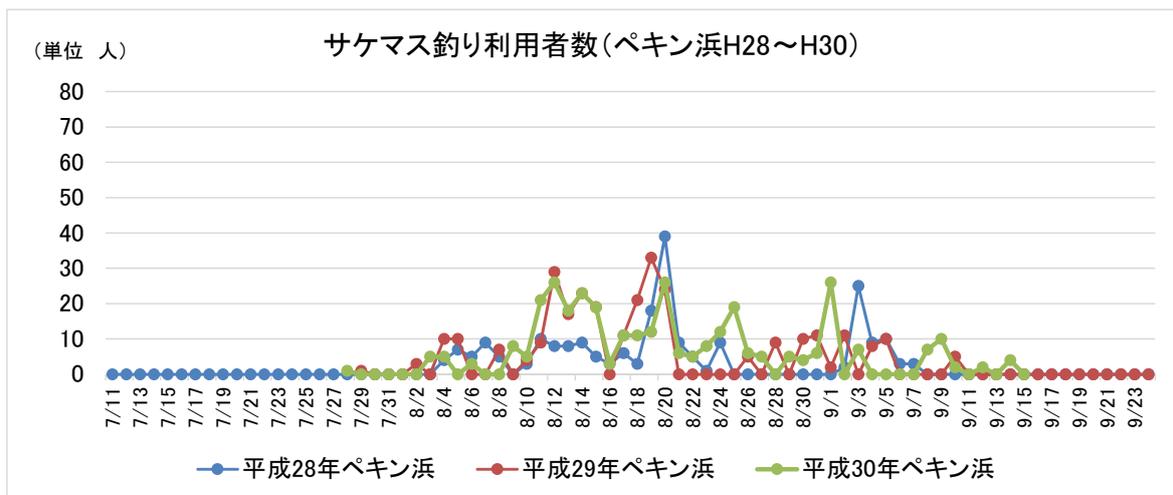


図 2-35 平成 28 年～平成 30 年 ペキン浜 サケマス釣り利用者数

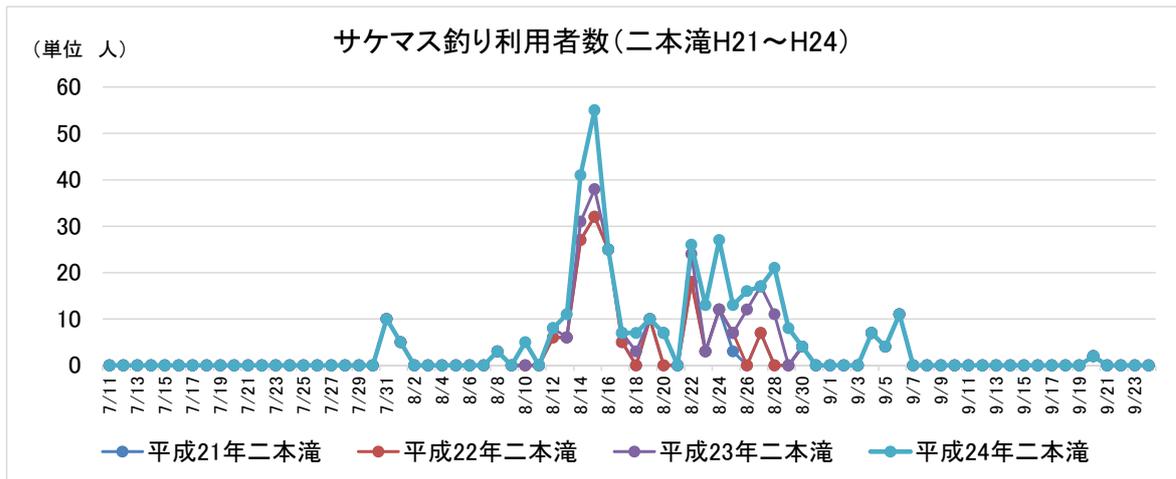


図 2-36 平成 21 年～平成 24 年 二本滝 サケマス釣り利用者数

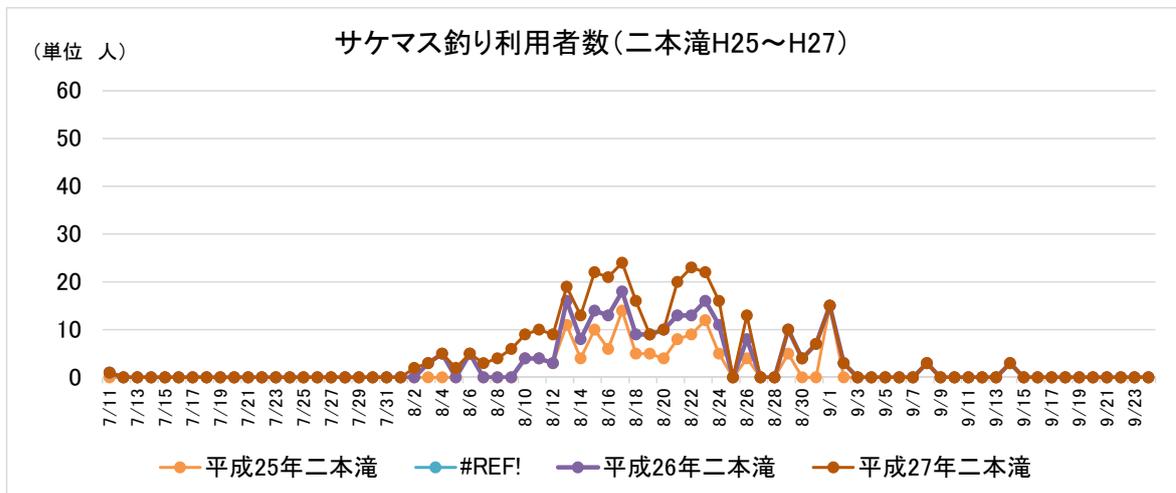


図 2-37 平成 25 年～平成 27 年 二本滝 サケマス釣り利用者数

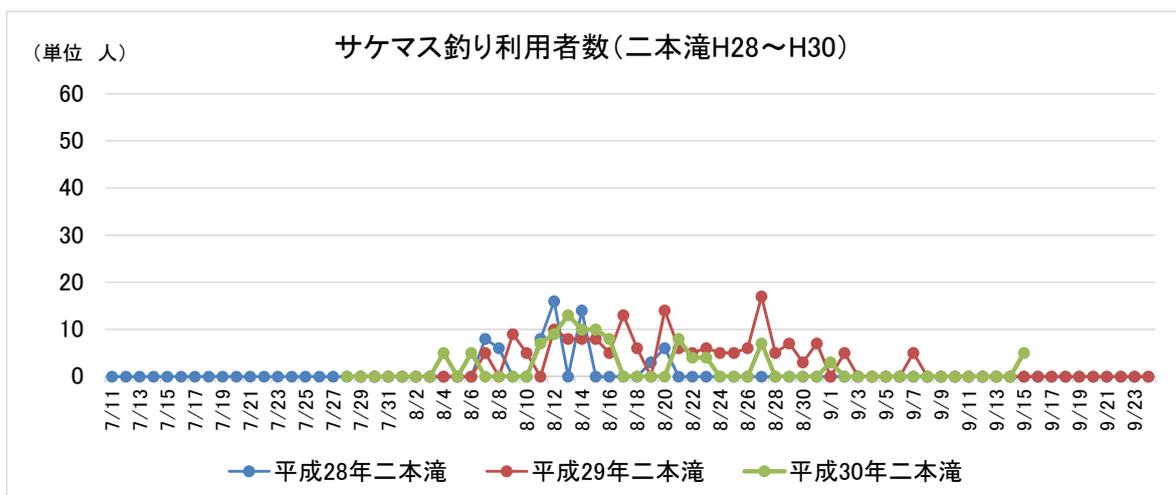


図 2-38 平成 28 年～平成 30 年 二本滝 サケマス釣り利用者数

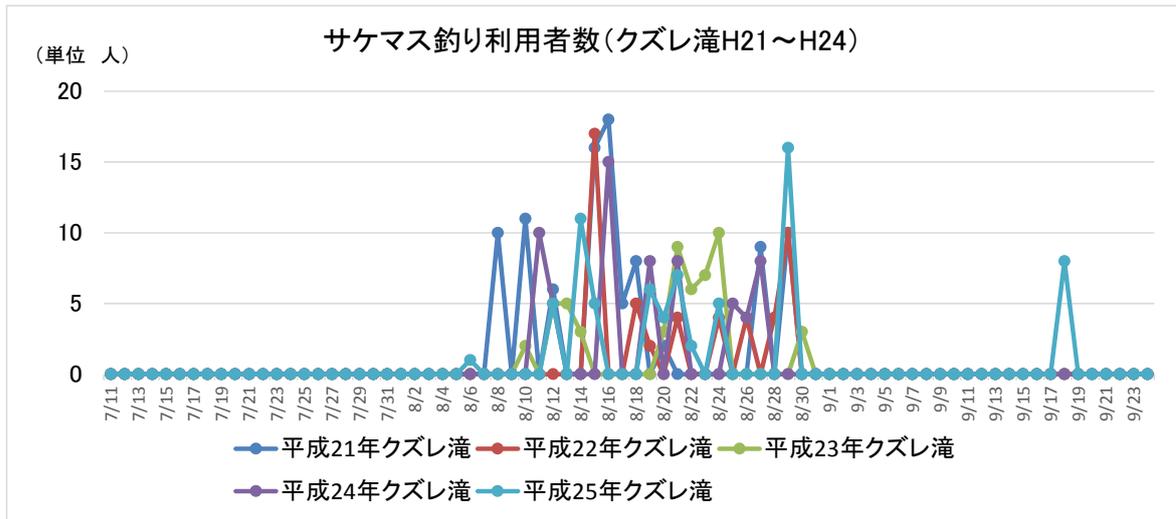


図 2-39 平成 21 年～平成 24 年 クズレ滝 サケマス釣り利用者数

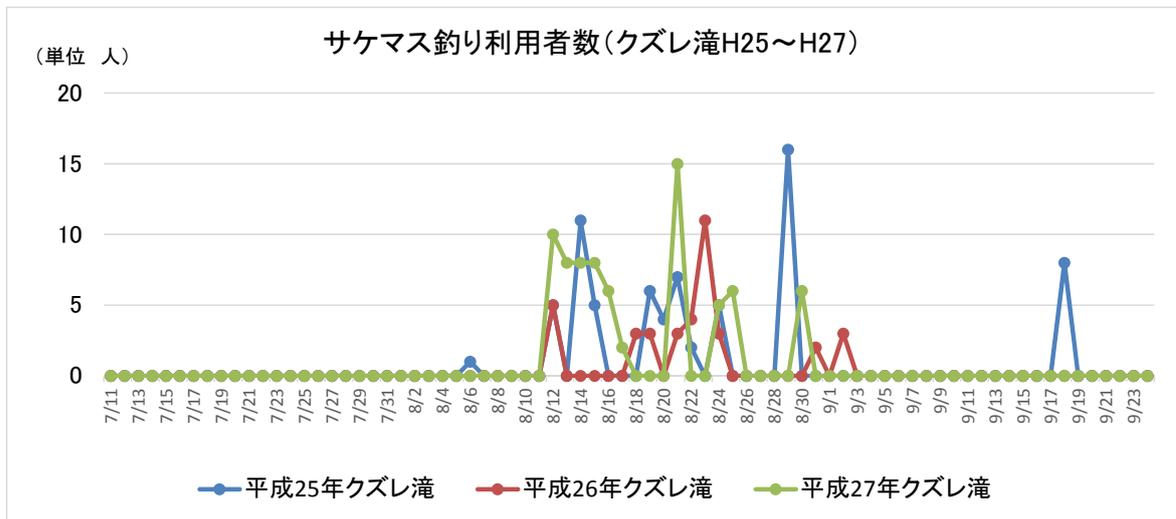


図 2-40 平成 25 年～平成 27 年 クズレ滝 サケマス釣り利用者数

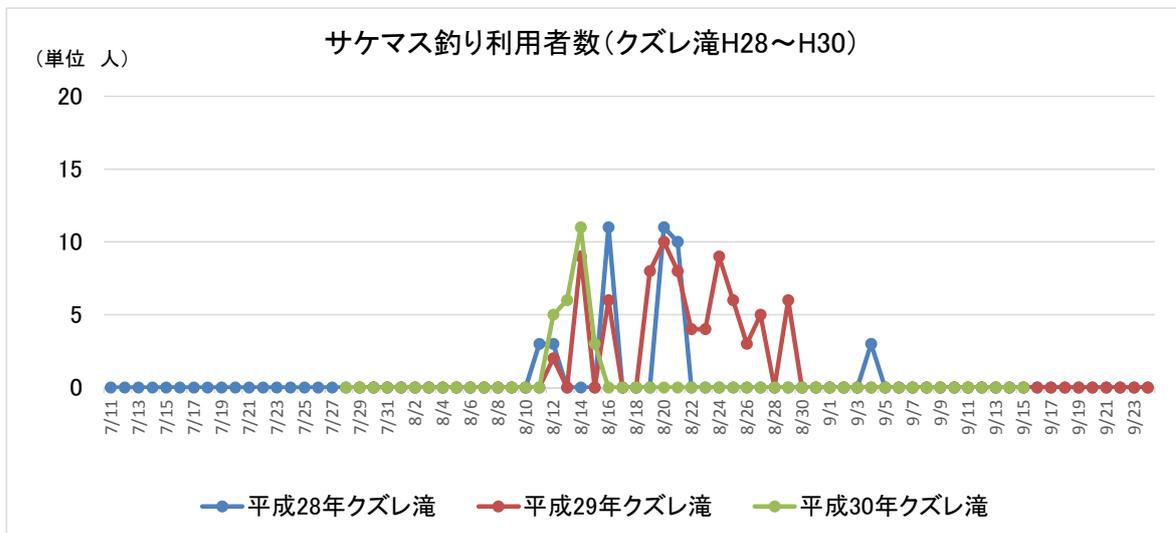


図 2-41 平成 28 年～平成 30 年 クズレ滝 サケマス釣り利用者数

2-7 主要施設の利用状況
 (1) 知床自然センター入館者数

表 2-32 知床自然センター入館者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成22年	3,742	6,510	6,478	6,026	15,162	18,674	35,277	53,567	40,180	19,086	7,084	2,817	214,603
平成23年	2,913	6,402	4,349	4,806	11,668	17,518	23,135	43,370	26,032	16,375	4,346	2,569	163,483
平成24年	3,365	5,319	4,420	4,588	11,960	16,394	24,382	49,793	24,199	16,897	4,461	2,078	167,854
平成25年	2,376	6,547	3,538	4,994	9,280	14,480	20,613	46,465	23,365	14,503	4,594	3,037	153,793
平成26年	3,355	5,456	4,284	5,460	10,632	14,633	22,213	44,509	24,404	22,809	7,202	2,626	167,583
平成27年	3,120	6,203	5,510	5,120	12,660	15,852	24,806	43,636	27,839	13,176	723	406	159,051
平成28年	553	1,912	1,383	5,742	14,393	19,700	28,348	51,492	26,000	15,832	5,356	2,495	173,206
平成29年	3,687	7,753	6,702	6,660	14,021	20,684	29,445	49,549	28,480	17,478	5,720	2,363	192,542
平成30年	3,521	10,147	6,680	7,675	14,986	24,248	36,195	63,425	20,495	19,010	7,272	3,313	216,967
合計前年比	95%	131%	100%	115%	107%	117%	123%	128%	72%	109%	127%	140%	113%

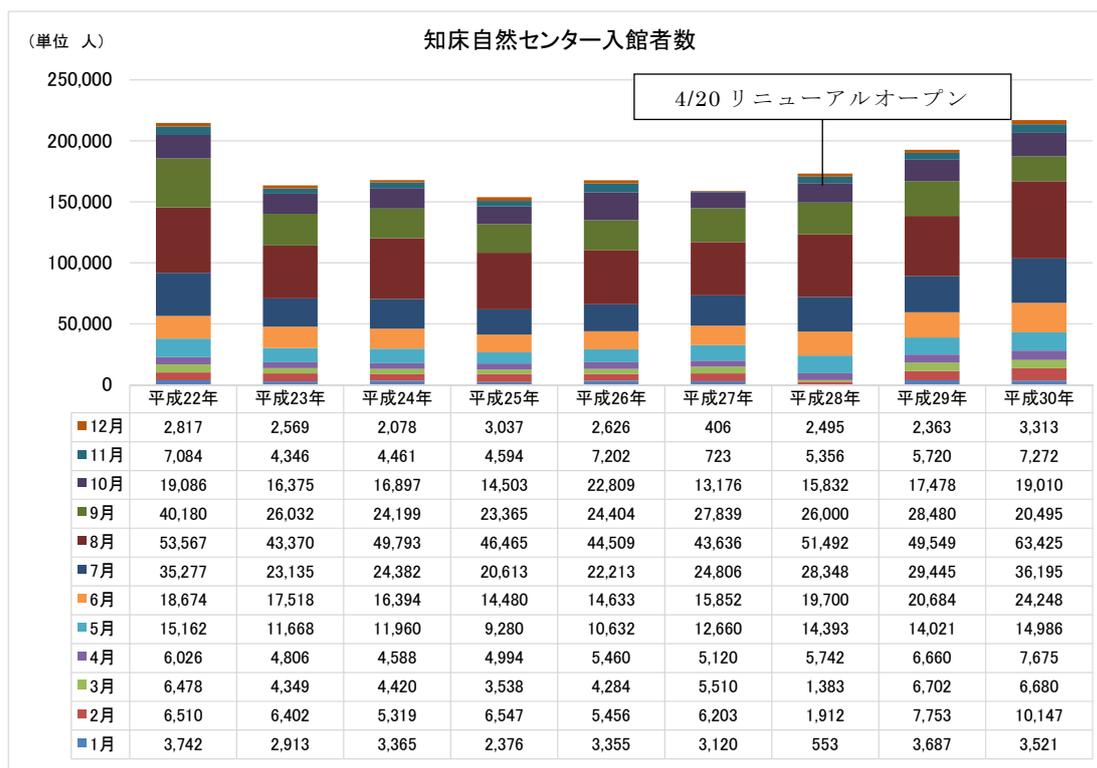


図 2-42 知床自然センター入館者数

データ提供：公益財団法人知床財団

コメント：前年度比 13% 増となっており、平成 27 年度以降は増加傾向となっている。

(2) 知床自然センター映像ホール(旧ダイナビジョン)利用者数(団体・個人)

表 2-33 知床自然センター映像ホール(旧ダイナビジョン)利用者数(団体・個人)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成16年	個人利用者数(人)	141	675	714	668	2,129	2,254	4,190	4,412	2,592	1,665	1,413	206	21,059
	団体利用者数(人)	231	327	1,445	586	1,214	3,178	4,545	5,974	2,678	2,912	2,682	1,373	27,145
	合計(人)	372	1,002	2,159	1,254	3,343	5,432	8,735	10,386	5,270	4,577	4,095	1,579	48,204
平成17年	個人利用者数(人)	204	699	608	573	1,732	2,302	3,908	6,191	4,857	4,127	1,650	588	27,439
	団体利用者数(人)	222	912	426	454	1,910	3,779	3,309	2,408	8,432	12,051	5,187	3,674	42,764
	合計(人)	426	1,611	1,034	1,027	3,642	6,081	7,217	8,599	13,289	16,178	6,837	4,262	70,203
平成18年	個人利用者数(人)	893	1,295	1,324	983	2,953	3,593	3,744	5,941	4,203	3,837	1,289	830	30,885
	団体利用者数(人)	1,741	2,195	3,593	3,536	5,599	8,039	3,612	2,948	9,089	10,945	3,774	877	55,948
	合計(人)	2,634	3,490	4,917	4,519	8,552	11,632	7,356	8,889	13,292	14,782	5,063	1,707	86,833
平成19年	個人利用者数(人)	357	713	712	990	2,395	2,493	3,395	3,667	2,810	2,601	513	714	21,360
	団体利用者数(人)	746	1,177	1,018	1,510	5,403	5,532	6,211	1,565	8,209	7,131	2,857	147	41,506
	合計(人)	1,103	1,890	1,730	2,500	7,798	8,025	9,606	5,232	11,019	9,732	3,370	861	62,866
平成20年	個人利用者数(人)	148	465	541	541	1,646	2,274	3,103	3,899	2,581	2,003	736	425	18,362
	団体利用者数(人)	436	973	981	891	3,640	4,320	2,753	2,040	3,696	5,323	2,174	1,073	28,300
	合計(人)	584	1,438	1,522	1,432	5,286	6,594	5,856	5,939	6,277	7,326	2,910	1,498	46,662
平成21年	個人利用者数(人)	338	563	353	1,003	1,107	2,722	2,117	1,964	1,408	489	305	215	12,584
	団体利用者数(人)	214	561	1,643	2,272	1,552	2,034	2,409	684	2,569	3,611	1,423	515	19,487
	合計(人)	552	1,124	1,996	3,275	2,659	4,756	4,526	2,648	3,977	4,100	1,728	730	32,071
平成22年	個人利用者数(人)	273	284	515	328	767	1,061	1,830	1,963	1,842	928	650	192	10,633
	団体利用者数(人)	161	518	687	535	1,131	1,388	2,735	813	3,427	2,294	433	176	14,298
	合計(人)	434	802	1,202	863	1,898	2,449	4,565	2,776	5,269	3,222	1,083	368	24,931
平成23年	個人利用者数(人)	132	327	273	207	933	1,489	1,360	1,515	1,293	728	248	156	8,661
	団体利用者数(人)	33	348	178	241	739	1,685	1,272	634	2,069	2,211	329	118	9,857
	合計(人)	165	675	451	448	1,672	3,174	2,632	2,149	3,362	2,939	577	274	18,518
平成24年	個人利用者数(人)	114	167	174	180	800	867	1,144	2,030	884	905	248	66	7,579
	団体利用者数(人)	127	86	90	223	2,358	1,748	2,092	676	1,257	2,991	481	159	12,288
	合計(人)	241	253	264	403	3,158	2,615	3,236	2,706	2,141	3,896	729	225	19,867
平成25年	個人利用者数(人)	83	199	137	383	742	814	910	1,836	932	761	130	73	7,000
	団体利用者数(人)	54	338	38	459	811	1,387	1,215	970	1,795	2,251	644	382	10,344
	合計(人)	137	537	175	842	1,553	2,201	2,125	2,806	2,727	3,012	774	455	17,344
平成26年	個人利用者数(人)	95	137	172	140	521	789	966	1,511	856	592	105	78	5,962
	団体利用者数(人)	242	190	182	349	1,278	1,563	1,762	872	1,800	5,366	841	196	14,641
	合計(人)	337	327	354	489	1,799	2,352	2,728	2,383	2,656	5,958	946	274	20,603
平成27年	個人利用者数(人)	53	153	123	205	395	639	1,091	1,406	1,188	739	0	0	5,992
	団体利用者数(人)	9	242	378	299	328	1,101	1,136	658	1,485	1,802	0	0	7,438
	合計(人)	62	395	501	504	723	1,740	2,227	2,064	2,673	2,541	0	0	13,430
平成28年	個人利用者数(人)	0	0	0	277	838	1,265	1,654	2,918	1,184	750	161	92	9,139
	団体利用者数(人)	0	0	0	100	460	1,766	1,182	933	1,038	862	315	30	6,686
	合計(人)	0	0	0	377	1,298	3,031	2,836	3,851	2,222	1,612	476	122	15,825
平成29年	個人利用者数(人)	116	230	319	206	566	901	1,311	1,708	1,204	562	0	0	7,123
	団体利用者数(人)	21	93	63	384	273	1,370	931	521	1,561	871	0	0	6,088
	合計(人)	137	323	382	590	839	2,271	2,242	2,229	2,765	1,433	0	0	13,211
平成30年	個人利用者数(人)	0	452	312	316	932	1,208	2,106	2,674	1,016	926	428	235	10,605
	団体利用者数(人)	0	113	165	429	421	1,661	1,269	690	460	823	320	54	6,405
	合計(人)	0	565	477	745	1,353	2,869	3,375	3,364	1,476	1,749	748	289	17,010
合計前年比	-	175%	125%	126%	161%	126%	151%	151%	53%	122%	-	-	-	129%
合計世界遺産登録前比	-	56%	22%	59%	40%	53%	39%	32%	28%	38%	18%	18%	-	35%
合計ピーク年比(平成18年比)	-	16%	10%	16%	16%	25%	46%	38%	11%	12%	15%	17%	-	20%

- 平成 28 年 4 月 20 日リニューアルオープン後、「ダイナビジョン」は「映像ホール」と名称変更された。
- 平成 27 年 10 月 26 日～平成 28 年 4 月 19 日の期間は、リニューアル工事のため完全閉館。仮設店舗での営業。
- 平成 29 年 11 月、12 月は改修工事のため休止。

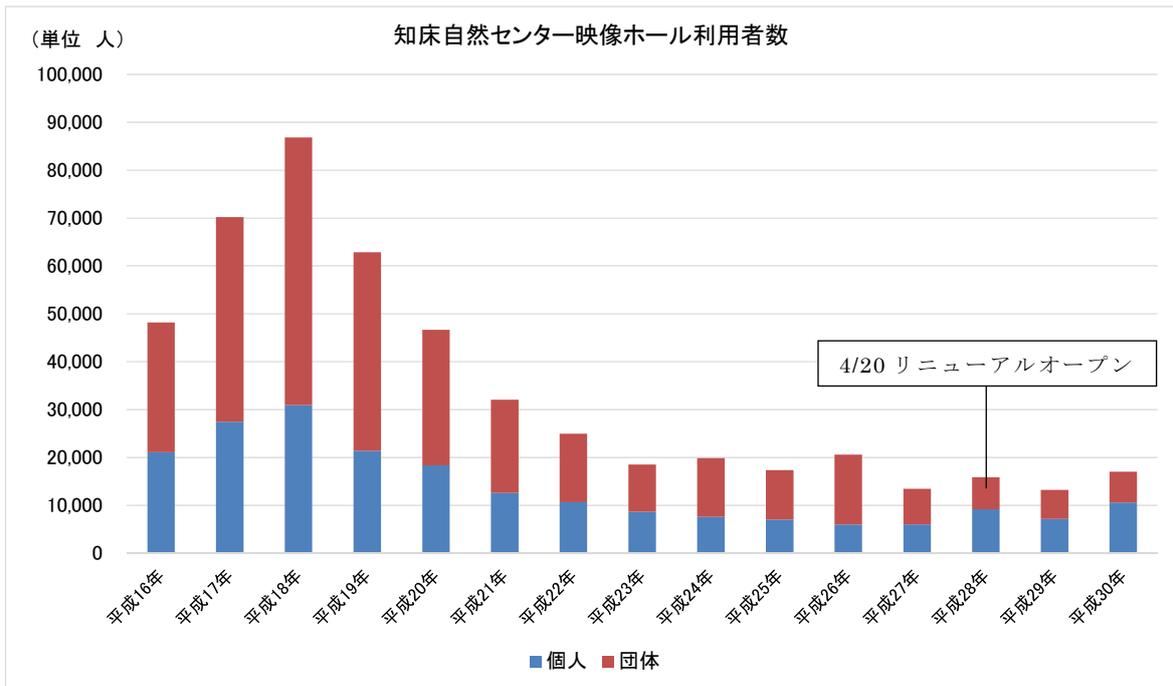


図 2-43 知床自然センター映像ホール（旧ダイナビジョン）利用者数（団体・個人）

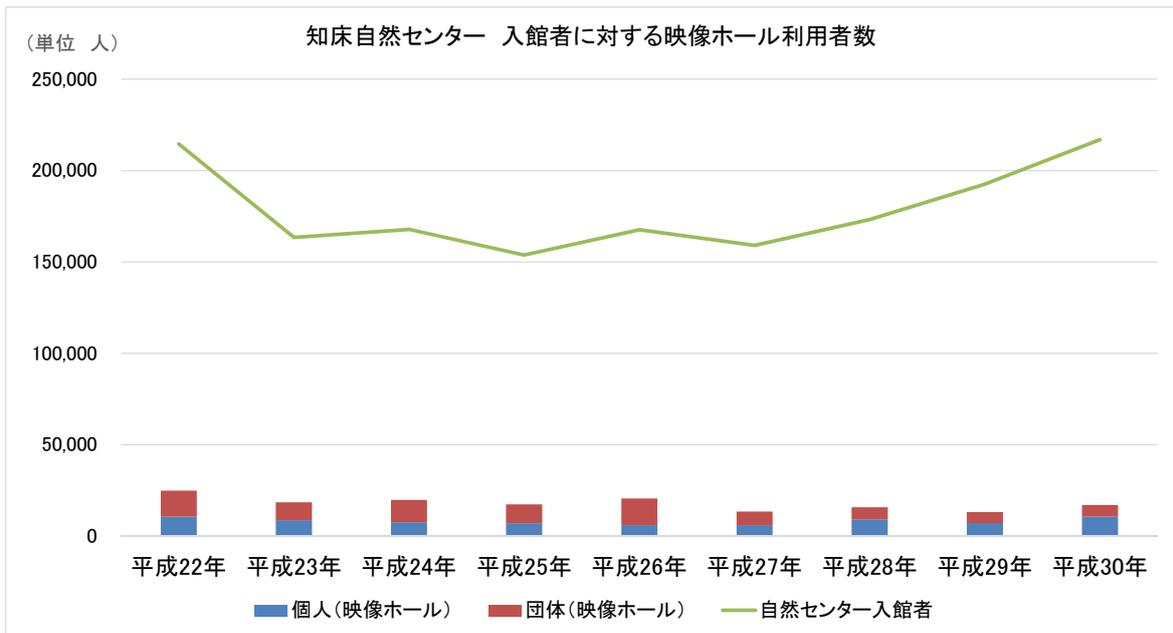


図 2-44 知床自然センター 入館者に対する映像ホール利用者数

データ提供：公益財団法人知床財団

コメント：映像ホール（旧ダイナビジョン）の利用者は前年比 29%増となっている。

(3) 羅臼ビジターセンター利用者数

表 2-34 羅臼ビジターセンター利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成12年	利用者数(人)	93	477	394	283	605	1209	1414	2283	913	827	164	-	8,662
平成13年	利用者数(人)	-	-	-	218	739	619	1431	2494	1018	533	215	88	7,355
平成14年	利用者数(人)	72	253	203	182	609	784	1337	2175	1241	518	112	99	7,585
平成15年	利用者数(人)	107	163	249	226	427	942	1554	1783	920	671	108	83	7,233
平成16年	利用者数(人)	96	244	198	191	621	869	1287	1684	1093	1153	232	107	7,775
平成17年	利用者数(人)	106	355	262	220	457	858	1402	1833	1258	1201	270	122	8,344
平成18年	利用者数(人)	83	269	296	379	603	1,170	1,346	1,770	1,106	1,203	257	144	8,626
平成19年	利用者数(人)	141	307	334	-	1,218	4,805	5,403	6,343	4,327	3,034	567	287	26,766
平成20年	利用者数(人)	227	548	572	724	2,205	2,797	5,431	9,579	5,028	3,690	357	275	31,433
平成21年	利用者数(人)	173	744	1,000	836	4,256	3,735	5,983	8,405	6,451	2,544	514	183	34,824
平成22年	利用者数(人)	170	565	481	682	3,076	2,897	5,841	8,747	5,103	2,597	420	252	30,831
平成23年	利用者数(人)	340	960	627	748	1,985	3,249	5,962	8,680	5,180	2,918	519	327	31,495
平成24年	利用者数(人)	276	1,013	519	515	2,540	3,429	5,682	11,582	6,185	2,829	316	253	35,139
平成25年	利用者数(人)	193	947	827	2,009	1,793	3,901	5,465	11,264	4,905	2,357	564	278	34,503
平成26年	利用者数(人)	364	1,049	532	892	2,689	3,293	6,264	11,352	5,268	2,845	477	102	35,127
平成27年	利用者数(人)	144	1,195	815	488	3,051	4,056	7,927	12,858	7,079	2,896	452	198	41,159
平成28年	利用者数(人)	203	1,719	707	555	3,337	4,607	8,961	13,154	5,978	2,246	285	143	41,895
平成29年	利用者数(人)	282	1,016	719	764	3,620	5,520	8,110	12,739	6,551	2,701	522	190	42,734
平成30年	利用者数(人)	296	1,216	732	870	4,075	5,885	9,050	13,888	5,670	3,111	496	132	45,421
前年比		105%	120%	102%	114%	113%	107%	112%	109%	87%	115%	95%	69%	106%
新築前年(平成18年)比		357%	452%	247%	230%	676%	503%	672%	785%	513%	259%	193%	92%	527%

(平成19年5月新築・開館)

- 平成11年～平成23年は羅臼町役場産業課集計による利用者数を使用した。
- 平成24年～平成29年は羅臼ビジターセンター集計による利用者数を使用した。

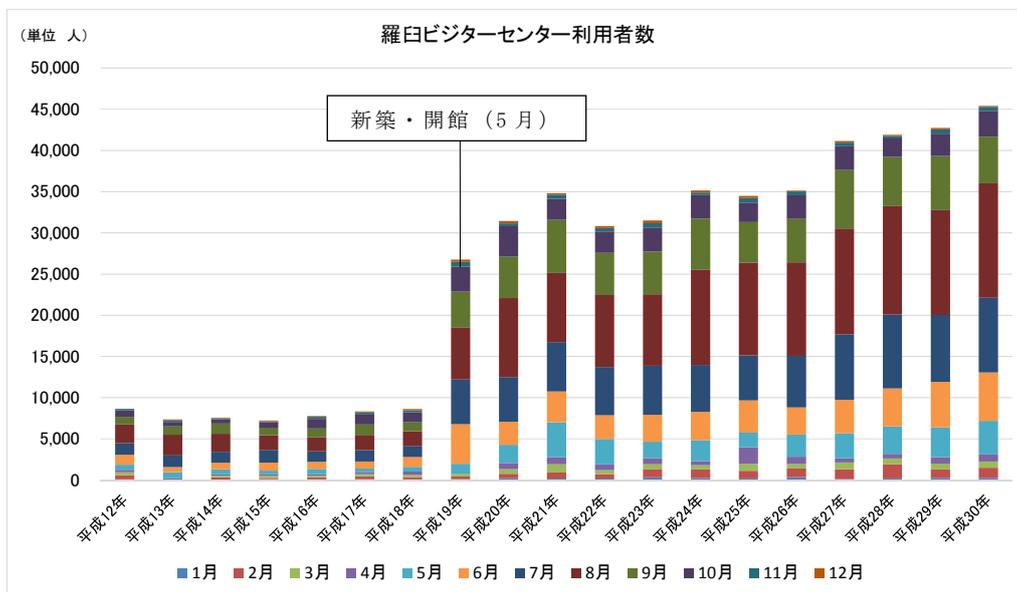


図 2-45 羅臼ビジターセンター利用者数

データ提供：羅臼ビジターセンター

コメント：前年比 6%増であり、過去最高の利用者数となっている。平成19年の新築後より増加傾向が続いている。

(4) 知床世界遺産センター利用者数

表 2-35 知床世界遺産センター利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成21年	利用者数(人)	-	-	-	2,237	9,622	7,231	11,273	14,767	12,950	6,602	2,605	1,407	68,694
平成22年	利用者数(人)	2,506	2,518	3,323	3,864	9,504	10,103	17,854	22,759	15,306	8,426	2,746	1,111	100,020
平成23年	利用者数(人)	1,300	2,913	2,416	3,617	7,932	6,898	13,658	23,231	14,212	8,805	2,488	1,760	89,230
平成24年	利用者数(人)	1,613	3,078	2,641	3,187	7,533	8,718	15,482	27,207	13,570	9,679	3,436	2,347	98,491
平成25年	利用者数(人)	2,016	2,915	2,488	3,082	8,329	9,803	14,754	25,843	15,529	9,493	2,584	2,362	99,198
平成26年	利用者数(人)	1658	3103	3111	4831	8854	10079	16124	25230	13596	12903	6,717	2,944	109,150
平成27年	利用者数(人)	1991	3572	3489	4624	9835	10716	17850	26369	19302	11010	4,397	2,072	115,227
平成28年	利用者数(人)	2496	4433	4401	5377	11489	10591	17191	28728	15104	10901	4,422	1,698	116,831
平成29年	利用者数(人)	2016	3625	3244	3121	9910	11787	16533	24463	13380	10429	4,088	2,406	105,002
平成30年	利用者数(人)	2493	3306	4457	4531	8685	11621	17303	25341	10493	8734	4,161	3,067	104,192
前年比		124%	91%	137%	145%	88%	99%	105%	104%	78%	84%	102%	127%	99%

● 知床世界遺産センター集計による利用者数を使用した。

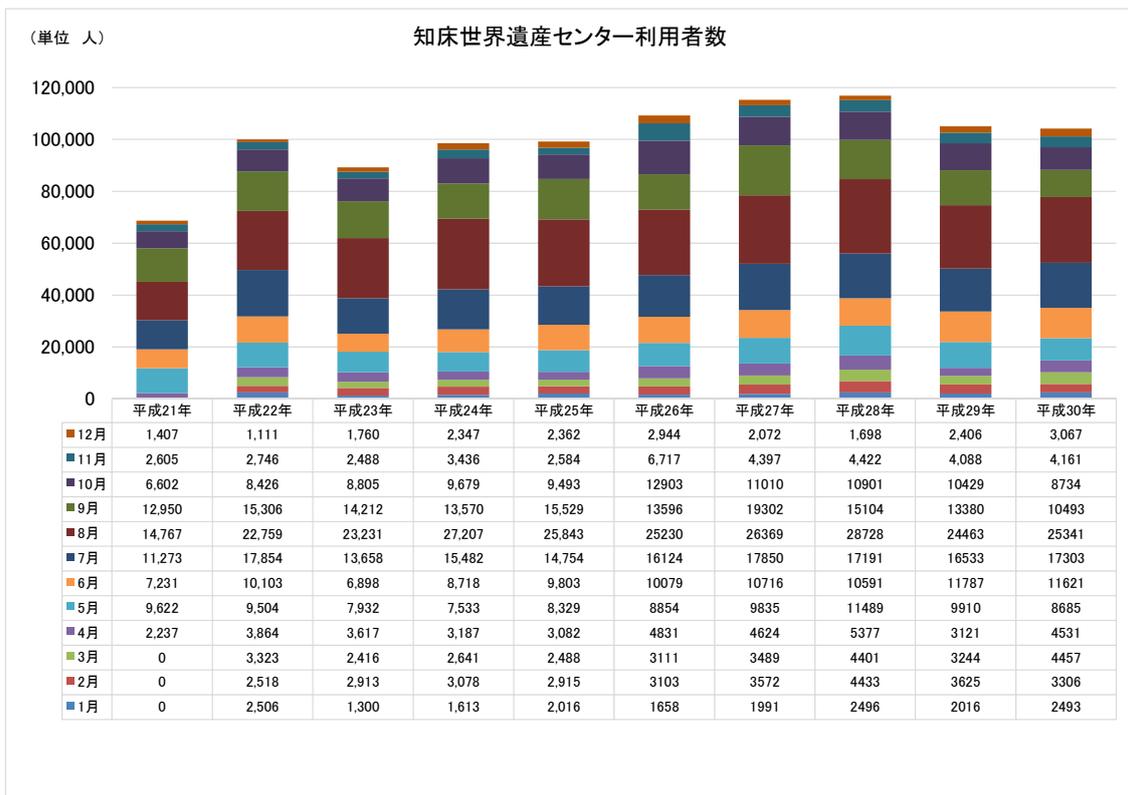


図 2-46 知床世界遺産センター利用者数

データ提供：知床世界遺産センター

コメント：前年とほぼ変わらない利用者数となっている。

(5) 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数

表 2-36 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成21年	利用者数(人)	-	-	-	-	-	880	1,596	1,999	1,858	1,203	-	-	7,536	6月7日閉館 11月～1月閉館
平成22年	利用者数(人)	-	195	149	154	889	894	1,194	2,017	1,324	900	-	-	7,716	11月～1月閉館
平成23年	利用者数(人)	-	286	81	268	648	661	1,135	1,763	1,398	839	-	-	7,079	11月～1月閉館
平成24年	利用者数(人)	-	237	95	180	637	793	1,079	2,114	1,347	767	-	-	7,249	11月～1月閉館
平成25年	利用者数(人)	-	299	131	237	442	616	961	1,993	1,208	636	-	-	6,523	11月～1月閉館
平成26年	利用者数(人)	-	220	151	213	469	741	848	1,997	997	711	-	-	6,347	11月～1月閉館
平成27年	利用者数(人)	-	194	105	141	655	788	1,340	2,087	1,738	639	-	-	7,687	11月～1月閉館
平成28年	利用者数(人)	-	-	-	-	678	1,202	1,198	1,419	1,042	645	-	-	6,184	11月～4月閉館
平成29年	利用者数(人)	-	-	-	-	716	1,000	1,556	2,008	1,724	927	-	-	7,931	11月～4月閉館
平成30年	利用者数(人)	-	-	-	-	859	1,280	1,580	2,467	2,058	888	-	-	9,132	11月～4月閉館
前年比		-	-	-	-	120%	128%	102%	123%	119%	96%	-	-	115%	

● 知床世界遺産ルサフィールドハウス集計による利用者数を使用した。

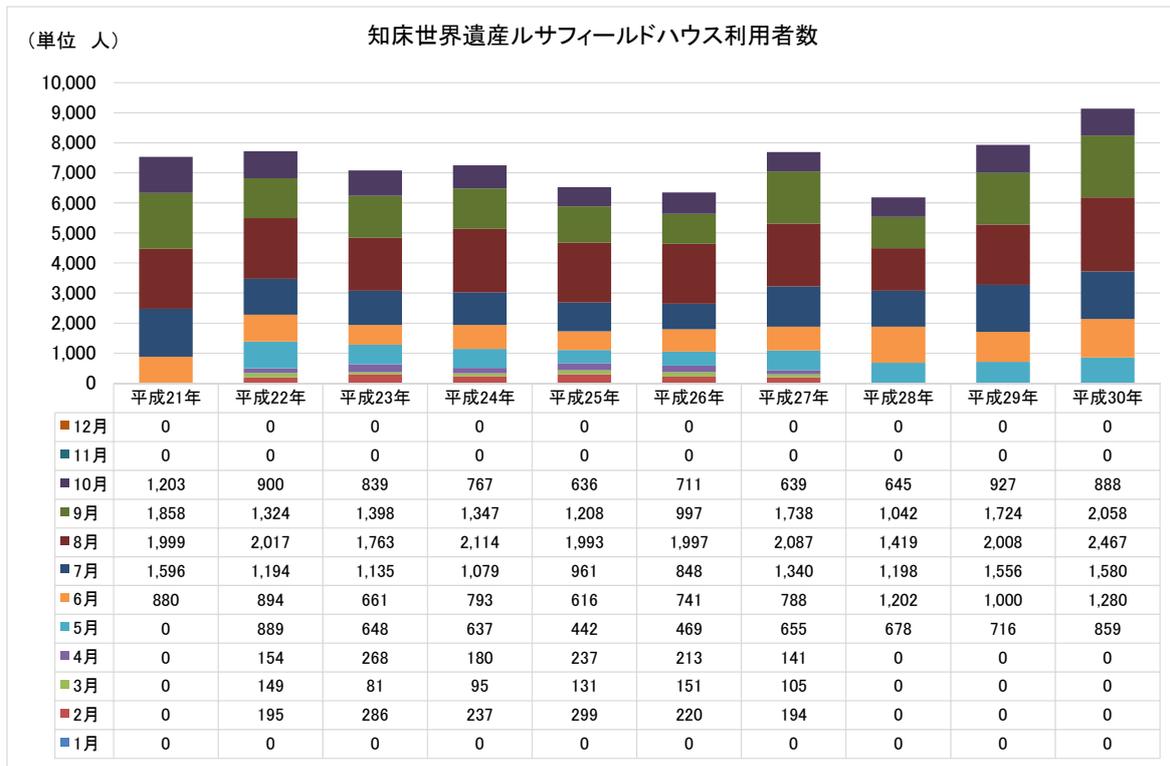


図 2-47 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数

データ提供：知床世界遺産ルサフィールドハウス

コメント：前年比 28% 増となっており、過去最高の利用者数となっている。

(6) 道の駅利用者数

(道の駅知床・らうす、道の駅・しゃり、道の駅ウトロ・シリエトク)

表 2-37 道の駅利用者数 (道の駅知床・らうす、道の駅・しゃり、道の駅ウトロ・シリエトク)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,407	2,818	2,183	3,724	17,244	16,496	24,292	37,067	24,181	15,268	2,909	1,759	149,248	
平成17年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,529	2,699	2,836	3,584	13,008	18,746	25,584	63,804	27,217	20,296	4,469	2,017	185,789	
平成18年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,707	3,057	2,796	3,530	18,528	27,739	39,066	63,804	45,999	26,580	4,755	2,681	240,242	
平成19年*	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,529	2,699	2,836	4,352	12,885	19,534	28,793	49,254	31,079	21,624	4,753	2,774	182,112	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	-	-	-	3,800	17,162	18,211	33,553	44,597	26,645	18,202	10,915	8,332	181,417	4/25開館
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	-	-	-	12,956	46,694	48,384	70,546	122,142	75,141	43,588	14,719	7,267	441,437	4/25開館
平成20年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	2,230	4,109	3,996	5,950	18,446	15,031	22,416	36,364	19,901	16,157	3,651	2,260	150,501	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	7,934	10,051	12,015	16,222	20,417	17,553	35,633	40,630	24,496	17,392	10,649	9,570	222,562	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	8,874	13,939	14,532	16,109	42,856	42,994	67,489	107,436	74,658	46,627	14,662	6,395	456,571	
平成21年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,944	2,707	3,362	4,772	20,317	13,602	16,853	29,250	20,662	11,218	2,783	2,509	129,779	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	5,806	7,632	7,137	12,934	24,469	19,323	35,809	44,661	31,315	18,581	14,256	10,558	232,481	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	8,706	12,631	16,701	15,101	56,833	46,551	73,712	113,029	90,677	41,617	14,752	8,599	498,909	
平成22年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,615	3,395	2,707	4,078	15,960	11,171	11,044	15,981	10,725	9,066	1,828	1,155	88,725	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	8,705	11,131	12,587	12,407	25,244	22,550	43,164	49,396	29,129	21,574	12,978	12,227	261,092	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	11,822	13,978	15,283	16,485	53,181	65,149	94,146	133,895	94,192	56,593	15,791	7,430	577,945	
平成23年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,008	2,342	1,889	4,624	7,033	8,255	12,462	15,454	8,555	5,194	1,321	745	68,882	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	8,652	13,754	11,274	13,909	21,947	18,941	41,327	47,861	28,914	19,855	13,555	10,391	250,380	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	9,216	18,023	14,208	17,055	42,704	43,182	76,366	133,268	80,496	46,398	14,429	6,516	501,861	
平成24年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	573	1,463	1,120	4,514	17,025	20,721	24,289	37,921	22,323	18,223	3,563	2,474	154,209	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	9,158	14,152	11,794	13,307	20,939	20,440	42,556	48,910	27,654	21,230	12,688	9,641	252,469	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	10,494	18,527	15,285	17,134	32,412	47,912	86,405	133,381	84,562	47,995	15,344	8,098	517,549	
平成25年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,615	5,595	3,273	4,605	6,793	18,615	22,326	32,188	22,973	14,907	3,874	2,229	138,993	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	8,134	14,234	10,738	11,229	18,512	19,769	43,133	48,445	28,270	18,854	12,141	9,970	243,429	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	9,091	18,725	14,997	15,356	35,757	54,575	88,014	139,602	89,224	49,322	16,184	7,230	538,077	
平成26年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,603	4,322	2,630	6,427	14,279	19,832	24,111	30,484	21,889	13,853	3,913	2,110	145,453	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	7,372	10,147	10,161	11,208	17,299	18,505	40,357	44,151	26,321	16,384	10,977	7,067	219,949	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	9,400	15,349	16,393	16,791	44,345	51,711	85,421	126,244	79,990	49,657	17,750	7,865	520,916	
平成27年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,394	3,979	2,962	3,455	16,880	16,117	23,952	26,620	21,279	12,723	3,522	2,111	134,994	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	4,750	10,147	10,161	11,208	17,299	18,505	40,357	44,151	26,321	16,376	10,977	7,067	217,319	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	9,181	16,940	16,648	14,881	51,817	52,280	90,422	123,831	89,232	46,645	18,724	9,294	539,895	
平成28年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,282	5,011	2,916	3,406	13,700	15,876	22,172	25,180	16,767	10,345	1,906	1,890	120,451	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	8,202	11,926	12,029	11,602	21,059	19,968	44,603	43,765	27,526	20,708	11,010	9,418	241,816	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	10,434	22,102	20,390	18,186	51,111	51,522	84,313	127,082	76,168	47,373	17,024	9,092	534,817	
平成29年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,214	4,201	3,286	4,099	12,982	14,098	20,989	27,206	14,257	9,300	2,258	1,442	115,332	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	8,087	11,715	11,928	11,619	22,904	21,160	42,607	49,305	28,116	22,850	16,695	10,860	257,846	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	11,482	22,827	21,660	16,108	53,160	56,386	95,169	134,070	79,983	52,631	18,668	10,602	572,746	
平成30年	① 羅臼道の駅利用者数(人)	1,385	6,386	2,598	4,296	11,508	14,614	20,273	26,053	11,878	10,041	2,530	1,479	113,041	
	② 斜里道の駅利用者数(人)	9,317	11,128	11,115	13,032	19,550	22,171	41,763	48,671	25,819	23,024	11,298	8,497	245,385	
	③ ウトロ道の駅利用者数(人)	11,624	24,252	20,898	22,132	49,398	62,376	94,626	139,010	88,338	51,317	20,537	11,926	576,434	
前年比(①羅臼道の駅)	114%	152%	79%	105%	89%	104%	97%	96%	83%	108%	112%	103%	98%		
前年比(②斜里道の駅)	115%	95%	93%	112%	85%	105%	98%	99%	92%	101%	68%	78%	95%		
前年比(③ウトロ道の駅)	101%	106%	96%	137%	93%	111%	99%	104%	85%	98%	110%	112%	101%		

- 羅臼道の駅利用者数：羅臼町産業課集計の利用者数を使用した。
- 斜里道の駅利用者数：斜里町商工観光課集計の利用者数を使用した。
- ウトロ道の駅利用者数：斜里町商工観光課集計の利用者数を使用した。

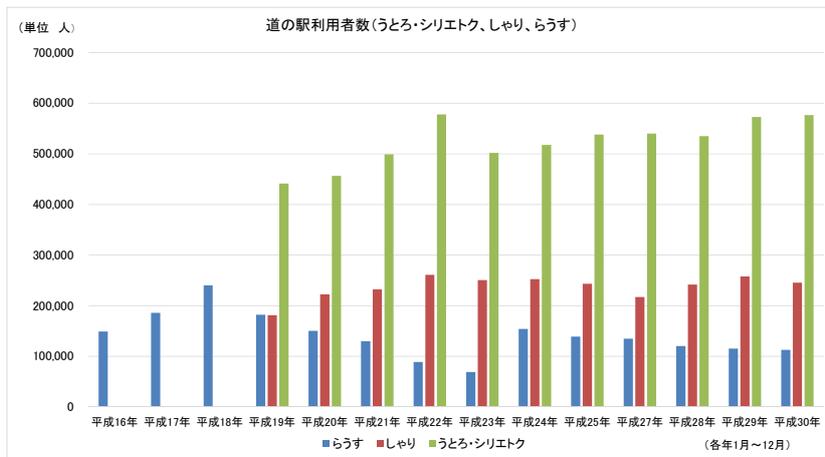


図 2-48 道の駅利用者数 (道の駅知床・らうす、道の駅・しゃり、道の駅ウトロ・シリエトク)

データ提供：斜里町商工観光課、羅臼町産業創生課

コメント：前年とほぼ変わらない利用者数となっている。

(7) 森林センター・ボランティア活動施設利用者数

表 2-38 森林センター・ボランティア活動施設利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成18年	森林センター(人)	23	0	19	0	0	23	42	18	20	17	24	10	196
平成19年	森林センター(人)	12	20	18	0	0	23	50	27	16	23	35	0	224
平成20年	森林センター(人)	25	0	17	0	0	23	19	0	0	19	18	18	139
	ボランティア活動施設(人)	-	-	-	-	181	237	811	758	445	112	7	0	2,551
平成21年	ボランティア活動施設(人)	0	21	12	112	126	354	641	1,061	471	201	94	55	3,148
平成22年	ボランティア活動施設(人)	96	71	79	101	541	626	1,086	2,243	723	626	469	538	7,199
平成23年	ボランティア活動施設(人)	262	287	276	300	738	838	2,411	4,693	1,234	1,133	613	436	13,221
平成24年	ボランティア活動施設(人)	572	634	468	390	642	789	1,633	3,914	1,401	900	441	379	12,163
平成25年	ボランティア活動施設(人)	191	543	307	-	60	505	1,075	3,845	1,068	383	256	140	8,373
平成26年	ボランティア活動施設(人)	140	200	59	91	411	293	1,520	3,547	668	367	388	187	7,871
平成27年	ボランティア活動施設(人)	219	316	157	-	18	479	1,086	1,739	664	128	98	-	4,904
平成28年	ボランティア活動施設(人)	-	-	-	-	-	369	1,092	1,791	981	938	-	-	5,171
平成29年	ボランティア活動施設(人)	0	9	0	97	119	418	260	361	182	65	154	30	1,695
平成30年	ボランティア活動施設(人)	-	-	-	-	26	150	253	312	63	-	-	-	804
前年比		-	-	-	-	22%	36%	97%	86%	35%	-	-	-	47%

● 林野庁北海道森林管理局知床森林生態系保全センター集計の利用者数(イベント参加者を含む)を使用した。

● ※平成28年までは自動カウンター装置にて集計。平成29年より目視による集計。

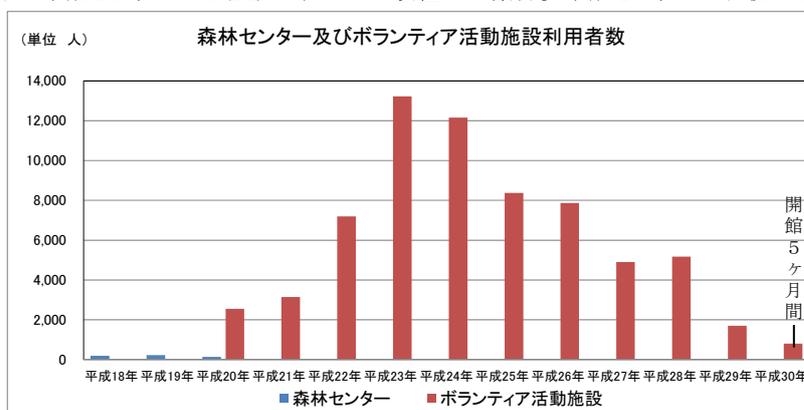


図 2-49 森林センター・ボランティア活動施設利用者数

表 2-39 森林センターイベント参加者数

年度	人数(人)
昭和63年	37
平成元年	117
平成2年	94
平成3年	191
平成4年	180
平成5年	316
平成6年	292
平成7年	105
平成8年	250
平成9年	258
平成10年	233
平成11年	301
平成12年	174
平成13年	209
平成14年	202
平成15年	177
平成16年	187
平成17年	255

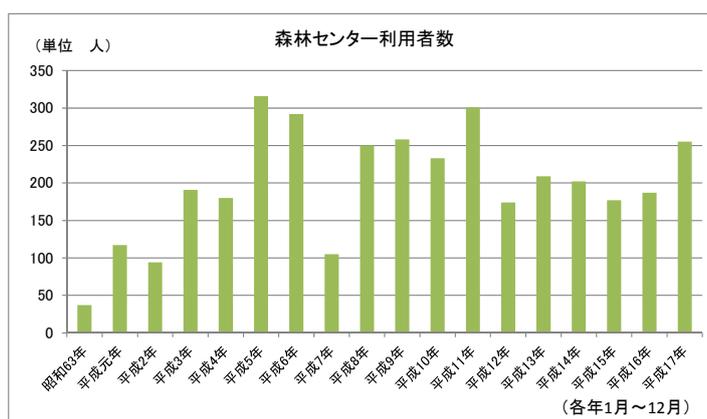


図 2-50 森林センターイベント参加者数

● 林野庁北海道森林管理局知床森林センター集計の参加者数を使用した。

データ提供: 林野庁北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター

コメント: ボランティア活動施設利用者は前年比 53%減となっている。本年は開館が5月15日より9月30日であったためと考えられる。

(8) 知床博物館利用者数

表 2-40 知床博物館利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成3年	利用者数(人)	227	742	861	742	1,649	2,148	3,036	5,893	2,434	2,351	539	328	20,950
平成4年	利用者数(人)	200	1,630	813	628	1,962	1,841	2,870	5,177	2,567	2,257	741	782	21,468
平成5年	利用者数(人)	404	1,551	836	698	2,197	1,788	2,770	5,035	1,709	1,048	1,391	1,803	21,230
平成6年	利用者数(人)	537	1,515	1,190	1,169	2,845	2,459	3,912	5,376	2,660	3,612	928	647	26,850
平成7年	利用者数(人)	423	1,248	1,439	1,167	2,507	1,990	3,944	4,857	2,644	2,813	1,045	524	24,601
平成8年	利用者数(人)	756	1,949	749	2,198	2,068	1,924	3,731	4,152	2,209	2,112	910	388	23,146
平成9年	利用者数(人)	320	911	915	1,105	1,590	1,799	3,895	4,627	2,224	2,029	930	515	20,860
平成10年	利用者数(人)	353	821	732	1,017	1,553	1,626	4,076	3,772	2,022	1,928	798	347	19,045
平成11年	利用者数(人)	390	1,108	778	812	1,274	1,264	3,221	2,624	1,888	1,909	1,103	622	16,993
平成12年	利用者数(人)	227	812	1,021	1,182	1,900	1,646	2,782	2,617	1,667	1,865	624	428	16,771
平成13年	利用者数(人)	266	754	736	1,019	1,177	1,677	3,147	2,424	2,094	1,262	781	435	15,772
平成14年	利用者数(人)	451	729	768	1,002	1,096	1,770	3,132	2,693	1,605	1,346	742	554	15,888
平成15年	利用者数(人)	354	565	690	954	986	1,495	3,091	2,197	1,584	1,044	721	444	14,125
平成16年	利用者数(人)	280	733	819	1,159	1,530	1,911	2,841	1,965	1,636	1,166	517	435	14,992
平成17年	利用者数(人)	319	905	747	796	1,120	1,268	2,600	1,992	1,584	1,371	757	412	13,871
平成18年	利用者数(人)	291	830	805	939	1,246	2,010	2,508	2,551	1,292	943	615	308	14,338
平成19年	利用者数(人)	355	565	678	1,166	943	1,017	2,129	1,940	1,128	1,110	898	387	12,316
平成20年	利用者数(人)	454	684	531	868	1,027	1,597	2,308	1,615	1,157	889	781	375	12,286
平成21年	利用者数(人)	323	707	537	889	770	1,097	2,315	1,241	1,356	947	619	298	11,099
平成22年	利用者数(人)	236	412	684	676	869	980	2,600	1,651	1,215	791	430	461	11,005
平成23年	利用者数(人)	303	608	535	703	983	1,031	2,127	1,540	964	714	468	332	10,308
平成24年	利用者数(人)	352	648	493	927	1,142	1,060	2,399	1,902	868	804	566	293	11,454
平成25年	利用者数(人)	187	508	677	548	1,043	1,038	1,988	1,728	1,037	901	469	256	10,380
平成26年	利用者数(人)	263	380	433	544	802	944	1,955	1,615	1,089	948	599	437	10,009
平成27年	利用者数(人)	268	438	522	493	918	688	1,829	1,723	1,257	647	671	471	9,925
平成28年	利用者数(人)	344	634	639	630	807	964	2,103	1,814	1,026	781	406	405	10,553
平成29年	利用者数(人)	384	729	883	688	1,157	1,278	2,255	1,776	1,290	1,129	741	482	12,792
平成30年	利用者数(人)	361	763	566	800	1,211	1,473	2,435	1,518	1,127	911	687	573	12,425
前年比		94%	105%	64%	116%	105%	115%	108%	85%	87%	81%	93%	119%	97%
合計世界遺産登録前比 (平成16年比)		129%	104%	69%	69%	79%	77%	86%	77%	69%	78%	133%	132%	83%
合計ピーク年比 (平成6年比)		67%	50%	48%	68%	43%	60%	62%	28%	42%	25%	74%	89%	46%

※H23年11月～12月休館のため資料館の入館者数

●知床博物館集計による利用者数を使用した。

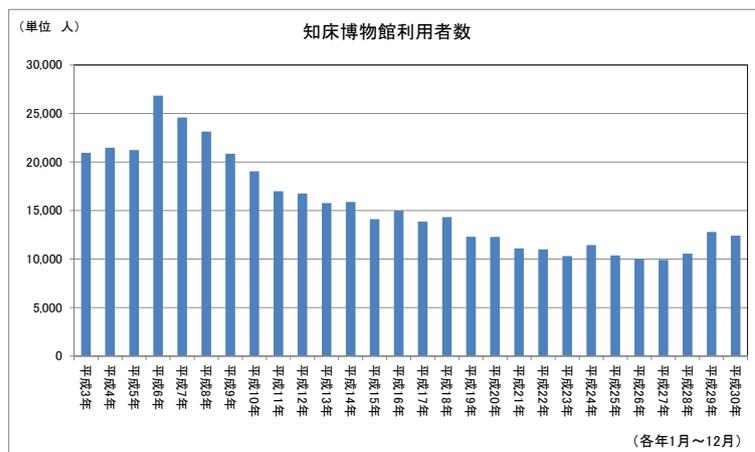


図 2-51 知床博物館利用者数

データ提供：斜里町立知床博物館

コメント：前年とほぼ変わらない利用者数となっている。

3 知床世界自然遺産地域長期モニタリングに関する検討

知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画（No. 19 利用実態調査）の見直しにあたり、評価項目の一つである「VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。」を適正に評価するための検討を行った。

なお、本報告書に示した検討結果は、第2回エコツーリズムWG（平成30年2月28日）において再度意見が出されたこと、科学委員会（平成30年3月6日）での議論におけるとりまとめが終了していないことから最終版とはなっていない。

（参考文献：平成29年度知床国立公園適正利用等検討業務報告書）

3-1 検討内容

長期モニタリング評価を行うための評価基準、評価手法、モニタリング手法及びモニタリング体制等について検討を行った。検討の経緯については表3-1-1に整理した。

表 3-1-1 検討経緯

日付	整理番号	内容
平成30年8月2日	①	専門家ヒアリング（第1回）において今後の方向性を検討
平成30年9月21日	②	第1回エコツーリズムWG会議資料「素案」の作成
平成30年9月27日	③	第1回エコツーリズムWG開催による議論
平成30年9月27日	④	③の議論を元に専門家ヒアリング（第2回）
平成30年10月30日	⑤	④を元に資料を作成
平成30年11月1日	⑥	専門家ヒアリング（第3回）
平成30年11月16日	⑦	⑥を元に資料を作成
平成30年11月19日	⑧	専門家ヒアリング（第4回）
平成30年12月27日	⑨	⑧により第2回エコツーリズムWG会議資料を作成
平成30年12月27日	⑩	メーリングリストにより意見募集
平成31年1月25日	⑪	メーリングリストによる意見集約
平成31年2月28日	⑫	第2回エコツーリズムWG開催による議論
平成31年3月6日	⑬	科学委員会開催による議論

3-2 検討結果

検討した結果は、学識経験者等へのヒアリング内容、第1回エコツーリズムWG会議資料の議論、メーリングリストによる意見募集（表3-2-1）によりとりまとめた。とりまとめた結果は第2回エコツーリズムWG会議資料（表3-2-2、新評価シート案）とした。

また、第2回エコツーリズムWGの議論の結果についてもとりまとめた。

1. 平成30年度第1回エコツーリズムWGでの合意、意見、検討事項等

【合意事項】

- 「利用」、「管理」、「影響」の三者関係に着目する。
- 長期モニタリングはエコツーリズムWGが担当し、エコツーリズムWG委員が評価を行う。

【意見・検討事項】

- ① 「管理」をどのように捉え、評価するのか検討が必要である。
- ② 提案制度に基づかない利用も評価の対象に含める必要がある。
- ③ 定性的な評価は客観的になるような配慮が必要である。

2. 検討事項を受けた見直し案の考え方について

エコツーリズムWGが担当するモニタリング項目「No.19 利用実態調査」を廃止し、新たに3つのモニタリング項目を定めて評価を行う。

また、意見・検討事項①～③への対応は以下のとおりとする。

- ① 「管理」をどのように捉え、評価するのか検討が必要である。
⇒関係行政機関の管理だけでなく、事業者等の取組も評価対象とし、知床エコツーリズム戦略9. 具体的方策に基づく管理と取組が行われているかを評価する。モニタリング項目「No. 19a 適正利用に向けた管理と取組」で対応。
- ② 提案制度に基づかない利用も評価の対象に含める必要がある。
⇒事業実施者等に聞き取り調査を行い、知床エコツーリズム戦略5. 基本方針（1）、（2）に基づく適切な利用が行われているかを評価する。モニタリング項目「No. 19b 適正な利用・エコツーリズムの推進」で対応。
- ③ 定性的な評価は客観的になるような配慮が必要である。
⇒現地へ出向くなどしてある程度の状況把握ができているWG委員（専門家）が評価することにより、一定の客観性は担保できる。

表 3-2-1 長期モニタリング評価指標及び評価基準等の見直しについての意見整理表（平成 31 年 1 月 25 日現在）

(1) 【素案】長期モニタリング評価指標及び評価基準等の見直しについて			
分類	No.	意見内容	意見への対応
		意見なし	
(2) 【素案】エコツアーWG 新評価シートについて			
分類	No.	意見内容	意見への対応
19a 評価シート (7)	1	表題、文章中の「施設整備」を「施設整備と維持管理」に修正	エコツアーリズム戦略の「9. 具体的方策」の文言に合わせているので、「施設整備」のままとする。
19a 評価シート (8)	2	観光客の満足度や感想、観光客のニーズや行動の変化 →観光客の 評価 （満足度や感想など）や ニーズ 、 行動特性 の変化	意見通り修正。
19a 評価シート (8)	3	連山植生調査を右欄に記載 (エゾシカの採食圧との関連があることから、これまでエゾシカ・ヒグマWGでモニタリングを行ってきた。もともとは登山道の荒廃のモニタリングが目的であった。どのWGで評価を行うのか、合同で評価をするのかは今後検討が必要。)	19a の評価シートについては行政等が実施している管理と取組を網羅的に記載する予定。したがって、連山植生調査もモニタリングとして追加する。 なお、本モニタリングは「実施されているか」の評価となり、その評価はエコツアーWGで行う。一方、エコツアーWGがかかわる評価項目VII「レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること」の評価方法については科学委員会で検討する。
(3) その他			
分類	No.	意見内容	意見への対応
—	1	「レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立」について、新たなモニタリングや調査実施の必要性が生じた際には、迅速に対応できるように記載を工夫してほしい。	長期モニタリング自体は 5 年ごとの見直しとなっており、その期間で対応する。 一方、本モニタリング結果から新たな調査等の必要性が生じた場合には、WGでの検討で別途調査等の実施を検討することは可能。

表 3-2-2 モニタリング項目（現行および素案）

モニタリング項目	現 行		素 案	
	No. 19 利用実態調査	No. 19a 適正利用に向けた管理と取組	No. 19b 適正な利用・エコツアーリズムの推進	No. 19c 利用者数の変化
モニタリング実施主体	環境省	環境省（適正利用・エコツアーリズム WG 事務局）	環境省（適正利用・エコツアーリズム WG 事務局）	関係行政機関、事業者等
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境の保全が両立されていること			
モニタリング手法	利用者カウンターによるカウントおよびアンケート調査等により主要利用拠点における利用者数を把握	知床白書掲載内容及び適正利用・エコツアーリズム検討会議資料や行政機関等への聞き取り調査により適正利用に向けた管理と取組を抽出し列挙	遺産地域利用関係者への聞き取り調査により適正な利用やエコツアーリズムの推進状況を把握	利用者カウンターによるカウントやアンケート調査等により主要利用拠点における利用者数を把握
評価指標	利用者数、利用方法、利用者特性	管理と取組の実施状況	知床エコツアーリズム戦略の基本方針に沿った事業の実施状況、利用者の増減、客層の変化、自然環境への懸念	各利用拠点等の利用者数
評価基準	各利用拠点の特性に応じた適正な利用となっていること。	「知床エコツアーリズム戦略 9. 具体的方策」を実現するための管理や取組が行われていること。	「知床エコツアーリズム戦略 5. 基本方針 (1)、(2)」に基づき、適正な利用およびエコツアーリズムの推進が行われているか。	基準なし（利用の実態を把握するためのモニタリング）
想定されるデータ収集先	-	知床白書、エコツアーリズム検討会議資料、環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、知床財団、斜里町観光協会、羅臼町観光協会ほか	斜里町、羅臼町、知床財団、斜里町観光協会、羅臼町観光協会、知床ガイド協議会、知床羅臼ガイド協会、知床小型観光船協議会、知床羅臼観光船協議会、赤岩地区昆布ツアー一部会、知床五湖冬期利用促進事業検討部会、観光船・ガイド事業者ほか	環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、知床財団、自然公園財団、羅臼遊漁船組合、斜里バス、観光船・ガイド事業者ほか

新評価シート案 (1/6)

(評価者：適正利用・エコツーリズムワーキンググループ)

モニタリング項目	No.19a 適正利用に向けた管理と取組		
モニタリング実施主体	環境省（適正利用・エコツーリズムWG事務局）		
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	知床白書掲載内容及びエコツーリズム検討会議資料より適正利用に向けた管理と取組を抽出し列挙		
評価指標	管理と取組の実施状況		
評価基準	「知床エコツーリズム戦略 9. 具体的方策」を実現するための管理と取組が行われていること。		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合	<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合	
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	<p>評価には別紙 No. 19a 評価シートを参照</p> <p>※評価のめやす 「現状維持」： 「改善」「悪化」以外の状況。 「改善」： 前年と比較して新たな管理や取り組みが行われた。 「悪化」： 前年と比較して必要な管理や取り組みが極端に減少している。</p>		
今後の方針			

コメント（実際の評価シートには記載しません。）

※遺産登録時から現時点までである程度の管理の枠組みができているため、現在の管理状況を基準に評価する。

新評価シート案 (2/6)

No.19a 評価シート	
項 目	
<p>(1) 利用コントロール</p> <p>● 自然環境の保全、観光客の安全確保、原始性の保持、付加価値の向上等の目的に応じた利用コントロールが実施されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知床五湖利用調整地区制度の運用 (別添 19a-1) ・ 行政機関等による管理活動の実施 (別添 19a-2) ・ ○○○○
<p>(2) 守るべきルールの設定と指導</p> <p>● 自然環境の保全、観光客の安全確保、地域の文化・生活への配慮等の目的に応じたルールが設定されているか。また、それらのルールの指導が行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政機関等による管理活動の実施 (別添 19a-2) ● ○○○○
<p>(3) 情報の発信</p> <p>● 地域主体のエコツアーの増加や守るべきルールの周知を目的とした情報発信が行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の公開および発信の運用 (別添 19a-3) ・ 情報発信 ・ ○○○○
<p>(4) ガイドの育成とガイド利用の推奨</p> <p>● ガイドの育成が行われ、ガイド利用が推奨されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ○○○○
<p>(5) 文化的資産等の活用</p> <p>● 保全に留意しながら文化的資産等が活用されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤岩昆布ツアーでの取組 (別添 19-○) ・ 「しれとこ森づくりの道」での取組 (別添 19-○) ・ ○○○○
<p>(6) 利益の還元</p> <p>● 観光利用によって得られた利益が地域の自然や社会に還元されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 知床ウトロ海域環境保全協議会での取組 (別添 19a-○) ● 赤岩昆布ツアーでの取組 (別添 19a-○) ● 知床五湖冬期利用での取組 (別添 19a-○) ● ○○○○
<p>(7) 施設整備</p> <p>● 年次計画による計画的な施設整備が行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○○○○
<p>(8) モニタリング</p> <p>● 自然環境への影響、観光客の満足度や感想、観光客の評価 (満足度や感想など) やニーズ、行動特性の変化等がモニタリングされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 満足度調査等のアンケートの実施 (別添 19a-○) ・ 五湖冬期利用、赤岩地区昆布ツアーアンケート結果 (別添 19a-○) ・ ○○○○

新評価シート案 (3/6)

(評価者：適正利用・エコツーリズムワーキンググループ)	
モニタリング項目	No.19b 適正な利用・エコツーリズムの推進
モニタリング実施主体	環境省（適正利用・エコツーリズムWG事務局）
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。
モニタリング手法	遺産地域利用関係者への聞き取り調査により適正な利用やエコツーリズムの推進状況を把握
評価指標	「知床エコツーリズム戦略」の基本方針に沿った事業の実施状況、利用者の増減、客層の変化、自然環境に対する懸念
評価基準	「知床エコツーリズム戦略 5. 基本方針（１）、（２）」に基づき、適正な利用およびエコツーリズムの推進が行われているか。
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合 <input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 悪化
	<p>評価には別紙 No. 19b 評価シート参照</p> <p>※評価のめやす</p> <p>「現状維持」： 多くの事例で「改善」「悪化」以外の状況であり、適正な利用・エコツーリズムの推進が継続的に行われていると判断できる。</p> <p>「改善」： 前年と比較して、新たな取り組みが行われた事例がある。それにより、利用者数や客層が変化するなど、自然環境や利用への懸念が少なくなった。</p> <p>「悪化」： 前年と比較して運用状況の悪化や利用者数の急激な増加、客層の変化等があり、自然環境や利用への影響に懸念が増加している。</p>
今後の方針	

新評価シート案 (4/6)

No. 19b 聞き取り調査用シート

団体名			
事業名			
事業内容			
記入日	平成 年 月 日	記入者	様
		連絡先 TEL	

貴団体が催行されている事業、ツアーが該当すると思われる箇所の□にチェックの記入をお願い致します。

① 「知床エコツーリズム戦略」の基本方針に沿って事業を実施しているかお伺いします。

【基本原則】

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上に貢献している。
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験を提供している。
- 持続可能な地域社会と経済の構築に役立っている。

【エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点】

- 事業、ツアーが、地域主体・自律的・持続的である。
- 事業、ツアーでは、共有・協働・連携などのネットワークが構築されている。
- 自然環境の保全に配慮している。
- 利用者の自然生態系に関する理解が促進されている。
- 事業及びツアーが、地域の文化・歴史的背景を踏まえて実施されている。
- 利用者へ自己責任の原則が認知され、管理責任の分担が行われている。
- 事業、ツアーは知床のブランド価値を高めるという視点がある。
- 事業、ツアーは順応的管理型で実施されている。

「知床エコツーリズム戦略」に則り、特に力を入れて取り組んでいることや、新たに始めた取り組みなどがあればご記入ください。

② 利用者数、客層の状況についてお伺いします。

利用者数は、

- 増加している 減少している どちらともいえない

客層（特に、自然環境への配慮や世界自然遺産・知床についての知識があるかなど）は、

- 変化している 変化していない どちらともいえない

利用者数や客層について、気がついたことや気になることがあればご記入ください。

③ 事業、ツアーで使用しているフィールドや地域の自然環境について、何か気になることや心配なことはありますか。

- ある ない

「ある」方は内容をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

新評価シート案 (5/6)

(評価者：適正利用・エコツーリズムワーキンググループ)

モニタリング項目	No.19c 利用者数の変化		
モニタリング実施主体	関係行政機関、事業者等		
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	利用者カウンターによるカウントおよびアンケート調査等により主要利用拠点における利用者数を把握		
評価指標	各利用拠点等の利用者数		
評価基準	基準なし(利用者の実態を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	評価には別紙 No. 19c 評価シート参照		
今後の方針	当面は評価基準なし。今後、遺産登録前からの利用の変動幅などに明確な傾向が確認できれば、評価基準の設定を検討する。		

新評価シート案 (6/6)

No.19c 評価シート

モニタリング項目	No. 19c 利用者数の変化					
評価基準	基準なし					
評価指標	各利用拠点等の利用者数					
項 目	2005年 (遺産登録年)	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
斜里町観光入込数						
羅臼町観光入込数						
五湖園地全体利用者数 (駐車場利用者数+シャトルバス五湖利用者数)						
知床五湖高架木道・地上遊歩道利用者数						
知床五湖シャトルバス利用者数 (カムイワッカ以外の利用を含む)						
カムイワッカ来訪者数						
フレペの滝利用者数 (フレペの滝カウンター調査)						
連山登山道利用者数 (岩尾別カウンター)						
連山登山道利用者数 (硫黄山カウンター)						
連山登山道利用者数 (湯ノ沢カウンター)						
羅臼湖登山道利用者数 (羅臼湖カウンター調査)						
熊越えの滝利用者数 (熊越えの滝カウンター調査)						
陸路による知床岬、知床沼方面利用者数 (ウナキベツ・観音岩カウンター調査)						
岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入林簿等からの入山数とそのうちの縦走利用者数						
ウトロ地区観光船利用者数						
羅臼地区観光船利用者数						
シーカヤック利用者数						
サケ・マス釣り利用者数 ウトロ						
サケ・マス釣り利用者数 羅臼						
知床自然センター利用者数						
羅臼ビジターセンター利用者数						
知床世界遺産センター利用者数						
知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数						

コメント (実際の評価シートには記載しません。)

※これまで把握していた以下の項目は長期モニタリングとして把握しないこととする。

- ・知床五湖冬季利用⇒あくまでも斜里町観光協会が主催するツアーとしての利用。年ごとの運用に影響を受けるほか、部会からの報告に含まれるため除外。
- ・縦走路の下山者数、滞在日数、宿泊者数⇒入林簿からの縦走者数の把握で十分なため除外。
- ・ダイナビジョンや道の駅などの観光施設⇒適正利用には直接影響しないため除外。

3. 平成 30 年度第 2 回エコツーリズム WG での意見、検討事項等

【長期モニタリング評価案への修正意見】

- 19b 評価指標「自然環境に対する懸念」は「管理に関する懸念」に修正すべき。
- 19b では不適切（エコツアー戦略の理念に則らない）な利用についても情報収集できた方がよい。
- 19b 聞き取り調査用シートの②の自由記述欄は「利用者数や客層、利用者の行動について気が付いたことや気になる点があればご記入ください」などとするほか、その他事項を記入する欄を設けて事例を集めやすくする。また、具体的に件数などが記録されている場合はその記載をしてもらう。
- 19b では AR や GSS の巡視の情報も把握するため、想定されるデータの収集先には環境省と林野庁も追加する。
- 19c の知床五湖冬季利用者数は現状利用者数が伸びていることもあり、モニタリング項目にあげる。

【その他意見等】

- エコツアーWG では管理の評価と利用の把握を行う。自然環境への影響の調査は他の WG で実施し、全体評価は共同（もしくは科学委員会）で行う。複数の WG で話し合う場が持てるとよい。
- 将来的には、観光客管理（安易に奥地に踏み込ませないなど）に対する施設の貢献度や、エコツーリズム戦略の方針に沿わない利用の評価を定量的にできるよう検討が必要である。
- 19c の細かいデータやデータ収集の方法等は科学委員会では示さず、エコツーリズム WG での検討で用いることで良いのではないか。（知床白書には掲載される）
- サケ・マス釣りの利用者は、ライセンスや遊漁以外のカウントできない利用者の増加が問題となっている。これには、釣り場の閉鎖などの社会変化も関わっているため、原因の推測等については評価欄に記載する。また、周辺の観光や環境の変化による影響についてのコメントも評価欄に記載する。
- 19a と 19b は「管理」、19c は「利用」のモニタリングという位置づけは前提として考える。
- 19a, 19b, 19c のモニタリング項目は WG で評価するが、対応する評価項目 VII は科学委員会で評価する。
- 社会経済への影響については、海域 WG または科学委員会で評価する。
- ヒグマの不適切な行為などについては、No. 20 をヒグマエゾシカ WG で評価する。
- モニタリング手法の不十分な点については科学委員会には示さず、知床白書およびエコツーリズム WG、エコツーリズム検討会議の資料に記載する。

3-3 学識経験者等ヒアリング

検討結果のとりまとめにあたり、学識経験者へのヒアリングを行った。行ったヒアリング場所及び日時については表 3-3-1 に整理し、内容の詳細については表 3-3-2 に整理した。

表 3-3-1 ヒアリング日時等一覧表

	ヒアリング日時	ヒアリング場所等
1	平成 30 年 8 月 2 日	北海道大学農学部 南棟 1 階 S165 室
2	平成 30 年 9 月 21 日	会議資料作成について (メール)
3	平成 30 年 9 月 27 日	らうす第一ホテル 1 階ロビー
4	平成 30 年 11 月 1 日	北海道大学農学部 南棟 1 階 S165 室
5	平成 30 年 11 月 19 日	道東経済センタービル 3F 第 1 小会議室

表 3-3-2 ヒアリング内容詳細

ヒアリング記録 (第 1 回)
<p>日 時：平成 30 年 8 月 2 日 13:00～15:00</p> <p>専門家：愛甲哲也氏 (北海道大学大学院農学研究院准教授)</p> <p>場 所：北海道大学農学部 南棟 1 階 S165 室</p> <p>出席者：環境省 守氏、環境コンサルタント株式会社 田村、秋元</p>
<p>【ヒアリング項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今年度最終目標 (※1) 達成に向けた検討・議論を行うための会議資料 (平成 30 年度第 1 回知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム WG 平成 30 年 9 月 27 日開催予定。以下、エコツーリズム WG という。) の内容について。 <p>※1：今年度最終目標…「知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画」においてエコツーリズム WG が担当する評価項目「VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。」を評価する評価基準、評価指標の決定</p>
<p>【ヒアリング結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長期モニタリング評価基準・評価手法を、今年度第 2 回目のエコツーリズム WG において承認を得るには、第 1 回エコツーリズム WG では具体的な議論を行う必要がある。そのため、評価手法やモニタリング方法についても具体的な提案が必要である。 ● 評価は「知床世界自然遺産地域管理計画」(以下、「管理計画」という。)での「レクリエーション利用と自然環境の保全の両立」(4. 管理の基本方針 (2) 管理に当たって必要な視点 カ.) という大きな方針に対して行うこととし、以下に挙げる 4 つの評価項目を立て、具体的な調査方法やデータのまとめ方を提案する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 利用状況に急激な変化が起こっている ➢ 「知床エコツーリズム戦略」(以下、「エコツアー戦略」という。)に基づいて承認されたツアーが適正に行われているか

- エコツーリズムを理解している利用者の満足度が落ちていないか
- 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議（以下、エコツアー検討会議という。）の構成員や地域から懸念事項が出ていないか

【ヒアリング内容】

1. 評価基準・評価手法の考え方について

(1) 評価の課題について

- これまでの利用状況調査の結果からは個々の利用状況について「適合」、「不適合」を判断することは難しい。

(2) 今後の考え方について

- エコツーリズム WG では詳細データを一つ一つ評価するのではなく、知床世界遺産地域内で適正な利用が行われているか、行われていないかを判断できれば良い。その中でいくつか分け、例えば陸域ではどうか、海域ではどうかという考えにした方が良い。
- 考えの基本となるのは「管理計画」の管理の基本方針と「エコツアー戦略」の将来目標である。
- 「管理計画」には「自然環境に支障を及ぼすことのないよう適正に観光を行う。」と書かれており、適正な利用が行われているかどうかを評価できれば良い。(4. 管理の基本方針 (2) 必要な視点 カ. レクリエーション利用と自然環境の保全の両立)
- 「エコツアー戦略」の将来目標には、「本戦略に基づくエコツアーの割合を向上させる。」、「観光客の満足度を向上させることで、リピーターを増加させる。」と書かれており、エコツアーの数がどの程度あるのか、満足度が上がっているのかが評価できれば良い。
- 地元関係者が「エコツアー戦略」に基づく提案によるエコツアーを運営していれば、サービスは地域内から調達されていると考えられる。しかし、全体数が把握できないため割合を求めることはできない。
- これまでの利用状況調査結果を全て評価指標から外すことには不安がある。もしも、観光客入込数の増加割合に対して一部で急増した利用拠点や利用形態があった場合に、懸念事項や変化が起きつつある事例を見逃すことになる。
- 詳細データは知床白書に掲載し、総括部分をエコツーリズム WG で担当してはどうか。「エコツアーの割合を向上させる。」と「エコツアーの種類、数を充実させる。」を組み合わせ、 「エコツアー戦略」に基づいたエコツアーの数や内容が充実しているかどうかの評価を行えば良い。
- 例えば「戦略に基づいて認定された際の条件に沿ってツアーが実施されているか。」、「モニタリングがツアー実施の付帯条件となっていたものについて、実際にモニタリングが行われているか。」、「エコツーリズム検討会議において、ツアーの実施が報告されているか。」を評価の対象とする。具体的な数値ではなく内容について評価する。ルールの保持度合いや管理体制の充実度、決定した内容の

履行、遵守が「エコツアー戦略」に則って行われていることを評価する。

- 現状をある程度適正な状態だとするならば、現状から大きく変化していないことで適正な利用が行われていると言える。
- 現状の範囲内であれば管理されているという考え方もある。異常事態となれば人を配置するなどの対応を迫られる。
- エコツアーリズム検討会議構成員の経験値として、「利用者は増加しているが特に問題が無さそう。」、「環境や社会的影響は起きて無さそう。」、「利用が上手くコントロールされている。」ということであれば、適正に利用されているという判断にできないか。
- 「管理計画」の6つの将来目標について、以下の2つ程度の方針に対する評価にしてはどうか。
 - 戦略に基づいたエコツアーが行われていること。
 - 戦略に基づくか基づかないかに関わらず特定の利用形態において、急激な利用の増加やそれによる環境や社会への悪影響が懸念されていないか。
- 科学委員会開催時に敷田座長の提案にあったが「利用」と「影響」により「管理」を評価する考え方もある。登山道の荒廃状況を測らなくても、利用者数とマナーが守られているかのアンケートにより「影響」についての推測が可能だという。
- 満足度調査は新たに調査を行う必要はない。知床では知床五湖や先端部利用等の様々なところで定期的なアンケート調査が行われており、それを整理すれば良い。
- 満足度のアンケートでは、基本的な属性や満足度について統一した聞き方が必要である。2011年第1回エコツアーリズム検討会議において、「適正利用・エコツアーリズム関連調査（マーケティングとモニタリング）の方針（案）」を私が提案したが現状では運用はされていない。考え方を応用してはどうか。
- 単発的なアンケート調査を様々な主体が行うことはとても無駄であり、観光客も同じようなアンケートを何度もさせられるという事態が起きる。
- アンケート調査は環境省の事業の他、関係機関の事業報告書等でもあるはずであり、大学等にも協力いただき事例や質問項目を整理したら良い。
- アンケート調査は毎年行わなくても、数年に1度評価するということでも良い。
- 知床の観光利用者のタイプについて分析する必要がある。知床の価値やエコツアーリズムへの取り組みを理解している人が来ているのか、エンターテインメント性を求めて来ているのか。
- 行政で実施した調査は共有してフォーマットの統一を図ると良い。

(3) モニタリング手法の具体案について

- 急激な増加や全体の入込数に対するバランスの乱れや、急激な変化が起きていないか等、因果関係等の把握
 - 羅臼岳の日帰り登山者に変化は無いが、羅臼湖へ訪れる人が急激に増加したなどの状況がある場合

- 湿原地帯や連山、知床岬の利用が急増した場合
- 行われた施策や事業者の新たな取組みと連動して増加した場合
- 連山縦走登山者が急増している場合
- 一貫した傾向が見られるか、放置することによって重大な危険事例になると考えられる場合
- 地元関係者（例えば適正利用・エコツーリズム検討会議の構成員）に対するヒアリング
 - この一年間に環境への影響等の懸念事例があったか
 - 危険な事例を目撃したか
- 懸念事例を収集し、関係機関や団体の対応が必要なレベルであるかを判断
- ここ数年の満足度を整理し、場所によって違うのか、利用形態によって違うのかを把握

(4) 担当する WG に関する考え方について

- どの評価をどこの WG で行うのかという判断は難しいが、国立公園内で起こっていることは観光に直結する部分であり、エコツーリズム WG で行うべき。
- これまでは各 WG でいくつかの項目に分けて評価を行っていた。今後の評価手法について、他の WG では評価項目を変更する方向で検討されているらしいが、各 WG において評価する単位や組み合わせが違うのは分かりにくいいため揃える必要がある。
- 適正な利用を判断する際に、「現段階の利用状態から変動がない」という基準であれば、エコツーリズム WG での判断が可能だと思うが、社会的影響や環境的影響が無いと評価するのは科学委員会全体で行うべき。
- 懸念される事象がある場合に、エコツーリズム WG から科学委員会へ報告する。他の WG からも関連する懸念事項が挙げられた場合に科学委員会でも対応を考えるという方向ではどうか。
- エゾシカ・ヒグマ WG では広域植生調査が行われているが、登山道上の踏圧状況はエゾシカ・ヒグマ WG でやるべきなのか、それともエコツーリズム WG でやるべきなのかという話が出ていた。登山道踏圧の影響はエゾシカには無関係である。

2. 知床エコツーリズム戦略の問題点、今後の運用について

- 「エコツー戦略」策定前より行われているツアーや利用形態（流水ウォーク、ナイトサファリ、ポンホロ沼等のガイドだけが知る場所へ行くツアー）に関しては、モニタリング等の条件を付けられる仕組みも無い。観光事業は法律に触れなければ強制することはできない。
- 「エコツー戦略」に基づく提案を行うことは、承認に時間がかかり、モニタリングの条件がつけられる等、提案する事業者にとってはデメリットが多い。
- 現状のままでは提案者が出なくなる可能性もある。「エコツー戦略」の見直し時期にきているのかもしれない。

- 「エコツアー戦略」は、事業者にとってメリットのある画期的な仕組みになるはずであった。提案者にとってメリットを感じられる仕組みにしていく必要がある。
- 「エコツアー戦略」でモニタリングの実施を含めて認定された案件でも、その後数年経っても変化が無い場合などは、一旦モニタリングをやめ、大きな変化があった場合にモニタリングを行うという対応もできる。

3. エコツアー戦略に基づいた提案を行った際のメリットの具体案

- 世界遺産科学委員会認定ツアーとして環境省ホームページに掲載される。
- 認定シールをつけてコマーシャルが行える。
- 認定者には国立公園満喫プロジェクト等のシールを配布し、環境省のホームページで紹介する。
- 認定されたツアーだけを紹介するパンフレットの作成。
- 現在ある知床五湖厳冬期ツアーや赤岩ツアーなどで実施してみる。

ヒアリング記録 (第2回)

日 時：平成 30 年 9 月 27 日 18:00～19:00

専門家：愛甲哲也氏（北海道大学大学院農学研究院准教授）

場 所：らうす第一ホテル 1階ロビー

記録者：環境コンサルタント株式会社 田村、秋元、富永（同席者：間野勉氏、環境省 守氏）

【ヒアリング項目】

- 第1回知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズムWG（開催日：9月27日）における議論の振り返りと、今年度最終目標（※1）達成に向けた今後の進め方・考え方について。

※1：今年度最終目標…「知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画」においてエコツーリズムWGが担当する評価項目「VII.レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。」を評価する評価基準、評価指標の決定

【ヒアリング結果（まとめ）】

1. 会議内容の振り返り

- 長期モニタリングの内容を新たな枠組みに変更することについては概ね合意された。（9月27日開催エコツーリズムWG及びエコツーリズム検討会議において）
- 新たな枠組みは「利用」、「影響」、「管理」の3者で考えていくこととした。
- 「利用」についてはこれまでどおりの方法によりエコツアーWGで把握していく。

2. エコツアーWGで出た主な意見

- 「管理」という言葉では、行政が行うことだけのような印象がある。「管理及び取り組み」とするか「管理」のままで注釈をつけることが望ましい。
- 「管理」には、行政の取り組みだけでなく事業者や知床財団が行っている自主的な取り組み等も含めてほしい。努力量や実績について評価することで「管理」を定性的に評価してはどうか。

- エコツアー戦略に基づいて提案されたツアーの評価やモニタリングをすることだけでは、遺産地域全体として適正な利用が行われている評価にはならないのではないか。
- 顕在化した自然環境等への悪影響がある場合は、その内容をまとめるという定性的な評価もあるのではないか。
- WG と検討会議の役割が分かりにくいため、役割を分担することが必要なのではないか。
- WG の担当委員が順番に評価を行うという体制を作るのはどうか。
- 検討会議では地元事業者が参加するため、利害関係がある中で発言しにくいということがある。WG で評価を行うことで定性的な評価がしやすくなるのではないか。

3. 今後の進め方について

- 平成 31 年 2 月頃開催予定の科学委員会において、エコツアーWG からの長期モニタリング項目の評価に関わる最終案を提示しなくてはならない。
- そのためエコツアーWG は科学委員会前に開催しなくてはならない。
- 平成 30 年第 2 回エコツアーWG で概ね了解を得られるものにするには、12 月中を目途にメール等での議論を経ることが必要である。

4. 今後の考え方について

- 評価は管理計画の「基本方針 カ. レクリエーション利用と自然環境の保全の両立」の文章中にある「必要な計画や利用ルールの策定・見直しを行う。」「エコツーリズムの考え方に基づく取組を地域に浸透させていく。」で行ってはどうか。
- 「必要な計画や利用ルールの策定・見直しを行なう」では、適正利用のために管理者や地域団体が共同でルール策定や計画運用を行なっているかどうかをみる。
- 「エコツーリズムの考え方に基づく取組を地域に浸透させていく。」では、モニタリング項目として「エコツーリズムの浸透」や「エコツーリズムの推進」としてはどうか。
- 「エコツーリズムの推進」とした場合、エコツアー戦略に基づいた知床の観光利用が行なわれているかを評価する。
- 「No.19 適正利用」をまとめて一つのモニタリング項目とするのではなく、内容毎に分けた評価を行ってはどうか。
- 最初は「できているか」、「できていないか」というある程度の評価しかできないが、何年か積み重なり多少の変化が蓄積することで、将来定量的な評価ができる可能性がある。

【ヒアリング内容（詳細）】

1. 評価方法等について

- 定量的なものは利用者数で評価しているので、管理は定性的になっても良いのではないか。

- エコツアー戦略に基づいたツアー等では、エコツアー戦略の基本方針から外れるものは無い。それだけを見て評価したことになるのか。
- Yes, No の 2 択ではなく、4 段階、5 段階で評価してはどうか。(例: 「ほぼ満たされている」、「ほぼ全てで満たされている」、「やや不足している」、「不足している」等)
- これまでの長期モニタリングの評価では、「評価基準に適合している」としているが、以下のようにしてはどうか。
 - ① 法的に懸念される事項がある場合はその内容を書く。
 - ② 基本原則の 3 項目で考えた場合にどの程度の点数がつくか。
 - ③ 現在行われている部会や提案されたツアー、エコツアー戦略に基づかない代表的な利用形態を基本原則と照らし合わせた時に「満たされている」、「満たされていない」を判断する。
- エコツアー戦略に則っているか否かは、基本 3 原則に対して概ねできているかどうか。例えば、赤岩ツアーは以下の 3 項目に対して貢献しているかをみる。
 - ① 「遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上」
 - ② 「世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供」
 - ③ 「持続可能な地域社会と経済の構築」
 以上を○×等で評価し、知床五湖等のその他の利用についても同様に評価する。それにより概ね条件を満たしているか判断する。
- 「管理」は、エコツアー戦略の運用について提案を受け付け、年 2 回の会議を予定どおり開催していることを評価するという考え方もある。
- 評価はできるだけ主観から遠ざけ、定性的とはいえ客観的な状態が良い。「満たしていると判断」する条件、評価基準を評価シートの中に盛り込んでいくと良い。「利用者の満足度が○%を超えている。」というような根拠が必要で、根拠に基づいた評価を行っていることで言えれば良い。
- 完全に定量的にするのはかなり難しい。エコツアー戦略の基本原則に基づいた利用が行なわれているかどうかという基準を作る。
- 他の地域と比較できることは理想だが、地域から受け入れられない可能性がある。
- WG と地元事業者で評価チームを作って良し悪しを決めていくことが一番理想的であるが、検討会議で事務局案を示して意見をもらうことが現実的なのではないか。
- エコツアーWG での参考資料 4 の「管理」の例には、「エコツアー戦略による提案数」や「ヒグマの巡視の度合い」があるがどちらも難しい。
- エコツアー戦略による提案数は今後益々増えるとは考えにくい。
- ヒグマに関しては、軋轢数が少ない方が良いのは分かるが、どの程度少なければ良いのかを判断するのはとても難しい。
- 「管理」は、以下に示すエコツアー戦略の 9. 具体的方策により評価を行い、基準は

作らないが努力量についても記載する。

- ① 「利用のコントロール」
 - ② 「守るべきルールの設定と指導」
 - ③ 「情報の発信」
 - ④ 「ガイドの育成とガイド利用の推奨」
 - ⑤ 文化的資産等の活用
 - ⑥ 利益の還元
 - ⑦ 施設整備
 - ⑧ モニタリング
- 最初は「できているか」、「できていないか」というある程度の評価しかできないが、何年か積み重なり多少の変化が蓄積することで、将来定量的な評価ができる可能性がある。
 - 一つ一つを列挙して、それが評価基準に合っているかどうかを見ていく方が楽であり定量的な評価もできる。しかし、最終的に一つにまとめなければいけない。
 - 現状では以下の3つの項目がある。評価を一つにまとめてしまっても良いのか。
 - ① 観光利用の中で急激な変化が無く、同レベルで行なわれているか。
 - ② エコツアー戦略に基づくツアーや利用がエコツアー戦略の方針に基づいて行なわれているか。
 - ③ 地域の団体等が行う取り組みが、エコツアー戦略の内容に適合して行なわれているか。
 - 本日 WG で示された長期モニタリング評価案では、エコツアー戦略に基づく管理ができていないかを4件の事案で評価しようとしている。利用数や管理の観点もあつたはずである。別々に評価する必要があるのではないか。
 - 長期モニタリング計画の評価項目は8項目、モニタリング項目は37項目ある。この一つ一つで評価票を作成しているが、「利用実態調査」はモニタリング項目であり評価項目ではない。評価する必要があるのか。
 - 評価項目を構成しているモニタリング項目の結果を総合して評価するべきであったのではないか。
 - No.19 適正利用は現状から変更しないが、まとめて一つのモニタリング項目とはせず、それぞれで分けた方が評価しやすいのではないか。
 - 「利用」について数字は把握しています。極度な変動はしていません。というように、評価基準を設定して変動があるか無いかだけ进行评估する。モニタリング項目を適正利用ではなくて利用の強度というようにしてはどうか。
 - エコツアーWGでは基準と照らし合わせたときの適合度の程度を判断し、評価はしなくても良いのではないか。
 - 「管理と取り組み」と「利用」それぞれに戦略の中の文言から評価基準を設定し、現行のツアーを定性的に評価して積み上げていく。ものによっては努力目標も備

考に入れていくのはどうか。

- 何を根拠に評価したのかが分かる評価シートのようなものを試作すると良い。
- ヒグマに対する行政の指導がきちんと行なわれているかどうかについて

(例)

出勤回数増加だが無事故→評価：ルールの周知等に問題はない（備考 何か事故が起きる可能性あり）

積み上げた結果から「管理」において努力しているという最終的な評価とする。

- 評価は管理計画の基本方針カ. レクリエーション利用と自然環境の保全の両立の中の「必要な計画や利用ルールの策定・見直しを行う。」「エコツーリズムの考え方に基づく取組を地域に浸透させていく。」で行ってはどうか。
- モニタリング項目としては、「エコツーリズムの浸透」や「エコツーリズムの推進」というような言葉の方が良いかもしれない。
- 「エコツーリズムの推進」とした場合、エコツアー戦略があり、それに基づいた知床の観光利用が行なわれているかを評価する。
- 「必要な計画や利用ルールの策定・見直しを行なう」では、適正利用のために管理者や地域団体が共同でルール策定や計画運用を行なっているかどうかをみる。
- 「管理」と言うと分かりづらいため、管理の方策に基づいて名前を付け替えた方が良いのではないか。

2. 今後のモニタリング項目及び担当するWGについて

- 長期モニタリング計画 別表 2. 評価項目を評価するためのモニタリング項目の内、(24) 年次報告書作成による事業実施状況の把握、(25) 年次報告書作成による社会環境の把握は、モニタリング項目から削除しても良いのではないか。
- 広域植生調査は、影響を兼ねている部分があるため色々な評価項目に設定されている。エコツアーWGに関連するものには縦走路の踏みつけ問題がある。
- 石川委員より登山道の踏みつけの増加は、エコツアーWGで担当する方が良いのではないかという意見があった。調査は共同で行うとしても評価はエコツアーWGで行っていくべきではないか。
- 現状では、モニタリング項目が調査する内容によって構成されているので、誰がどういう調査をするかで分かれている。
- ヒグマに関するモニタリングには目撃数や出没状況等があるが、観光客との軋轢の回数は、観光客に対する指導に関連するためレクリエーションの枠に入れるべきではないか。
- ヒグマでいえば利用調整地区制度を導入した時にどういう対応をしたかという話が適正利用に関わってくる。それ以外の部分についてはエゾシカ、ヒグマWGで評価を行えば良いのではないか。

ヒアリング記録 (第3回)

日時：平成30年11月1日 10:30～12:20

専門家：愛甲哲也氏（北海道大学大学院農学研究院准教授）

場所：北海道大学農学部 南棟1階 S165室

出席者：環境省 守氏、環境コンサルタント株式会社 田村、秋元

【ヒアリング項目】

- 愛甲委員よりいただいた資料（第2回ヒアリング内容+愛甲メモ）の内容から当社で作成した資料を元に意見をいただく。

【ヒアリング結果（まとめ）】

1. 「19a 管理と取り組み」について

- 適正利用に向けた管理の仕組みが、「知床エコツーリズム戦略9. 具体的方策」に基づいて行われているかどうかを19a全体で評価する。
- 一つ一つの項目では状況を説明し、全体で一つの評価にする。

2. 「19b 適正な利用・エコツーリズムの推進」について

- 評価基準は、「知床エコツーリズム戦略の視点に基づいて観光利用やツアーなどが実施されているか。」
- 評価は19b全体で行う。評価理由欄を作る。

4. 「19c 利用数の変化」について

- 評価基準は、「5年前と比べて急増していない」、「全体的な評価として急激に利用に変化が起きていない」、「前年と比べて急増していない」、「ある特定の場所にだけ利用者が集中しておらず問題は発生していない」とする。
- 各項目では増減の表示は行うが、評価は全体として行う。
- 資料や状況を見た上で専門家が客観的に判断する。主観を排除した上で専門家が定性的に評価する。

5. 「19d レクリエーション利用によるインパクト」について

- 19dは、エコツーリズムWGでは評価せずに科学委員会で評価してもらおう。もしくは、科学委員会から他WGの意見を聞いてもらい、総合的にエコツーリズムWGで評価する。
- 評価基準は「レクリエーション利用が知床の自然生態系や地域社会に影響を与えていないか」ということ。「全体として現状維持しているか」、「少し悪化しているか」、「改善しているか」というようなことを基準として評価する。

6. 全体として

- 「No.19 利用実態調査」は「適正利用」などに変える必要がある。その上で3つに分けて「適正利用に向けた管理と取り組みが行われている。」、「エコツーリズムの概念に基づいた利用に基づいた観光利用が行われている。」、「観光利用に急激な変化が見られない。」とする。
- 現状では知床エコツーリズム戦略の中にモニタリング計画の記述は無いが、今後

改定される際に整理をしたほうが良い。

7. 考え方の整理

- 平成 30 年度第 1 回エコツーリズム WG を終えてからの考え方

① 提案制度以外の利用についても評価すべきである。

＜対象とするもの＞

- ・ 知床エコツーリズム戦略に提案されて部会設置のあったもの（解散したものを含む）
- ・ 知床エコツーリズム戦略策定前より行われており協議会となっているもの。
- ・ 利用者数のヒアリング等によりデータを収集でき、状況のヒアリングが可能なところ。

② 定性的な評価を客観的な状態にしていく。

- ・ 資料や状況を見た上で専門家が客観的に判断する。主観を排除した上で専門家が定性的に評価する。

③ エコツーリズム WG でモニタリング計画を作る必要がある。

④ （海域 WG のように）各モニタリング評価を見て全体評価をする。

9. データの取りまとめについて

- モニタリングはできるだけ無理なく、現在行っている方法と連携する。
- 聞き取った情報と利用者数の情報を合わせた調査票等を作成し、評価委員はそれを見て評価するという仕組みにする。
- ツアーの実施状況が良好であれば褒められるような仕組みが良い。

【ヒアリング内容（詳細）】

1. 「19a 管理と取り組み」について

- 評価方法は、知床エコツーリズム戦略の具体的方策 1～8 に基づいていることを表記した方が良い。
- 評価の右側の欄は「評価内容」や「評価理由」にすると良い。
- 具体的方策 1～8 を評価した結果、No.19a 全体についての評価をするのか。
- 細かくデータを積み上げるときりが無い。細かくデータを取るには大きなコストがかかる。年次報告書に記載しているような内容を書けば良い。
- はっきりと数の目標を掲げているのは、エゾシカ・ヒグマ WG ぐらいである。他のものは数の基準は作ることが難しい。
- モニタリング項目の段階で本当に評価しなければならないのか疑問に思っている。「知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画」では、評価項目を評価するためのモニタリング項目となっているが、現状ではモニタリング項目の段階で評価している。不要なことを行っているのではないか。2 ページ目で突然「モニタリング手法および評価基準」となっており、それを積み上げることで評価項目を評価できるようになっている。

- モニタリング項目は手法と結果を示せば良いだけであるが、様々な分野のモニタリング項目を集めて評価するのも難しい。
- 適正利用に向けた管理の仕組みが、知床エコツーリズム戦略の具体的方策に基づいて行われているかどうかを 19a で評価する。
- 細かくできるのであればたくさんのイメージはある。しかし、細かくすることで作業が大変になる。一つ一つの項目では状況を説明して全体で一つの評価にする。
- 例えば、取り組みや管理によって状況が改善されていたり、前年と同程度のレベルで推移していれば良い。特に問題がある、将来的な不安があるということであれば「少々問題あり」というような評価をする。
- 少なくとも「改善」、「現状維持」、「悪化」なのかは評価できるのではないか。
- 例えば、「昨年まで行われていた知床五湖の利用調整地区制度は今年から行われなくなった」と書かれた場合、そこで利用のコントロールができなくなり昨年より管理の状況が悪化したのではないかと考えられる。いくつもそういうものが出た場合には、全体として管理や取り組みが適正利用に向けて少し後退しているのではないかという話になり、「悪化」ということになることもある。前年と同じことを淡々とやりましたということであれば現状維持という評価になる。
- 評価方法と評価対象の下に評価基準を作り、「評価基準に適合」、「評価基準に非適合」、「改善」、「現状維持」、「悪化」を評価軸としてはどうか。

2. 「19b 適正な利用・エコツーリズムの推進」について

- 一つ一つのツアーや観光利用などについて、知床エコツーリズム戦略の 5. 基本方針の項目ごとに、○（取り組んでいる）、△（やや課題が残る、やや懸念がある等）、－（該当しない）と記載してはどうか。
- 前年と比較して変化がなければ良い。
- 評価基準は、「知床エコツーリズム戦略の視点に基づいて観光利用やツアーなどが実施されているか。」としてはどうか。
- 前年通り行っていれば「適合している。」とする。
- 基本的には知床エコツーリズム戦略に基づいて観光利用やツアーなどが行われているはずであり、現状維持していれば適合しているはずである。
- 例えば、知床五湖冬期利用でどこでも自由に立ち入りできるような利用が始まったり、地域外の人が行っているというように、自然環境に影響が出るような利用に変化した場合などは△になる。
- 評価は 19b 全体で行う。前年と○△の表を見比べた結果の一つの評価で良い。評価の理由を書く欄を作り、「○○が変化したから」、「管理されたから」、「現状維持しているから」というようなことを書く。
- 一つ一つのツアー等についてどうこう言うのではなく、全体的に見てどうであ

ったかが分かれば良い。

- 例えば、結果を WG の委員が見た時に、あのツアーは自然環境を保全していると言えるのか（△）という話になったとする。○、△等のついた表をエコツーリズム検討会議にあげた時、我々のツアーではこのような事を行っているので△ではなく○ではないかというような意見が出るかもしれない。
- 事業者自体が、外から客観的に見るとそういう風に見えているということも分かり、それぞれのツアーの強いところ、弱いところが見えるかもしれない。
- 目指すべきところは全ての項目に○がつくこと。全てに○がついたら完璧なエコツアーである。
- エコツーリズム検討会議の資料から情報を収集できる部分もある。

3. 19a、19b に共通する部分について

- 将来目標であるため現時点で全て満たされていなくても良い
- 現状ではモニタリングが少し足りない、利益の還元まではいっていないということが分かれば良い。前年と比較して少し増えたというのがあれば良い。そのため評価は一つで良い。
- エコツーに関する評価は、不適合とか悪化とかいう評価になることはほぼ無い。そもそも法律に触れるなど、その前に問題となり何かの仕組みが働くものである。長期モニタリングでそんなに悪い点数がつくことはない。
- 長期モニタリングの結果は、最終的に目指すべき姿があり、自分たちの強いところや弱いところを知り、そこに向かって頑張っていきましょうというために使った方が良い。
- 定性的にならざるを得ない。

4. 「19c 利用数の変化」について

- 矢印をつけるのは分かりやすくして良い。±5%程度であれば横棒でも良いかもしれない。何年間か経過を見た上で基準を作っておいた方が良い。
- 評価基準は、「5年前と比べて急増していない」、「全体的な評価として急激に利用の変化が起きていない」、「前年と比べて急増していない」、「ある特定の場所にだけ利用者が集中しておらず問題は発生していない」とする。
- 「適合」、「非適合」、「改善」、「現状維持」等が評価できれば良い。
- 各項目では増減の表示は行うが、評価は全体として行う。
- 各 WG からのモニタリング項目の評価を並べて、それほど急激に変化していない場合は現状維持にしてはどうか。
- 本来であればそれを決めるのが科学委員会だと思う。
- 自然環境への影響が大きいと考えられる利用がある場合は、それに対応するアクションを取らなくてはならない。それが分かれば良いはずである。
- 評価する人によって評価が変わる可能性があることは定性的評価の弱い部分である。

- 定性的な評価は主観的な評価とは違う。
- 資料や状況を見た上で専門家が客観的に判断する。主観を排除した上で専門家が定性的に評価する。それは客観的といえる。
- 各利用拠点のデータは様々あるが、どのデータを利用しないかは検討が必要である。
- 知床では細かいデータが整理されているのが一つの特徴である。できれば維持しておいた方がよい。

5. 「19d レクリエーション利用によるインパクト」について

- 19d は科学委員会で評価するのか、エコツーリズム WG でまとめとして評価するのか。
- 19d は他の WG からの意見を聞き、因果関係などを含めた評価するため、エコツーリズム WG で評価する必要があるかどうか検討が必要。
- 19d は、エコツーリズム WG では評価せずに科学委員会で評価してもらおう。もしくは、科学委員会から他 WG の意見を聞いてもらい、総合的にエコツーリズム WG で評価する。
- レクリエーション利用が海域の生態系に影響を与えていないかどうかは、海域 WG の意見と 19a, 19b, 19c で評価した結果から分析する。
- レクリエーション利用や観光の取り組み、ツアーの利用者数の変動によって地域社会に影響が出ていないかどうか。産業構造や人口減少などの急激な変化があるかなどはエコツーリズム WG で評価すればよい。
- レクリエーション利用が直接エゾシカやヒグマに影響を与えたか、生態系に影響を与えたか、海域に影響を与えたか。科学委員会や他 WG の意見を聞いてそれぞれの結果を分析する。
- 評価基準は「レクリエーション利用が知床の自然生態系や地域社会に影響を与えていないか」ということ。「全体として現状維持しているか」、「少し悪化しているか」、「改善しているか」というようなことを基準として評価する。
- 「大幅な変化や急激な変化が見られる。」、「新たな問題が発生した。」という兆候が見られていないか、気をつけるべきことがあるのかを 19d で評価する。

6. 全体として

- 「No.19 利用実態調査」として 19a, 19b, 19c とするのか、それとも No.19, No.20, No.21 とするのか。
- 「No.19 利用実態調査」は「適正利用」などに変える必要がある。しかし、その上で 3 つに分けると二段階評価することになる。そのため、No.は別々にするのが望ましい。「適正利用に向けた管理と取り組みが行われている。」、「エコツーリズムの概念に基づいた利用に基づいた観光利用が行われている。」、「観光利用に急激な変化が見られない。」というモニタリング項目が 3 つあって良いと思う。
- 海域は個別のモニタリング項目に対してそれぞれまとめており、表紙の部分に評

価をつけている。エコツーリズム WG でもモニタリング項目を一つ一つ分けて評価し、総合評価を行っても良い。海域 WG の「長期モニタリング計画に基づくモニタリング項目の評価（案）」は分かりやすい。

- 長期モニタリングは 5 年 10 年で評価を行えば良いのではないか。
- 他 WG では年次的にモニタリング計画を作って評価をしている。今回の整理に合わせて、エコツーリズム WG も自分たちで評価する仕組みを作ってはどうか。現状ではエコツーリズム戦略の中にモニタリング計画の記述は無いが、今後改定される際に整理をしたほうが良い。
- エコツーリズム WG ではⅦの評価ができれば良い。海域 WG ではこれだけ様々なモニタリングをして個別評価も行い、そして総合評価もしている。全ての WG で統一した方が良い。全ての WG から意見が出揃った時に科学委員会で検討してもらいたい。
- 19a, 19b, 19c はエコツーリズム WG で評価し、総合評価も行う。

7. 考え方の整理

- 平成 30 年度第 1 回エコツーリズム WG での意見、検討事項は以下のとおり。
 - ・ 「平成 29 年度 長期モニタリング中間総括評価（案）」の評価欄に「利用が環境や社会に著しい影響を与えていないという評価（現状維持）をする。」の記載から「社会」の部分は削除するとした。
 - ・ 提案制度に基づかない利用も含める必要がある。
 - ・ 定性的な評価も大切だが客観的になるような配慮が必要である。
 - ・ 「利用」、「管理」、「影響」の三者関係に着目することについては承認済み。
 - ・ 長期モニタリング評価はエコツーリズム WG で対応することについて承認済み。
 - ・ 今後も利用状況の把握は必要であろう。
 - ・ 「管理」はどのように評価するのか今後検討が必要。
- 平成 30 年度第 1 回エコツーリズム WG を終えてからの考え方
 - ・ 提案制度以外の利用についても評価するべきである。
 - ・ 定性的な評価を客観的な状態にしていく。
 - ・ もともとは将来目標に基づいていたが、将来の目標なので今達成している必要はない。
 - ・ 具体的な方策は各個別の利用についてではなく管理者側のものである。
 - ・ 19b では各ツアーがエコツーリズム戦略の「5. 基本方針」に基づいているかについて「○」、「△」、「－」をつけていく。
 - ・ エコツーリズム WG でモニタリング計画を作る必要がある。
 - ・ 海域 WG のようにモニタリング評価を見て全体評価をする。

8. 今後の流れ

- 次回ヒアリング予定 11 月 19 日迄に修正したバージョンを作成。
- 敷田先生の了解が出たら ML で共有する。

9. データの取りまとめについて

- モニタリングは細かくやっていったらきりが無い。そのための値するものとかコストをたくさんかけるとはいうことはできない。できるだけ無理なく、現在行っている方法と連携してできることを行う。

□ 「19a 管理と取り組み」

- (1) 利用コントロールや (2) 守るべきルールの設定と指導は、行政や計画、協議会などの文書および編集中の白書のデータを収集する。

□ 「19b 適正な利用・エコツーリズムの推進」、 「19c 利用者数の変化」

- 評価するための「調査シート」を作成すると良い。
- 例えばある利用に対して
 - ・ 何社が行っていたのか。
 - ・ 期間はいつからいつまでであったか。
 - ・ ヒグマの出没による閉鎖はあったか。
 - ・ どういう運用を行ったか (分かるもの)。
 - ・ 変化があった場合、その理由で思い当たること。

以上のようなことを利用者数と共にヒアリングを行う。

対象とするものは、知床エコツーリズム戦略に提案されて解散したものを含めた部会設置のあったもの。また、知床エコツーリズム戦略策定前より行われており協議会となっているもの。利用者数のヒアリング等によりデータを収集できて状況のヒアリングが可能なところ。

- 「調査シート」へ記入する際に判断できないものがある場合には空欄でも良い。
- 明らかに外部から見ても判断することができて、ヒアリングでの結果でも同様の結果だとすれば「○」になる場合もある。エコツーリズム検討会議に素案として挙げて、異論が出た場合に修正する。
- 利用形態やツアー一つ一つは評価しない。
- ツアーの実施状況が良好であれば褒められるような仕組みが良い。
- インターネットやパンフレット等で情報を収集することも可能である。
- 聞き取った情報と利用者数の情報を合わせた調査票等を作成し、評価委員はそれを見て評価するという仕組みにしてはどうか。試してみると良い。

ヒアリング記録 (第4回)

日時：平成30年11月19日 17:30～19:20

専門家：愛甲哲也氏 (北海道大学大学院農学研究院准教授)

場所：道東経済センタービル 3F 第1小会議室

記録者：環境コンサルタント株式会社 田村、秋元 (同席者：環境省松尾氏、山本氏、守氏)

【ヒアリング項目】

- エコツーリズム WG メーリングリストで議論を行うための、「長期モニタリングの今後の考え方素案」作成に向けて意見をいただく。

【ヒアリング結果（まとめ）】

1. エコツーリズム WG で担当するモニタリング項目について

- 19a 適正利用に向けた管理と取組

知床白書やエコツーリズム検討会議の資料より具体的な取り組みを抽出し列挙する。⇒具体的な管理や取り組みが把握できる。

- 19b 適正な利用・エコツーリズムの推進

実際のツアー実施者にツアーがエコツーリズムの精神に則って行われているか、懸念点がないかを聞き取る。(19b 聞き取り調査票シート) ⇒エコツーリズムの取り組みが浸透しているかを把握できる。

- 19c 利用者数の変化

利用者数の把握及び過去5年間と遺産登録時との比較⇒実際の利用の程度が把握できる。

- 19d レクリエーション利用によるインパクト

現時点では考えない。

2. 評価について

- 評価する WG 委員は、時々現地へ行って話を聞いたりしているはずであり、聞き取り内容が疑わしい場合は判断できるはずである。
- WG 委員にも責任がある。そのため現地に足を運んでいる人が WG 委員になり、そのことにより客観性を持たせる。

【ヒアリング内容（詳細）】

1. 評価について

- 科学委員会の中で評価することは難しいと思うが、座長で集まり評価 WG のようなところで評価ができれば良い。事務局で原案を作成してその合意を得る方法でも良い。
- 現状ではモニタリング項目を個別に評価しているため評価項目を評価できないものがある。
- 実際は毎年評価する必要があるのか疑問である。
- (守) 評価は WG の専門家が行なうことにより客観性を確保する。今後は毎年担当委員を決めていただき評価をしていただく。その後 WG で諮り、検討会議に報告する手順となる。
- 評価する際に、例えば、「前年や過去数年と比較して変化なく適正利用に向けた管理と取り組みが継続的に行なわれていれば現状維持」、「新たな取り組みが行なわれていたとすれば改善」、「過去と比較して極端に取り組みや管理が減少しており、なおかつ環境への影響などが始めているとすれば悪化」というような解説文がシート下部に入っていると良い。
- 現状維持や改善であれば評価基準に適合しているということで良いのではないかと。
- 「評価の基準※」として、こういう場合には改善、悪化。基本的に変化がなければ適合で現状維持となるというような例をあげておくと良い。

2. 知床世界自然遺産地域管理計画でのモニタリングの位置づけ

- 「知床世界自然遺産地域管理計画」にはモニタリングについての仕組みが明確に書かれていない。何年ごとに何をやるかも書かれていない。次回改訂時にはその仕組みを入れておいたほうが良い。

3. 19a、19b、19c、19dの項目ごとの考え方、データ収集方法等について

19a 適正利用に向けた管理と取組について

- データはエコツアーリズム検討会議資料や知床白書の内容から抜粋する。
- いつから行なっているかを記入することで、新たな取り組みや継続の状況も分かりやすくなり評価がしやすくなるのではないかと。
- ガイドの育成のためにどのような教育をしているかを、ガイド協議会や主要な事業者に聞き取ると良い。新入ガイドへの教育をどのように行っているかを聞くのも良い。
- (守、山本)羅臼町観光協会では市民ガイドの認定と育成をしている。また、文化資産の活用では市場見学を行なっている。ここで想定されるのは番屋、市場、チャシであり、斜里町、羅臼町の観光協会に聞くのが良い。アイヌ文化の継承などについても同様に聞いてみると良い。
- 開拓跡地の「しれとこ森づくりの道」は文化的資産の活用にあたるのではないかと。知床財団に聞き取りが可能かもしれない。
- モニタリングはどのような調査が行なわれているのかを観光協会、環境省、検討会議の各部会等からの聞き取りが可能はずである。
- アンケート調査は、知床海鳥 WEEK などでも行なっているのではないかと。
- (山本) 何のモニタリングを行なっているのか、どのようなアンケートを行なっているのかという項目出しが必要。結果が満足であったということではなく、行なっているかどうか。
- (山本) 情報発信は、外国人旅行者向け情報発信の強化部会がまとめている一覧表を活用すると良い。
- モニタリングはアンケートだけというわけではない。

<例>

- ・ 知床五湖遊歩道の歩道の拡大が無いかを確認する植生調査
- ・ ケイマフリの生息数のカウント
- ・ 知床連山で行なっているシレットコスミレの植生調査
- ・ ワシに関する調査
- ・ 羅臼地区観光船の餌付け調査
- ・ 赤岩ツアーでの先端部地区意識調査
- ・ シマフクロウ調査
- ・ その他、適正利用に関する調査
- (山本) フレペの滝の植生調査は知床財団が独自で行なっている。道幅等も行なっているかもしれない。

- (守)「利用コントロール」や「守るべきルールの設定と指導」としては、世界遺産センターやルサフィールドハウスのレクチャーなどが当てはまるのではないかな。

19b 適正な利用・エコツーリズムの推進について

- 適正な利用やエコツーリズムの推進などは、団体利用者のために行っている世界遺産センターでのレクチャーも、適正なエコツーリズムの推進になるのではないかな。
- 赤岩昆布ツアーのように1社だけが行なっている場合は把握しやすいが、フレペの滝等は何社が行なっているかも不明であるため把握が困難である。
- (山本) ガイド協会やガイド会社が案内した人の数が増えていけばエコツーリズムが推進しているということにならないかな。
- (松尾) 問題があったところだけ拾うということはできないかな。明らかに知床エコツーリズム戦略に合致していないツアーがあるなど。
- (山本) 問題があった場合は滞っているという考え方はどうか。
- 聞き取りを行う場合には個人事業者だと頼みにくいこともある。ツアーの企画やエコツーリズムの観光形態でツアーを行っているような団体を対象に調査を行ってはどうか。
- 「遺産価値の向上に貢献しているような取り組みをしていますか?」、「良質な自然体験を提供するためにどのような取り組みをしていますか?」等を聞き、その「例があれば教えてください。」というような聞き方をする。
- ツアー事例を抽出し、協議会や環境省で把握している事業者(19b 聞き取り)調査票シートを配ってもらい、最近感じている課題や問題点を集約する。懸念する事項が無いかなや民間の取り組みが増えているかな等を評価する。
- 全体的にエコツーリズム参加者が増えているかな、減っているかなをチェックしてもらうような欄を作る。利用形態や環境への影響で懸念することがあるかないかな。ある場合はその内容を書いてもらう。
- 新規で始めた取り組みや工夫については評価するべき。そのためにも調査票に書いてもらえたら良い。
- (山本) フレペの滝やカムイワッカ湯の滝利用についての聞き取り先は斜里町観光課が良い。
- 聞き取り調査用シートの例(事業ごとに個別に作成)

【聞き取り先】赤岩地区昆布ツアー部会

【事業内容】赤岩地区の昆布ツアー

【質問】

- ① (「知床エコツーリズム戦略 5. 基本方針(1)、(2)」の11項目を列挙し)これに当てはまりますか? (☑で回答) また、特に配慮したこと、最近始めたことがあればお書きください。(自由記載)
- ② 利用者数に変化がありましたか? (☑で回答) 変化がある場合は具体的な内容をお書きください。(自由記載)

③ 利用者のタイプに変化がありましたか？（で回答）変化がある場合は具体的な内容をお書きください。（自由記載）

④ フィールドなどで環境への影響等に心配なことがありますか？（チェックで回答）ある場合は具体的な内容をお書きください。（自由記載）

19c 利用者数の変化について

- 利用者数のみの把握で良い。利用者数は過去5年分程度と比較し、不自然な変動がみられないかをチェックできれば良い。また、遺産指定されてから利用者数に急激に変化が見られていないかをチェックする。
- 「最近何か変化はありますか。」、「今年は今までと違う傾向がありましたか。」、「生態系に影響があると感じるような心配事はありませんか。」等を聞き取ることで評価の参考になるかもしれない。

19d レクリエーション利用によるインパクトについて

- 評価項目Ⅶを科学委員会で評価するならばエコツーリズム WG で評価する必要はない。
- 他 WG での動植物モニタリングデータと、エコツーリズムに関する取り組みや利用者数の変化等の関係に、何か一貫した関係が見られるかどうかということの評価する。しかし、短期的に分かるようなものでもない。
- 考え方は重要だが、どのように評価するかということは難しい。

4 エコツーリズム検討会議及びエコツーリズムWGの運営

4-1 エコツーリズム検討会議及びエコツーリズムWGの運営

環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道が事務局を務める知床世界遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議（以下、「エコツーリズム検討会議」という。）及び世界遺産地域適正利用・エコツーリズムワーキンググループ（以下、「エコツーリズムWG」という。）を運営し、その結果をとりまとめた。

(1) 開催場所・回数

・エコツーリズム検討会議及びエコツーリズムWG 各1回

第1回会議：平成30年9月27日（羅臼町）

エコツーリズムWG 10:00～12:00

エコツーリズム検討会議 13:30～16:00（実績13:30～16:50）

第2回会議：平成31年2月28日（中標津町）

エコツーリズムWG 10:00～12:00（実績10:00～12:30）

エコツーリズム検討会議 13:30～16:00（実績13:30～17:00）

(2) 開催案内

構成員の予定を事前に確認し、環境省担当官と調整のうえ、会議開催の1か月前を目処に委員及び関係団体宛てに開催案内の発送を行った。また、出欠のとりまとめを行い、出席者名簿及び座席表を作成した。

(3) 資料作成

環境省担当官と調整のうえ、会議に使用する資料作成に当たり必要な資料作成補助を行った。

(4) 資料印刷

環境省担当官と調整のうえ、検討会議に使用する資料（エコツーリズム検討会議資料65部、エコツーリズムWG資料45部程度）を印刷した。

(5) 会場準備

会場の借り上げ及び会場の準備（会議の開催に必要な音響設備の準備を含む）を行った。

(6) 議事録作成

議事の内容を記録し、参加者の確認を取った上で議事録を作成した。

(7) 謝金等支払い

会議開催後に、出席した委員への謝金及び旅費の支払いを行った。各会議の委員を表 4-1-1（第 1 回）、表 4-1-2（第 2 回）に示した。

表 4-1-1 知床世界自然遺産地域科学委員会

適正利用・エコツーリズムワーキンググループ委員（第 1 回出席者）

氏名	所属	住所
敷田 麻実	北陸先端科学技術大学院大学	石川県
小林 昭裕	専修大学経済学部	神奈川県
愛甲 哲也	北海道大学大学院農学研究院	札幌市
中川 元	前 知床博物館館長	斜里町
間野 勉	北海道環境科学研究センター	札幌市

表 4-1-2 知床世界自然遺産地域科学委員会

適正利用・エコツーリズムワーキンググループ委員（第 2 回出席者）

氏名	所属	住所
敷田 麻実	北陸先端科学技術大学院大学	石川県
小林 昭裕	専修大学経済学部	神奈川県
愛甲 哲也	北海道大学大学院農学研究院	札幌市
中川 元	前 知床博物館館長	斜里町
間野 勉	北海道環境科学研究センター	札幌市

(8) ニュースレターの作成

平成 29 年度知床国立公園適正利用等検討業務で作成したニュースレターNo.7 の原稿（A4、2 頁、90-91 ページに掲載）を 8,000 部両面カラー印刷し、斜里町、羅臼町が発行する広報への折り込み作業等（※）を行った。又、平成 30 年度の検討会議の結果をとりまとめたニュースレターNo.8 の原稿案（A4、2 頁、92-93 ページに掲載）を作成した。体裁は A4 版 2 頁両面印刷用とした。

（※）折り込み作業等

- ・斜里町 5,000 部（平成 30 年 7 月 30 日折り込み作業）
- ・羅臼町 1,880 部（平成 30 年 7 月 24 日折り込み作業）
- ・残部 1,120 部は、羅臼自然保護官事務所へ納品（平成 30 年 7 月 24 日）



知床科学委員会 しんぶん

適正利用・エコツーリズム 検討会議 No.7

知床世界自然遺産地域
科学委員会

エコツアー協働生態系
ワーキンググループ

海胆ワーキンググループ

適正利用・エコツーリズム
検討会議

知床工作物
アドバイザリー会議

ヒラマキ管理方針
検討会議

適正利用・エコツーリズム検討会議って何を話し合ってるの？

適正利用・エコツーリズム検討会議（略して”エコツアー検討会議”）は、地元で観光にかかわる皆さん、行政機関、様々な分野の専門家が集まり、知床の自然環境を保全しながら有効活用ができないかを話し合う場です。

- ☆平成 29 年度第 1 回エコツアー検討会議
平成 29 年 10 月 16 日 開催地：羅臼町
- ☆平成 29 年度第 2 回エコツアー検討会議
平成 30 年 2 月 19 日 開催地：斜里町



**毎回、知床に対する熱い議論が
交わされています！**

【エコツーリズム】 自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し、学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかた

地域のアイディアをかたちに

エコツアー検討会議の主人公は、地域のみなさんです。「知床エコツーリズム戦略」(略して”エコツアー戦略”)は、知床の魅力を伝える為、「やりたいこと」「やるべきこと」を地域のみなさんからのアイディアによって、関係者で話し合い、形にするしくみです。



厳冬期の知床五湖エコツアー

知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー

エコツアー戦略に基づく議論の仕組み



エコツアー戦略から実現した新しいツアーと事業

厳冬期の知床五湖エコツアー (知床斜里町観光協会ほか)

平成 26 年度から実施し、冬の静寂な知床五湖をガイドが同行し、散策する大変人気の高いツアーです。
平成 29 年 1 月 23 日～平成 29 年 3 月 22 日までの 60 日間で 2,371 人の利用がありました。

知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー (知床羅臼町観光協会ほか)

知床岬先端部赤岩地区で行われている昔ながらの昆布漁に触れ、漁業を営んできた人々の歴史・文化を学ぶツアーです。
大手旅行会社、メディア関係者へツアーを紹介し販売促進を実施してきました。今後は一般旅行者にも紹介していく予定です。

外国人旅行者向け情報発信の強化 (知床財団ほか)

情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」より施設の営業時間、散策路情報など日本語と英語での発信をリアルタイムで行っています。サイト内で週間登山道情報の発信を行うほか、登山道マップ(日本語+英語表記)の発売も行いました。



「知床情報玉手箱」QRコードによるダウンロードはこちら



知床沼における写真撮影モニタリング報告 (羅臼山岳会ほか)

平成 24 年度に羅臼山岳会を中心に、登山者の事故や遭難を防ぎ、知床沼での無秩序な野営利用に伴う周辺植生への悪影響を防止するため、知床沼野営禁止区域の一部を除外しテントサイトとする提案がされました。

提案承認後は植生への悪影響が無いか確認するため、知床沼部会によって写真撮影によるモニタリングが行われています。平成 29 年度第 1 回エコツアー検討会議で、平成 26 年から平成 28 年に行ったモニタリング結果が報告されました。



【モニタリング方法】

知床沼までの踏み分け道および知床岳方面への踏み分け道の状況を継続的に撮影

(モニタリング結果より：羅臼山岳会撮影)



平成 26 年 9 月 15 日撮影



平成 27 年 8 月 4 日撮影



平成 28 年 7 月 13 日撮影

約 2 年後

【モニタリング結果】

現地で見視による植生への影響は確認されませんでした。

また、撮影した写真の確認を石川委員 (適正利用・エコツアーリズムワーキンググループ委員) にお願いましたが、「変化は無いと判断して良い」とのコメントをいただきました。

知床沼の利用人数は、近年減少傾向にあります。今後も写真撮影によるモニタリングを継続していきます。



知床国立公園利用のあり方に関する懇談会を開催しています

平成 29 年度より知床国立公園の利用のあり方について、地域の意見や利用状況、ニーズなどを踏まえ、既存のルールの見直しを含めた検討を行う「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」を開催しています。

今後も引き続き、地域関係者、行政機関により意見交換や様々な検討を進めていきます。



会議の内容をもっと知りたい方はコチラ



知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます！
会議は公開しています。ぜひ討議を見学に来て下さい。



◆ お問い合わせ先 ◆

環境省釧路自然環境事務所 ☎085-8639 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階
tel 0154-32-7500/fax0154-32-7575

■ 発 行：環境省

■ 制 作：環境コンサルタント株式会社

■ 発行日：2018年7月18日



知床科学委員会 しんぶん

適正利用・エコツーリズム 検討会議 No.8

知床世界自然遺産地域
科学委員会

エウシカヒグマ
ワーキンググループ

海城ワーキンググループ

適正利用・エコツーリズム
検討会議

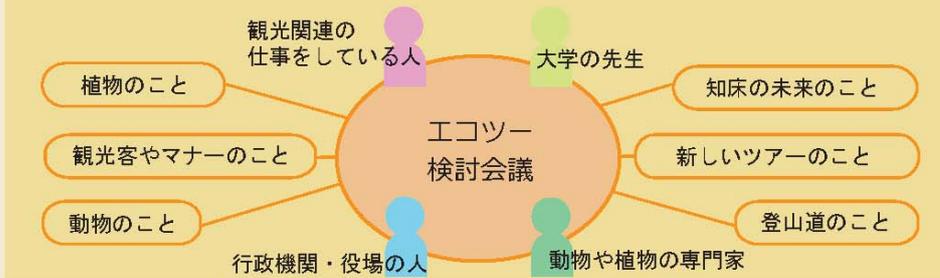
河川工作物
アドバイザー会議

「適正利用・エコツーリズム検討会議」って何の会議？

適正利用・エコツーリズム検討会議（略して”エコツアー検討会議”）は、地元で観光にかかわる皆さん、行政機関、様々な分野の専門家が集まり、知床の自然環境を保全しながら有効活用ができないかを話し合う場です。



★ 色々な人たちが集まって知床の自然と観光に関わることが話われています。★



例えば 知床で新しい観光ツアーを提案したい！

- | | |
|---|--|
| <p>Q エコツアー検討会議で提案するにはどうすれば良いの？</p> <p>A 斜里町役場と羅臼町役場で事前に相談できます。</p> <p>Q エコツアー検討会議で観光ツアーが承認されるにはどんなことが必要なの？</p> <p>A 「知床エコツーリズム戦略」に則していることが必要です。</p> | <p>Q どんなメリットがあるの？</p> <p>A エコツアー検討会議で承認されれば、検討部会が設置されます。「実現できるか」や、「法律や制度上のこと」、「環境への影響」などを行政機関や専門家などに相談することができます。</p> |
|---|--|

【エコツーリズム】自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し、学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかたです。

【知床エコツーリズム戦略】知床の魅力を伝える為、「やりたいこと」、「やるべきこと」を地域のみなさんからのアイデアによって、関係者で話し合い、形にするしくみです。

エコツアー戦略から実現した事業

厳冬の知床五湖エコツアー (知床斜里町観光協会ほか)



- 冬の静かな知床五湖をガイドが同行して散策するツアーです。
- 平成 26 年度より実施していますが、知床のツアーの中でも年々人気が高まっています。
- 平成 30 年 1 月 22 日～平成 30 年 3 月 11 日までの 49 日間で 2,320 人の利用がありました！！



知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー (知床羅臼町観光協会ほか)



- 知床ブランドのひとつ「羅臼昆布」について学ぶツアーです。
- 知床岬先端部赤岩地区で行われている昔ながらの昆布漁に触れ、漁業を営んできた人々の歴史・文化を学ぶツアーです。
- 大手旅行会社、メディア関係者へツアーを紹介し販売促進を実施中です！！



外国人旅行者向け情報発信の強化 (知床財団ほか)

～ 「外国人旅行者向け情報発信の強化部会」が解散します ～
一定の成果を上げることができた為、平成 30 年度で解散することになりました。これまで関わってきた皆さんお疲れさまでした。
今後は知床財団、行政機関等によって運営が行われていきます。

情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」



日本語と英語の発信をリアルタイムで行っています。

- ★施設の営業時間
- ★イベント情報
- ★観光船やバスの運行情報
- ★散策路情報

「知床情報玉手箱」
はこちらから



知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます！
会議は公開しています。ぜひ討議を見学に来て下さい。



◆ お問い合わせ先 ◆

環境省釧路自然環境事務所 ☎085-8639 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階
tel 0154-32-7500/fax 0154-32-7575

■発行：環境省

■制作：環境コンサルタント株式会社

■発行日：2019年〇月〇日

ニュースレターNo. 8 原稿案 (裏面)

4-2 エコツーリズム検討会議及びエコツーリズム WG の開催概要

4-2-1 開催の経緯

知床の適正な利用およびエコツーリズムの推進を図り、多様な野生生物を含む原生的な自然環境を後世に引き継ぐとともに、良質な自然体験を提供するため、環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道が事務局を務める「知床世界自然遺産地域科学委員会適正利用・エコツーリズムワーキンググループ」（以下、エコツーリズム WG という。）と「知床世界自然遺産地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会」の合同開催による「知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議」（以下、「エコツーリズム検討会議」という。）は、今年度 2 回開催された。

また、これまで「長期モニタリング計画」の「評価項目：VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。」の評価はエコツーリズム検討会議が担当し、評価を行ってきた。評価のためのモニタリングとして主要拠点の利用者数を調査し、「各利用拠点の特性に応じた適正な利用となっていること」を評価してきた。しかし、「利用者数の把握というモニタリング手法では「評価基準」の評価を行うことは難しい。」という意見が出されていたことなどからエコツーリズム WG において「評価基準」等の再検討をすることとなった。

なお、エコツーリズム検討会議及びエコツーリズム WG の開催の概要を以下に整理する。なお、会議で構成員に配布した資料については知床データセンターで公開している。（<http://dc.shiretoko-whc.com/meeting/riyou.html>）

4-2-2 平成 30 年度第 1 回エコツーリズム検討会議 会議概要

(1) 開催日時

平成 30 年 9 月 27 日（月） 13:30～16:00

(2) 開催場所

羅臼町公民館 2 階大集会室（羅臼町栄町 102）

(3) 出席者

委員 5 名
地域関係団体 20 名
関係行政機関 7 名
事務局 13 名
オブザーバー 1 名
提案者 1 名
計 47 名

(4) 議事

- i) 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況
- ii) 知床エコツーリズム戦略に基づく提案について
- iii) 実施部会からの報告
 - ① 厳冬期の知床五湖エコツアー事業
 - ② カムイワッカ地区における取組
 - ③ 知床五湖地区における取組
 - ④ ウトロ海域における取組
- iv) その他
 - ① 長期モニタリング計画の見直しについて
 - ② 第41回世界遺産委員会決議の対応について

(5) 議事概要

- i) 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況
北海道より知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況（資料1）について説明。

◇主な質疑・意見等

無し

- ii) 知床エコツーリズム戦略に基づく提案について
環境省より知床観音岩 COAST WAY フットパスコース（仮）の進め方（資料2-4）について説明。
知床羅臼フットパスクラブより「知床観音岩 COAST WAY フットパスコース（仮）」の提案について説明。
環境省より知床観音岩 COAST WAY フットパスコース（仮）に係る課題整理（資料2-3）について説明。

◇主な質疑・意見等

- フットパス愛好者などの特定の利用者を想定しているのか。一般の観光客が入れることを想定しているのか。
(回答：一般の利用者の利用も想定している。)
- フットパスは一方通行が多いと思うがこのコースはどうなるのか。
(回答：峯浜から幌萌までは片道のコースで考えている。)
- 羅臼側のコースでは今年事故も起きており、責任の所在などの様々な問題があるのではないか。
(回答：安全の確保については今後の話になるが、必ずルサフィールドハウスに立ち寄り、レクチャーを受けてから入る仕組みにしたい。)

- レクチャーを受ける人と、自由に入って行く人をどのように区別するのか。
(回答：現時点ではそこまで練っていない。)

iii) 実施部会からの報告

① 赤岩地区昆布ツアー部会（報告）

「知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー」実施状況等について（資料 3-1-1）、赤岩地区昆布ツアー（知床岬 399 番地上陸ツアー）（資料 3-1-2）、赤岩地区昆布ツアー（知床岬 399 番地上陸ツアー）羅臼町民モニター参加者募集チラシ（資料 3-1-3）について説明。

◇主な質疑・意見等

- ツアーの名称を変更した理由を説明してほしい。
- 赤岩地区では昆布漁が行われなくなったため提案時の状況と変わっているのではないか。

(回答：ツアー名称はより分かりやすいものに変更した。赤岩地区での昆布漁を見せていたわけではないため、昆布漁が行われなくなってもツアー内容の変更はない。)

- ツアー内容が変更されていないのに、名称を変更するのはどうか。
- ツアー試行の条件は 6 つあった。次回の検討会議までに部会で再検討してほしい。

② 外国人旅行者向け情報発信の強化部会（報告）

知床財団より「外国人旅行者向け情報発信の強化」部会報告（資料 3-2）について説明。

◇主な質疑・意見等

- 次回の検討会議の際には、第 2 ステップに入る際の方向性を提案してほしい。
(回答：次のステップに進めるためには何が適当なのかを考える時期にきていると思うため、相談させてほしい。)

iv) 個別部会等からの報告

① 厳冬期の知床五湖エコツアー事業

平成 29 年度厳冬期の知床五湖エコツアー事業実施報告（資料 4-1）について説明。

◇主な質疑・意見等

- 今年度も自主除雪を継続すると聞いたが、道路を開放せずに自主除雪でやっていけるのか。

(回答：自主除雪をしながらでも事業を継続していきたい。知床財団、環境省の考え方に重きをおいて進めていく。)

② カムイワッカ地区における取組

斜里町よりカムイワッカ地区における取組の進捗状況について（資料 4-2）説明。

◇主な質疑・意見等

- 利用の開始前には何らかの点検等を実施した上で公的な利用を開始しているのか。

(回答：利用前に現地の状況確認を行っている。)

③ 知床五湖地区における取組

環境省より知床五湖地区における取組の進捗状況について（資料 4-3）説明。

◇主な質疑・意見等

無し

④ ウトロ海域における取組

環境省よりウトロ海域における取組の進捗状況について（資料 4-4）説明。

◇主な質疑・意見等

- 知床ウトロ海域環境保全協議会より、この検討会議に構成員として出席する事を皆さんに賛同してほしい。

(環境省：実際に知床ウトロ海域環境保全協議会として様々な取り組みをしている。地域関係団体として入っていただければありがたい。)

v) 長期モニタリングについて

① 長期モニタリング計画の見直しについて

環境省より長期モニタリングの評価指標及び評価基準等の見直しについて（案）（資料 5-1-1）、長期モニタリング計画に基づくモニタリング項目の評価（改定イメージ）（資料 5-1-2）について説明。

◇主な質疑・意見等

- 座長：長期モニタリングの評価に関わる検討は、ワーキンググループの専門家と事務局で行いたい。客観性があるという考えからであり、結果は構成員の皆さんに示す。

◇主な質疑・意見等

無し

② 第41回世界遺産委員会決議の対応について

環境省より第41回世界遺産委員会決議に係る対応について（資料5-2）を説明。

◇主な質疑・意見等

無し

③ 知床五湖の外来種について

中川委員より知床五湖一湖の外来種園芸スイレンの生育拡大を説明。

（環境省より回答：専門家に助言をもらった上で在来種のために全部取り除くのか、開拓の歴史を踏まえたものとして残すのかを検討していきたい。）

◇主な質疑・意見等

無し

④ ヒグマの問題について

知床斜里町観光協会松田氏よりヒグマの行動の変化等について説明。エコツーリズム推進法が適用できないかという提案。

（環境省：エコツーリズム推進法を活用できれば法律に位置付けられる。地元自治体や観光事業者などが主体となるため、地元で調整しながら進められれば良いと思う。）

◇主な質疑・意見等

- エコツーリズム推進法では、ガイド付きのツーリズムを対象としており、一般のツーリズムツアーを対象とはしていない。斜里側で全面的に適用されることは難しいのではないか。

⑤ 知床財団よりヒグマに関する話題提供（資料「知床半島のヒグマの現状」）

◇主な質疑・意見等

- 真剣に危険な事態を回避する事を考えるのであれば、対策を取る必要がある。
- 個人のマナーや自覚を期待しては上手くいかない。実効性のある人間行動の規制を具体化、明確にしていく必要がある。
- ヒグマの順化は確実に進行する。人間がいる限り人間とヒグマの接触がある限り確実に進行する。
（環境省：新しい枠組みの下で具体的な検討を始める。）

(6) 出席者名簿

平成30年度 第1回 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議						
出席者名簿			〔 日 時：平成30年9月27日（木）13時30分～16時00分 場 所：羅臼町公民館 2階大集会室 〕			
機 関 名	職 名	氏 名	機 関 名	職 名	氏 名	
【委員】 5名			【関係行政機関】 7名			
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 知床マネジメント領域	教 授	敷田 麻実	斜里町 総務部 環境課	課長	増田 泰	
北海道大学大学院 農学研究院 生物資源生産学部門	准 教 授	愛甲 哲也	斜里町 総務部 環境課 自然環境係	係長	玉置 創司	
弘前大学農学生命科学部附属 白神自然環境研究センター	教 授	石川幸男<欠>	斜里町 産業部 商工観光課	課長	河井 謙	
専修大学 経済学部	教 授	小林 昭裕	斜里町 産業部 商工観光課 観光係	係長	三嶋 慎太郎	
北海道大学	准 教 授	庄子康<欠>	羅臼町	町長	湊屋 稔	
公益財団法人 知床自然大学院大学 設立財団	業務執行理事	中川 元	羅臼町 産業創生課	産業創生係長	遠嶋 伸宏	
北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 環境科学研究センター	自然環境部長	間野 勉	羅臼町 産業創生課		川上 莉佳	
【地域関係団体】 20名			【事務局】 13名			
知床斜里町観光協会	事務局長	喜來 規幸	環境省 釧路自然環境事務所	所長	安田 直人	
知床斜里町観光協会	理事	松田 光輝	環境省 釧路自然環境事務所	次長	徳田 裕之	
知床羅臼町観光協会	会長	平原 英雄	環境省 釧路自然環境事務所	国立公園課長	松尾 浩司	
知床羅臼町観光協会	事務局次長	若林 育代	環境省 釧路自然環境事務所	自然保護官	高辻 陽介	
知床羅臼町観光協会	役員	後藤 菜生子	環境省 釧路自然環境事務所	係員	平田 つかさ	
(公財) 知床財団	理事	佐々木 泰幹	環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席自然保護官	山本 豊	
(公財) 知床財団	事務局長	山中 正実	環境省 羅臼自然保護官事務所	自然保護官	守 容平	
(公財) 知床財団	事務局次長	寺山 元	林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	所長	福川 著	
(公財) 知床財団	事務局次長	田澤 道広	林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	専門官	早川 悟史	
(公財) 知床財団	係長	坂部 皆子	林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	森林技術指導官	林 裕之	
(公財) 知床財団		茂木 三千郎	北海道 環境生活部 環境局 生物多様性保全課	主事	杉本 慎平	
ウトロ地域協議会	会長	桑島 繁行	北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 知床分室	主幹(知床遺産)	大道 具一	
ウトロ地域協議会	理事	松本 鉄男	北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課	主事	大島 浩樹	
知床ガイド協議会	会長	岡崎 義昭				
斜里山岳会	会長	遠山 和雄	【提案者】1名			
羅臼山岳会	事務局	石田 理一郎	知床羅臼フットバスクラブ		村田 泰次郎	
羅臼遊漁釣り部会	会員	野田 克也				
羅臼遊漁釣り部会	事務局	天野 美樹	【オブザーバー】1名			
知床自然保護協会		<欠 席>	国土交通省 北海道運輸局 釧路運輸支局	首席運輸企画専門 官(総務企画担当)	山崎 貴志	
知床小型観光船協議会	事務局	神尾 昇勝				
知床羅臼観光船協議会	会長	長谷川 正人				
(一財) 自然公園財団 知床支部		<欠 席>				

(7) 第1回適正利用・エコツーリズム検討会議 開催状況



4-2-3 平成30年度第2回エコツーリズム検討会議 会議概要

(1) 開催日時

平成31年2月28日(木) 13:30~16:00

(2) 開催場所

中標津総合文化会館しるべっと コミュニティホール
(中標津町東2条南3丁目1番地1)

(3) 出席者

委員 5名
地域関係団体 14名
関係行政機関 4名
事務局 17名
オブザーバー 2名
計 42名

(4) 議事

- i) 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況
- ii) 実施部会等からの報告
 - ① 赤岩地区昆布ツアー部会(前回質問事項への回答を含む)
 - ② 外国人旅行者向け情報発信の強化部会
- iii) 個別部会等からの報告
 - ① 厳冬期の知床五湖エコツアー事業
 - ② 知床五湖地区における取組
 - ③ カムイワッカ地区における取組
 - ④ ウトロ海域における取組
- iv) その他
 - ① 平成30年度知床国立公園の利用状況調査結果(暫定版)について
 - ② 長期モニタリング計画の見直しについて
 - ③ 第41回世界遺産委員会決議の対応について
 - ④ ヒグマ対策に関する検討状況と適正利用・エコツーリズム検討会議の対応について
 - ⑤ 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議設置要綱等の改定について

(5) 議事概要

i) 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況

北海道より知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況（資料1）について説明。

◇主な質疑・意見等

無し

ii) 実施部会からの報告

① 赤岩地区昆布ツアー一部会（前回質問事項への回答も含む）

知床羅臼町観光協会より平成30年度赤岩地区昆布ツアー（知床岬399番地上陸ツアー）実施報告（資料2-1-1）、赤岩地区昆布ツアー（知床岬399番地上陸ツアー）資料（資料2-1-2）について説明。

◇主な質疑・意見等

- 赤岩での昆布番屋が実際には操業を辞めたため、想定していたツアーと違うのではないか。
(回答：番屋は使用されなくなったが、赤岩は昆布の一大生産地であり昆布漁は行われている。当初のツアー内容から変更はない。)
- 前回会議で意見のあったツアー名称について、上陸が目的ではなく、昆布漁見学もしくは昆布漁及び番屋の見学をすることが目的のツアーだということが分かるような名称とするべき。
(回答：検討する。)

② 外国人旅行者向け情報発信の強化部会

知床財団より「外国人旅行者向け情報発信の強化」部会解散について（資料2-2-1）、エコツーリズム検討会議への提案書（成果コメント付き）（資料2-2-2）、これまでの活動経過（2015-2019年）（資料2-2-3）、各団体の平成30年度関連事業一覧（資料2-2-4）について説明。

◇主な質疑・意見等

- これまで作った資産を活かす方針について考えはあるか。
(回答：更新者を多様にして発展していければ良い。今後は交通情報等の利便性や危機管理情報などの様々な案件を扱い、予算の出どころを探して発展していく段階である。)

iii) 個別部会等からの報告

① 厳冬期の知床五湖エコツアー事業（除雪に関する検討の報告を含む）

知床斜里町観光協会より平成30年度知床五湖冬期ツアー事業の実施状況（資料3-1）、知床五湖地区における取組の進捗状況（資料3-2）について説明。

斜里町より除雪に関する検討について説明。

◇主な質疑・意見等

- 冬の通行を制限できる社会的、対外的に説明が付くような理由があれば良い。
- ある程度は道路管理者で通行の制限ができるのではないか。

（回答：今後も検討を進めていくが、道路管理者や警察からは過剰な利用の無い所では調整をかけることができないと言われている。）

① 知床五湖地区における取組

環境省より知床五湖地区における取組の進捗状況（資料3-2）について説明。

② カムイワッカ地区における取組

斜里町よりカムイワッカ地区における取組の進捗状況（資料3-3）について説明。

③ ウトロ海域における取組

知床ウトロ海域環境保全協議会よりウトロ海域における取組の進捗状況（資料3-4）について説明。

◇主な質疑・意見等

- 知床ウトロ海域環境保全協議会ではガイドブック改訂版を作成予定と聞いた。自主資金で計画を進めているのか。

（回答：現在はまだ自主資金に余裕があるため、それを利用して行いたい。）

iv) その他

① 平成30年度の知床国立公園の利用状況結果（暫定版）について

環境省より平成30年度の知床国立公園の利用状況調査結果（暫定版）（資料4-1）について説明。

◇主な質疑・意見等

- 羅臼地区観光船の利用者が3万人を越えたが、乗船率を教えてください。

（回答：後ほど報告する。）

② 長期モニタリング計画の見直しについて

環境省より長期モニタリング評価指標及び評価基準の見直し（資料4-2-1）、

適正利用・エコツーリズム WG 担当 新評価シート（資料 4-2-2）について説明。

◇主な質疑・意見等

無し

③ 第 41 回世界遺産委員会決議の対応について

環境省より第 41 回世界遺産委員会決議に係る知床の保全状況報告（本文）（資料 4-3）について説明

◇主な質疑・意見等

無し

④ ヒグマ対策に関する検討状況と適正利用・エコツーリズム検討会議の対応について

北海道よりヒグマによる人身事故の早急な回避を実現していくための「新たな場」に関する知床ヒグマ対策連絡会議としての検討結果（資料 4-4）について説明。

斜里町よりヒグマによる人身事故の早急な回避を実現していくための会議（概要版）（資料 4-4 添付）について説明。

羅臼町、標津町より両町の対応について説明。

◇主な質疑・意見等

- 昨年、緊急を要する課題ということで「新たな場」を早急に設け、具体的な対策が必要だということであった。また、次にヒグマが出るシーズンまでに何らかの方策がまとまるのか。
- ヒグマ対応で「これをすれば来年から事故が起きなくて済むぞ。」というような特効薬はない。
- エコツーリズム検討会議が対応しなければ、皆がリスクを認知していたのに見て見ぬふりをしていたと、最悪の事態が起きた場合に、やはり不作為の作為という責任を我々自身も多かれ少なかれ問われるだろう。
- 現実問題として非常に差し迫った問題は斜里町では沢山起きており、顕在化してない羅臼町、標津町であっても、「このまま管理計画に則ってきちんとやっていたら大丈夫。」ということにもならない。
- ヒグマ管理計画では人間側の行動についての対応策ではまだ不足なこともある。ルールで対応するのは時間がかかるが、それ以外にもやれることはたくさんある。
- これまでのように利用自体がけしからんと言う主張では話が先に進まない。観光利用を容認した上で、最善の対策を取って行くことが必要である。

- ヒグマ対応への考え方は、町によってかなりの温度差がある。

⑤ 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議設置要綱等の改正について

環境省より知床世界自然遺産地域連絡会議 適正利用・エコツーリズム部会設置要綱（資料 4-5-1）、知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の設置（資料 4-5-2）、知床エコツーリズム戦略（参考資料 1）、知床エコツーリズム戦略 付属資料（参考資料 2）、北海道知床世界自然遺産条例の概要（参考資料 3）について説明。

◇主な質疑・意見等

無し

(6) 出席者名簿

平成30年度 第2回 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議

出席者名簿

日 時：平成31年2月28日（木）13時30分～16時00分
場 所：中標津町文化会館 1階コミュニティホール

機 関 名	職 名	氏 名	機 関 名	職 名	氏 名
【委員】 5名			【関係行政機関】 4名		
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 知識マネジメント領域	教授	敷田 麻実	斜里町 総務部 環境課	課長	増田 泰
北海道大学大学院 農学研究院 生物資源生産学部門	准教授	愛甲 哲也	斜里町 総務部 環境課 自然環境係	係長	玉置 創司
弘前大学農学生命科学部附属 白神自然環境研究センター	教授	石川幸男<欠>	斜里町 産業部 商工観光課	課長	河井 謙
専修大学 経済学部	教授	小林 昭裕	羅臼町 産業創生課 産業創生係	係長	遠嶋 伸宏
北海道大学	准教授	庄子康<欠>			
公益財団法人 知床自然大学院大学 設立財団	業務執行理事	中川 元	【事務局】 17名		
北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 環境科学研究センター	自然環境部長	間野 勉	環境省 釧路自然環境事務所	所長	安田 直人
			環境省 釧路自然環境事務所	次長	徳田 裕之
【地域関係団体】 14名			環境省 釧路自然環境事務所	国立公園課長	松尾 浩司
知床斜里町観光協会	統括部長	新村 武志	環境省 釧路自然環境事務所	自然保護官	高辻 陽介
(一社) 知床羅臼町観光協会	会長	平原 英雄	環境省 釧路自然環境事務所	係員	平田 つかさ
(一社) 知床羅臼町観光協会	事務局長	若林 育代	環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席自然保護官	山本 豊
(公財) 知床財団	事務局次長	寺山 元	環境省 羅臼自然保護官事務所	自然保護官	守 容平
(公財) 知床財団	事務局次長	田澤 道広	林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	所長	稲川 著
(公財) 知床財団	係長	秋葉 圭太	林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	専門官	早川 悟史
(公財) 知床財団	係長	坂部 皆子	林野庁 北海道森林管理局 根釧東部森林管理署	次長	横山 宏幸
ウトロ地域協議会	副会長	桜井 宏	林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	森林技術指導官	林 裕之
知床ガイド協議会		<欠 席>	北海道 環境生活部 環境局 生物多様性保全課	主事	杉本 慎平
斜里山岳会	会長	遠山 和雄	北海道 経済部 観光局	主任	佐々木 啓一朗
羅臼山岳会	会長	佐々木 泰幹	北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 知床分 室	主幹(知床遺産)	大道 具一
羅臼遊漁釣り部会	会員	野田 克也	北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課	主査(自然環境)	小俣 徳弘
知床自然保護協会		<欠 席>	北海道 根室振興局 保健環境部 環境生活課	係長	久米 孝裕
知床小型観光船協議会		<欠 席>			
知床羅臼観光船協議会	会長	長谷川 正人	【オブザーバー】 2名		
知床ウトロ海域環境保全協議会	事務局長	福田 佳弘	国土交通省 北海道運輸局 釧路運輸支局	首席運輸企画専門 官(総務企画担当)	山崎 貴志
(一財) 自然公園財団 知床支部	所長	古坂 博彰	標津町 農林課 林務係	主事	長田 雅裕

(7) 第2回適正利用・エコツーリズム検討会議 開催状況



4-2-3 平成30年度第1回エコツーリズムワーキング 会議概要

(1) 開催日時

平成30年9月27日(月) 10:00~12:00

(2) 開催場所

羅臼町公民館 2階大集会室(羅臼町栄町102)

(3) 出席者

委員 5名

地元自治体 4名

事務局 12名

オブザーバー 1名

計 22名

(4) 議事

i) 長期モニタリング計画の見直しについて

① これまでの経過と科学委員会での判断

② 新しいモニタリングの考え方の導入

ii) 適正利用・エコツーリズム検討会議の今後のビジョンについて

iii) その他

(5) 議事概要

i) 長期モニタリング計画の見直しについて

環境省より長期モニタリングの評価指標及び評価基準等の見直しについて(案)

(資料1-1)、長期モニタリング計画に基づくモニタリング項目の評価(改定イメージ)(資料1-2)について説明。

敷田座長、愛甲委員より補足説明。

◇主な質疑・意見等

- 長期モニタリング中間総括評価の評価欄にある「社会」はどのような位置付けなのか。
- 今後の改定に向けて「社会」をどういう扱いにするか議論するべき。社会経済的な部分や観光業等も含めた評価をするのかについても議論するべき。
- (座長) エコツーリズムWGではいわゆる「社会」部分は扱わない。科学委員会で確認の上、社会データをどのように調査項目の中で整理するかは今後考える。科学委員会での相談と決定が必要である。
- ヒグマとの軋轢を減らすための様々な手立てや体制の負担は、見過ごせ無いレベルまできている。管理コストも「社会」に含まれるのではないか。

- 知床エコツーリズム戦略への適合状況を評価する上で、戦略以外の利用は母数が分からなくては評価にならない。
- 従来から行われている利用や提案されていないものに対して何も言えなくなってしまうというのは問題である。
- 起きてしまった不適切な結果や知床エコツーリズム戦略に背くような利用の顛末は、必ず社会的に問題化するはずである。そういうものを指標化して、増えているのか減っているのかをモニタリングする。
- 数値化する等の定量的な指標だけでは無く、定性的な行動の変化を評価するということがとても重要である。
- 他の WG では WG だけで評価を行っているが、エコツーリズム WG だけはエコツーリズム検討会議で議論している。本当にそれで良いのか。
- 「管理」と言ってしまうと関係機関がやる事というような解釈にならないか。「管理と取り組み」等に言葉を変えても良いのではないか。
- これまでのモニタリングは受益者側の動きや数を評価してきた。サービスを提供する側は、管理者と事業者を一緒にして初めて受益者の行動や数につながる。

ii) 適正利用・エコツーリズム検討会議の今後のビジョンについて

敷田座長より平成 29 年度第 2 回エコツーリズム検討会議の参加者アンケート(資料 2-1) について説明。

環境省より適正利用・エコツーリズム関係の各種計画・会議関係図(資料 2-2) について説明。

◇主な質疑・意見等

- 「知床エコツーリズム推進計画」と「知床エコツーリズム推進実施計画」は知床データセンターには残っている。文章中の考え方は知床エコツーリズム戦略で大部分が拾えていると考えて良いのか。どういう扱いをすれば良いのか。
- 普及啓発や人材育成等、エコツーリズム推進協議会で考えて行ってきた事が、現在エコツーリズム検討会議で発信できているのか。
- 提案されて認証されたものに対して、現状では何もメリットがない。認めたものを積極的に応援してはどうか。
- 推進実施計画が廃止されて新しい振興ビジョンのようなものの方向性がまとめられると良い。
- アンケートの結果には具体的にどんな記載があったのかを教えて欲しい。

iii) その他

環境省より小林委員の「モーリー」掲載記事(参考資料 7) を紹介。

◇主な質疑・意見等

- 共有した方が良い資料があれば、WG 委員、斜里町、羅臼町からも出してほしい。

(6) 出席者名簿

平成30年度 第1回 知床世界自然遺産地域科学委員会 適正利用・エコツアーリズムワーキンググループ

出席者名簿

〔 日 時：平成30年9月27日（木）10時00分～12時00分
場 所：羅臼町公民館 2階大集会室 〕

所 属 名	職 名	氏 名
【委員】		
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 知識マネジメント領域	教 授	敷田 麻実
北海道大学 大学院 農学研究院 生物資源生産学部門	准 教 授	愛甲 哲也
専修大学 経済学部	教 授	小林 昭裕
公益財団法人 知床自然大学院大学設立財団	業務執行理事	中川 元
北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 環境科学研究センター	自然環境部長	間野 勉
【地元自治体】		
斜里町 総務部 環境課	課長	増田 泰
斜里町 総務部 環境課 自然環境係	係長	玉置 創司
羅臼町 産業創生課	産業創生係長	遠嶋 伸宏
羅臼町 産業創生課		川上 莉佳
【事務局】		
環境省 釧路自然環境事務所	所長	安田 直人
環境省 釧路自然環境事務所	次長	徳田 裕之
環境省 釧路自然環境事務所	国立公園課長	松尾 浩司
環境省 釧路自然環境事務所	自然保護官	高辻 陽介
環境省 釧路自然環境事務所	係員	平田 つかさ
環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席自然保護官	山本 豊
環境省 羅臼自然保護官事務所	自然保護官	守 容平
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	所長	稲川 著
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	専門官	早川 悟史
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	森林技術指導官	林 裕之
北海道 環境生活部 環境局 生物多様性保全課	主事	杉本 慎平
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 知床分室	主幹（知床遺産）	大道 具一
【オブザーバー】		
国土交通省 北海道運輸局 釧路運輸支局	首席運輸企画専門官	山崎 貴志

計 22名

(7) 第1回適正利用・エコツーリズムワーキング 開催状況



4-2-4 平成30年度第2回エコツーリズムワーキング 会議概要

(1) 開催日時

平成31年2月28日(木) 10:00~12:00

(2) 開催場所

中標津総合文化会館しるべっと コミュニティホール
(中標津町東2条南3丁目1番地)

(3) 出席者

委員 5名

地元自治体 3名

事務局 13名

オブザーバー 1名

計 22名

(4) 議事

i) 長期モニタリング計画の見直しと科学委員会への提案について

ii) 適正利用・エコツーリズム検討会議部会への委員参加について

iii) その他

① 知床国立公園利用のあり方に関する懇談会について

② 適正利用・エコツーリズムワーキンググループ 設置要綱の改定について

(5) 議事概要

i) 長期モニタリング計画の見直しと科学委員会への提案について

長期モニタリング評価指標及び評価基準等の見直しについて(資料1-1)、適正利用・エコツーリズムWG担当 新評価シート(案)(資料1-2)、長期モニタリング評価指標及び評価基準等の見直しについての意見整理表(資料1-3)について説明。

◇主な質疑・意見等

- No.19c 評価シートでは、知床五湖冬期利用は取り上げないということだが、斜里町で利用が右肩上がりに伸びているため、モニタリングの対象にするべき。
(回答:部会での報告があるため入れない整理をしていた。入れたほうが良ければ入れても構わない。)
- 現実に問題となっているのは、利用者数の把握できない釣り人の増加である。
- モニタリング方法には実際には様々な問題がある。
- No.19c 評価シートの項目が多くなり過ぎると別紙となってしまう。

- モニタリング集計根拠や問題点、課題等を書いておく注釈を含めて下部に書く欄を作ると良い。
- 周辺地域の規制変化の情報も書いてはどうか。
- 科学委員会へ提出するものは、どれが増えてどれが減ったかさえ分かっているれば良い。調査方法やその変更については、エコツーリズム WG やエコツーリズム検討会議で議論すれば良い。
- No.19c のダイナビジョン利用者数を除外して欲しくない。遺産センターやビジターセンター等の施設ができたため、かつてほどの役割は無いかもしれないが調整機能は果たしていると思う。
- 性質的にはダイナビジョンはNo.19a の管理に近い。
- 不適切な利用に対する評価は、評価シート No.19a の(1)または(2)のどちらに位置づけるのか。
- No.19b②と③の質問を、もう少し具体的に書くのはどうか。不適切な利用や観光客の行動なども含めて書いてもらうようにすると、懸念される事例はたくさん集まるのではないか。
- インパクトのデータとして扱うか、管理の課題として扱うかを整理すれば良いのではないか。
- 長期モニタリングの項目に入れるのか、短期的なものとしてエコツーリズム WG で取扱うのかを議論してはどうか。
- 問題意識を持って、どういう形で指標化する必要があるのか、指標化することには意味があるということの関係者間で共通認識を持って調整していくべきである。
- 将来的にカウントできそうな懸念報告等を考えるのは良いが、現状ではデータの扱いが難しいためNo.19b の管理に関する懸念報告で扱ってはどうか。
- 科学委員会全体で統括している有効な指標について、必要なものは共有して評価し、それらの枠組みや指標の位置付けについても分かるようにしておいてほしい。
- エコツーリズム WG、科学委員会それぞれが何処から何処まで評価を行うのか整理がついていない。
- ヒグマとの軋轢や人身事故のリスクを無くすには、エゾシカ・ヒグマ WG とエコツーリズム WG で一緒に議論できれば良い。
- 道の駅など直接環境に影響をしないような施設では、「No.19b 聞き取り調査用シート」の「②利用者数、客層の状況についてお伺いします。」という部分に「行動」も入れて、観光客の行動に気になる変化が現れてないかどうかを関係機関等、事業者を含めて書いてもらうのはどうか。

ii) 適正利用・エコツーリズム検討会議部会への委員参加について

環境省より適正利用・エコツーリズム検討会議部会への委員参加について（資

料 2-1)、知床エコツーリズム戦略等における専門家の位置づけ整理表(資料 2-2) について説明。

◇主な質疑・意見等

- エコツーリズム戦略でいう「直接的な利害が関係しない」ということは明らかではないが、専門家が全く知床に関与しないというのは知床の専門家ではなくなるというような自己矛盾を起こす。
- (座長) 専門家には参加したくないと言う自由は残されている。しかし、私達エコツーリズム WG メンバーは依頼があれば検討するということをお願いしたい。
- 知床観音岩 COST WAY フットパスコース部会は小林委員に担当していただけるか。(承知した。)

iii) その他

環境省より知床エコツーリズム戦略事務取扱要領(参考資料 6)について説明。

◇主な質疑・意見等

無し

iii) その他

北海道運輸局釧路運輸支局より北海道観光を変える Adventure Travel (参考資料 7) について説明。

◇主な質疑・意見等

- 分野の違いはあると思うが、国の機関が別々に動くのではなく、世界遺産や国立公園でどう受入れるかという部分も横の連携を取って話をしてもらいたい。(環境省より回答: 少なくとも道東の 3 公園は連携していく必要性があると思っている。北海道運輸局と話をしながら進めていきたい。また、ATTA やプロモーションなどにも環境省が参加しているため、十分に情報交換しながら進めていきたい。)
- 現状ではヒグマは観察対象としての体制が整っていない。パンフレットなどに使われる場合は他の動物の写真が良いのではないか。

iii) その他 (1) 知床国立公園利用のあり方に関する懇談会について

環境省より知床国立公園利用のあり方に関する懇談会 これまでの経過と今後の予定(資料 3-1) について説明。

◇主な質疑・意見等

- 2月19日の会議で、最終的に先端部の利用を進める上ではしっかりした制度やルールが必要だという話になった。羅臼町からは先端部のトレッキングについて安全管理の面でも利用調整地区制度の適応が必要だという話が出た。
- 利用と保全という2つの大きな柱が環境省にはあり、その2つの軋轢部分を調整していく必要がある。知床の望ましい観光利用を推進して行くにはきちんと議論する必要がある。
- 環境教育を含めて、その場所でどういうレクチャーを受けるのか。レクチャーではどういう教育サービスをするのか。教育サービスのあり方をどういうシステムで作るのかなどはこれまで十分に議論していなかった。
- ヒグマの対応について、人命に関わるということが理由であれば、この場の議論を待たずに地元自治体、国、行政の責任において議論や対策が行われるべきである。
- エコツーリズム戦略と国立公園管理計画の改定が必要である。国立公園管理計画の改定の際は、エコツーリズム戦略の基本原則のようなものを管理計画に盛り込んでいただきたい。
- 先端部の問題をこのまま置いておいて良いのか。知床エコツーリズム戦略、管理計画の改定の検討は今後何年間もかかかると思う。
- 議論は継続して行う必要がある。

(6) 出席者名簿

平成30年度 第2回 知床世界自然遺産地域科学委員会 適正利用・エコツーリズムワーキンググループ		
出席者名簿		
(日 時：平成31年2月28日(木) 10時00分～12時00分 場 所：中標津町文化会館 1階コミュニティホール)		
所 属 名	職 名	氏 名
【委員】		
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 知識マネジメント領域	教 授	敷田 麻実
北海道大学 大学院 農学研究院 生物資源生産学部門	准 教 授	愛甲 哲也
専修大学 経済学部	教 授	小林 昭裕
公益財団法人 知床自然大学院大学設立財団	業務執行理事	中川 元
北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 環境科学研究センター	自然環境部長	間野 勉
【地元自治体】		
斜里町 総務部 環境課	課長	増田 泰
斜里町 総務部 環境課 自然環境係	係長	玉置 創司
羅臼町 産業創生課 産業創生係	係長	遠嶋 伸宏
【事務局】		
環境省 釧路自然環境事務所	所長	安田 直人
環境省 釧路自然環境事務所	次長	徳田 裕之
環境省 釧路自然環境事務所	国立公園課長	松尾 浩司
環境省 釧路自然環境事務所	自然保護官	高辻 陽介
環境省 釧路自然環境事務所	係員	平田 つかさ
環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席自然保護官	山本 豊
環境省 羅臼自然保護官事務所	自然保護官	守 容平
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	所長	稲川 著
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	専門官	早川 悟史
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	森林技術指導官	林 裕之
北海道 環境生活部 環境局 生物多様性保全課	主事	杉本 慎平
北海道 経済部 観光局	主任	佐々木 啓一朗
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 知床分室	主幹(知床遺産)	大道 具一
【オブザーバー】		
国土交通省 北海道運輸局 釧路運輸支局	首席運輸企画専門官	山崎 貴志
計 22名		

(7) 第2回適正利用・エコツーリズムワーキング 開催状況



平成 30 年度 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 請負業務

事業名： 知床国立公園適正利用等検討業務

事業期間： 平成 30 年 6 月 19 日～平成 31 年 3 月 22 日

事業実施者： 環境コンサルタント株式会社

北海道釧路郡釧路町中央 6 丁目 15 番地 2

☎088-0606 電話番号 0154-40-2331

リサイクル適正の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[A ランク]のみを用いて作製しています。